母代寺土居屋敷遺跡

――野市町立佐古小学校グラウンド拡張整備事業に伴う発掘調査報告書 ――

2010.3

香南市教育委員会

母代寺土居屋敷遺跡

――野市町立佐古小学校グラウンド拡張整備事業に伴う発掘調査報告書 ――

2010.3

香南市教育委員会

巻頭写真1



SE1 遺物出土状況



SE1 出土土師器 小皿・椀・坏

巻頭写真2



SE1





SS1(SK7上面) SE1





SK7 SE1 東包含層

布目瓦 (軒平瓦・軒丸瓦)

香南市は、平成18年3月に、赤岡町・香我美町・野市町・夜須町・吉川村の5町村が手をつなぎ合併したまちです。青い空・碧い海・深い緑、そして実り豊かな大地と温暖な気候風土の恩恵を受け、早くから先人達が歴史を創ってきた地域です。

遺跡は大地に刻み込まれた歴史そのものであり、私たちの祖先の偽らざる営みを今日に伝えるかけがえのない遺産です。平成21年4月に開設しました香南市文化財センターでは、遺跡の発掘調査や整理作業を行うとともに、市内で発掘した数多くの土器等の遺物を展示し一般に公開しております。広く市内外の方々に香南市の歴史や文化に触れることにより感心を持っていただき、大切な遺産である埋蔵文化財を後世に伝えていく重要な施設であると考えております。

この母代寺土居屋敷遺跡のある野市町は、香南市で最も遺跡が集中した地域であり、 県都である高知市のベッドタウンとして宅地開発が進み、合併以前から盛んに発掘調査 が行われてきました。

本遺跡は、平安時代の終わりから鎌倉時代前半を中心とした屋敷跡であり、中でも鎌倉時代の井戸から出土した土師器や布目瓦などの一括遺物は、井戸廃絶に伴う祭祀に関する資料として注目されています。

本書は、香南市の歴史を広く知っていただくとともに、埋蔵文化財に対する一層のご 理解をいただきますことを願って刊行するものです。文化財保護の資料として広く活用 されれば幸いです。

最後になりましたが、高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センターをはじめ多数の 方々のご協力をいただいたことに心からお礼申し上げます。

平成22年3月

高知県香南市教育委員会 教育長 島 﨑 隆 弘

例 言

- 1. 本書は、野市町(現香南市)教育委員会が平成12年度に実施した野市町立佐古小学校グラウンド拡張整備事業に伴う母代寺土居屋敷遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2. 母代寺土居屋敷遺跡は、高知県香南市野市町母代寺88番地他に所在する。
- 3. 試掘調査は平成12年11月13日から12月27日にかけて実施し、本発掘調査は平成13年1月9日から4月9日にかけて実施した。

4.調查対象面積 5,700㎡ 試掘調查面積 520㎡ 本発掘調查面積 3,000㎡

おりである。

5. 試掘調査・本発掘調査時(平成12年度)の調査体制は以下のとおりである。

岩河 邦明

6. 母代寺土居屋敷遺跡の整理作業及び報告書作成作業は平成20年度まで更谷大介(香南市教育委員会生涯学習課嘱託)および溝渕真紀(同)が担当、遺物の観察や点検作業については出原恵三・下村裕(高知県埋蔵文化財センター)、松田直則(高知県教育委員会文化財課埋蔵文化財チーフ)の協力を得た。平成21年度の報告書作成作業は、松村信博(香南市文化財センター主任調査員)と宮地啓介(香南市文化財センター嘱託)が20年度までの成果を引き継ぎ、分担して行った。7. 報告書刊行時(平成21年度)の香南市教育委員会生涯学習課文化振興保護係の体制は以下のと

課 長 吉田 豊 嘱託職員 宮地 啓介 長 山本 八也 臨時職員 小松 経子 主任調查員 松村 信博 宮本 幸子 監 水田 紀子 主 竹中 ちか 主 伊野 広高 福島 賀代子 幹

- 8. 本書の編集は松村が行った。執筆分担は以下の通りである。第 I ~ Ⅲ章・V章(松村)、第 Ⅲ章・IV章(宮地)。なお第 Ⅱ章および第 Ⅲ章遺物観察表については更谷大介の原稿を基本とし、松村・宮地が加筆修正を加えている。
- 9. 発掘現場作業員は下記の方々である。精力的に作業に従事された方々に対し、記して敬意を表す。(敬称略)

貞岡重道・佐野宣重・橿尾俊喜・河村みさ子・新宅広子・佐合祥子

9. 重機による表土剥ぎ、排土運搬、埋め戻しについては清藤勝秀氏の便宜、助力を得た。

10. 遺物整理、報告書作成においては下記の方々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。(敬称略)

小松経子・宮本幸子・水田紀子・福島賀代子・佐々木志穂・宮地佐枝

11. 下記の方々には現地での調査、報告書作成過程を通じて貴重なご助言・ご教示をいただいた。 記して感謝する次第である。(敬称略・所属は2009年度)

出原恵三・吉成承三・池澤俊幸・下村裕(以上高知県埋蔵文化財センター)・松田直則(高知県 教育委員会文化財課)・浜田恵子(高知市教育委員会)

また、出土木製品についての樹種鑑定及び保存処理を(株)吉田生物研究所に依頼した。

12. 出土遺物、写真その他図面類の関係資料は香南市文化財センター(香南市香我美町山北1553-1) で保管している。

本文目次

第Ι	章	Ī	調査	の経緯及び方法
	第	1 í	節	調査の経緯
	第	2 í	節	試掘調査
	第	3 í	節	調査の経過
	第	4 í	節	調査の方法
第Ⅱ	章	j	遺跡	周辺の地理的歴史的環境
	第	1 í	節	地理的環境9
	第	2 í	節	歴史的環境
	第	3 í	節	母代寺土居屋敷遺跡と周辺の遺跡14
第Ⅲ	章	Ē	調査	の成果
	第	1 í	節	I 区······15
			1.	基本層序16
			2.	遺構と遺物
			(1)	集石遺構 (SS)
			(2)	井戸 (SE)
			(3)	土坑 (SK)
			(4)) 溝(SD)
			(5)	掘立柱建物 (SB)・柵列 (SA)・柱穴等 (P)
			(6)	下層の遺構・土取り跡
			(7)	下層の遺構・自然流路 (SR)
			(8)	包含層出土遺物
	第	2 í	節	Ⅱ 区
			1.	基本層序81
			2.	遺構と遺物82
			(1)	溝(SD)
			(2)	包含層出土遺物
第 IV	章	j	考察	
	7	母1	代寺	土居屋敷遺跡出土の貿易陶磁器(宮地)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第 V	章	7	まと	Ø)
	7	母1	代寺	土居屋敷遺跡の性格
第 VI	章	1	付編	自然科学分析
	ź	香ī	南市	野市町母代寺土居屋敷出土木製品の樹種調査結果-㈱吉田生物研究所-127

挿図目次

第1図 香南市及び母代寺土居屋敷遺跡位置図1
第2図 試掘トレンチ位置図2
第3図 試掘トレンチセクション図及び平面図 (S=1/80) ····································
第 4 図 調査区位置図6
第5図 I・Ⅱ区全体図と設定した4mグリッド (S=1/300) ·························7
第6図 母代寺土居屋敷遺跡周辺の地形と小字名(S=1/5,000)8
第7図 母代寺土居屋敷遺跡と高知平野東半の遺跡(S=1/50,000) ·······················11
第8図 母代寺土居屋敷遺跡と周辺の遺跡 (S=1/10,000) ·································
第9-1図 I区上段北壁セクション図(S=1/40) ······16
第 9 - 2 図 I 区下段東壁セクション図(S=1/80) · · · · · · · · · 17
第10図 I 区全体図・遺構配置図(S=1/250) ······18
第11図 集石遺構(SS1)遺物出土状況・平面・エレベーション図(S=1/50) ······ 19
第12図 集石遺構 (SS1) 出土遺物実測図1 (S=1/4) ····································
第13図 集石遺構(SS1)出土遺物実測図2(S=1/4) · · · · · · · 21
第14図 SE1 検出面及び1面目遺物出土状況 (S=1/20)・出土遺物実測図 (S=1/4) ······23
第15図 SE1 2面目遺物出土状況 (S=1/20)・出土遺物実測図1 (S=1/4)・土師器、瓦器 24
第16図 SE1 2面目出土遺物実測図2 (S=1/4)・須恵器25
第17図 SE1 2面目出土遺物実測図3(S=1/4)・瓦類1 ·························26
第18図 SE1 2面目出土遺物実測図4(S=1/4)・瓦類2 ··································27
第19図 SE1 2面目出土遺物実測図5 (S=1/4)・瓦類3 ························28
第20図 SE1 礫出土状況・平面・エレベーション図
及び 井戸枠 平面・側面図 (S=1/20) ·······29
第21図 SE1 完掘 平面・エレベーション図 (S=1/20)30
第22図 SE1 下層確認セクション図及び周辺遺構平面図 (S=1/40)
掘形出土遺物実測図(S=1/4) ······30
第23図 SE1 出土遺物(井戸枠-隅柱)実測図(S=1/6) ·······31
第24図 SE1 出土遺物 (井戸枠-横桟及び杭) 実測図 (S=1/6) ·······32
第25図 SK1~6平面・エレベーション図 (S=1/40) SK2・3出土遺物実測図 (S=1/4)35
第26図 SK7 遺物出土状況・平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図1 (S=1/4) …37

第27図	SK7 完掘状況・平面・エレベーション図(S=1/20)出土遺物実測図2(S=1/4) ·······38
第28図	SK7 出土遺物実測図3 (S=1/4)39
第29図	SK8・9 平面・エレベーション図 (S=1/40) SK9出土遺物実測図 (S=1/4) ·······40
第30図	SK10~13 平面・エレベーション図(S=1/40)SK12・13出土遺物実測図(S=1/4)…41
第31図	SK14・15 平面・エレベーション図(S=1/40)SK14出土遺物実測図(S=1/4) · · · · · · · · · 42
第32図	SK16 1面目遺物出土状況 平面・エレベーション図 (S=1/20)
	出土遺物実測図1(S=1/4) ······ 43
第33図	SK16 2面目遺物出土状況 平面・エレベーション図 (S=1/20)
	出土遺物実測図2(S=1/4) · · · · · · · · · 44
第34図	SK16 完掘状況 平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図3 (S=1/4)45
第35図	SK16 出土遺物実測図4 (S=1/4) 46
第36図	SK17 平面・エレベーション図 (S=1/40) ···················47
第37図	SD1~4 平面・エレベーション図(S=1/40)SD2・4出土遺物実測図(S=1/4) ·······49
第38図	SD5~9 平面・エレベーション図 (S=1/40) SD5出土遺物実測図 (S=1/4) ······51
第39図	SD10~13 平面・エレベーション図(S=1/40)SD10・13出土遺物実測図(S=1/4)52
第40図	SB1 平面・エレベーション図 (S=1/100)
第41図	SB1 出土遺物実測図(S=1/4)
第42図	SB2~4 平面・エレベーション図 (S=1/100)
第43図	SB5~7 平面・エレベーション図(S=1/100) ······55
第44図	SB7 出土遺物実測図(S=1/4)
第45図	SB8・SA1 平面・エレベーション図 (S=1/100)
第46図	I 区上段遺構と遺構 (ピット) 配置図 (S=1/160)
第47図	I 区下段北半部遺構と遺構 (ピット) 配置図 (S=1/160)
第48図	I 区下段南半部遺構と遺構 (ピット) 配置図 (S=1/160)59
第49図	ピット出土遺物実測図(S=1/4) · · · · · 60
第50図	I 区下層遺構位置図(S=1/200) ······61
第51図	土取り跡1~4 平面・エレベーション図 (S=1/40)
	土取り跡4 出土遺物実測図 (S=1/4) ·······62
第52図	SR1 平面・エレベーション図 (S=1/80)
第53図	SR2 平面・エレベーション図 (S=1/80) 出土遺物実測図 (S=1/4)64
第54図	SR3 平面・エレベーション図 (S=1/80) 出土遺物実測図 (S=1/4)65
第55図	I 区包含層出土遺物実測図1(S=1/4) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

第56図	I 区包含層出土遺物実測図2(S=1/4) · · · · · · · · 71
第57図	I 区包含層出土遺物実測図3(S=1/4) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第58図	I 区包含層出土遺物実測図4(S=1/4) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第59図	I 区包含層出土遺物実測図5(S=1/4) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第60図	I 区包含層出土遺物実測図6(S=1/4) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第61図	I 区包含層出土遺物実測図7(S=1/4) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第62図	I 区包含層出土遺物 (521・軒丸瓦) 出土状況 (S=1/20) 及び位置図 (S=1/250)80
第63図	Ⅱ 区北壁・南壁セクション図(S=1/50) ·················81
第64図	Ⅱ区全体図及び溝状遺構 平面・エレベーション図 (S=1/160) ·······83
第65図	Ⅱ区 SD15·17·21 出土遺物実測図 (S=1/4)84
第66図	Ⅱ 区包含層出土遺物 (S=1/4) ······86

表目次

表 1	母代寺土居屋敷と高祭	〒平野東半の遺跡	0
表 2	I区ピット計測表 ・	5	57
表 3	I区出土遺物観察表	(弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・陶磁器)	37
表 4	I区出土遺物観察表	(瓦類)	103
表 5	I区出土遺物観察表	(木製品)	04
表 6	I区出土遺物観察表	(石器・石製品・石鍋・土錘・鉄類・窯壁片 他)1	105
表 7	Ⅱ区出土遺物観察表	(土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・陶磁器)]	106

写真図版目次

巻頭図版 1 SE1遺物出土状況 SE1出土土師器 小皿・椀、坏

巻頭図版 2 布目瓦 (軒平瓦·軒丸瓦)

図版1 調査前の景観(南から・北から)

図版 2 調査前の景観(北東から) 母代寺遺跡周辺の地形(南上空より)

図版3 I区上段・下段セクション

図版4 I区の遺構(南から) I区上段の遺構(北から)

図版5 I区全景(完掘・北から) I区上段の遺構(完掘・南から)

図版 6 遺物出土状況 (P9・P12・瓦器械・SK7) I 区SK7よりSE1方向をのぞむ

図版7 包含層軒丸瓦(521)出土状況 SE1と包含層出土軒丸瓦(521)

図版 8 SE1 1面目遺物出土状況

図版 9 SE1 2面目遺物出土状況 SE1遺構底面に敷き詰められた礫

図版10 SE1遺構底面出土礫と下層確認 SE1完掘 井戸枠の状況

図版11 SE1完掘 掘形 SE1完掘 掘形半裁下層確認

図版12 SE1周辺の地形 SE1とSK7の位置関係

図版13 SK7上面(遺物集中1)軒平瓦出土状況 SK7遺物出土状況

図版14 SK7 遺物出土状況 SK7完掘状況

図版15 SK16 1面目遺物出土状況 SK16 2面目遺物出土状況

図版16 SK16 遺構完掘状況 SK12 遺物出土状況

図版17 Ι区下段の土坑とセクション Ι区下段の土坑

図版18 I区土坑 (SK5·6·17)、土取跡1~3

図版19 土取跡3 土取跡4

図版20 I 区下層の遺構(自然流路) 自然流路(SR2) 堆積状況

図版21 Ⅱ区全景(完掘) Ⅱ区堆積状況 Ⅱ区南壁セクション SD15遺構底面の礫

図版22 現地説明会風景 佐古小学校遺跡見学会 佐古小学校発掘体験

図版23 調査風景 調査に参加した人々

図版24 土師器・小皿(遺構出土)

図版25 土師器・小皿、坏、椀(包含層出土)

図版26 土師器・坏、椀

- 図版27 土師器 (椀・坏)、須恵器 (椀)、瓦器 (小皿・椀)
- 図版28 弥生土器・須恵器
- 図版29 SE1出土須恵器 甕 (亀山窯)
- 図版30 SE1出土遺物 布目瓦(丸瓦)
- 図版31 SE1出土遺物 布目瓦(軒平瓦·平瓦)
- 図版32 SE1出土遺物 布目瓦 (平瓦·丸瓦)
- 図版33 SS1·包含層出土遺物 布目瓦 (軒丸瓦·軒平瓦·平瓦)
- 図版34 SS1·SK7出土遺物 布目瓦 (軒平瓦·平瓦)
- 図版35 石鍋・石鍋転用温石 瓦質土器・瓦器
- 図版36 瓦質土器
- 図版37 貿易陶磁器1 遺構出土白磁・青磁 包含層出土染付・青磁
- 図版38 貿易陶磁器2 包含層出土 青磁1
- 図版39 貿易陶磁器3 包含層出土 青磁2
- 図版40 貿易陶磁器4 包含層出土 白磁1
- 図版41 貿易陶磁器5 包含層出土 白磁2
- 図版42 土取跡4出土須恵器 石鏃・硯 包含層出土 土師器・須恵器・陶器
- 図版43 窯壁片・鋳型片 太型蛤刃石斧・鉄製品
- 図版44 木製品1 SE1井戸枠
- 図版45 木製品2
- 図版46 母代寺周辺の地形 (航空写真)

第 I 章 調査の経緯及び方法

第1節 調査の経緯

本調査は野市町(現香南市)立佐古小学校グラウンド拡張整備事業に伴う緊急発掘調査である。

平成12年10月19日、高知県香美郡野市町(現香南市)母代寺88番地他に所在する町立佐古小学校グラウンド拡張整備工事中に、土師器・須恵器・瓦等が出土した。これに伴い野市町教育委員会は、10月19日に工事の中断を決定し、平成12年11月13日より緊急に試掘調査を行った。試掘調査に先立ち、地名と字名をもとに遺跡名を「母代寺土居屋敷遺跡」と決定する。試掘調査では11ヶ所のトレンチを設定、約5,700㎡の対象面積の中、約520㎡について調査を実施した。

運動場予定地の西側には、かつて公民館と保育所があり、その東側は畑だった。東西で段差があったため、東側の一段低い土地を赤土で造成した上で佐古小学校の仮のグラウンドとして使用していた。試掘調査で遺物・遺構を確認した場所は、畑あるいは水田として利用されてきた部分であり、公民館・保育所のあった範囲には遺物・遺構の残存は認められなかった。本発掘調査の範囲は約3,000㎡となり、I区・II区の調査区を設定し、調査を開始する。

調査期間は、試掘調査が平成12年11月13日~12月12日、本発掘調査が平成12年12月13日~平成13年3月31日で、調査面積は、調査対象面積約5,700㎡、試掘調査面積約520㎡、本発掘調査面積約3,000㎡である。



第1図 香南市及び母代寺土居屋敷遺跡位置図

第2節 試掘調査

試掘調査区内に、第2図のとおり11ヶ所の試掘トレンチを設定、重機及び手掘りにより、遺構・遺物の有無を確認する。各試掘トレンチの概要は以下のとおりであり、TR1・2・3・5・7・8については土層堆積状況について第3図に示す。

TR1 • 2 • 3 • 4

運動場の調整池となる部分であるが、試掘の結果、遺物は出土しなかった。TR1からピットが4基確認できたが、遺物を伴っておらず不明である。TR2~4にも、遺構や土器はなかった。

TR5

調査対象地北側に位置する。ここでは、流れ込みだと思われる土器片が出土しており、その下には、溝と思われる遺構が検出された。溝の中には手のひら大の石が詰め込まれており、暗渠としての機能を持つと考えられる。

TR6

調査対象地北側に位置する。表土から20cmくらいの深さで土器が出土しており、本調査時に確認調査を行う。

TR7

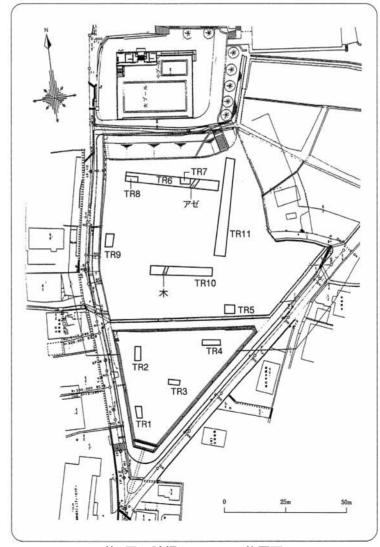
TR6の西側に位置する。この TR7の西側に畦のようなもの が、北東方向から南西方向に向 かって延びている。その畦を境 に土の堆積状況も異なってお り、畦より東側は土器片を含む 層が確認できたが、西側にこの 層はなく、黒褐色の粘質土が堆 積しており、沼地(池)のよう な様相を呈する。

TR8

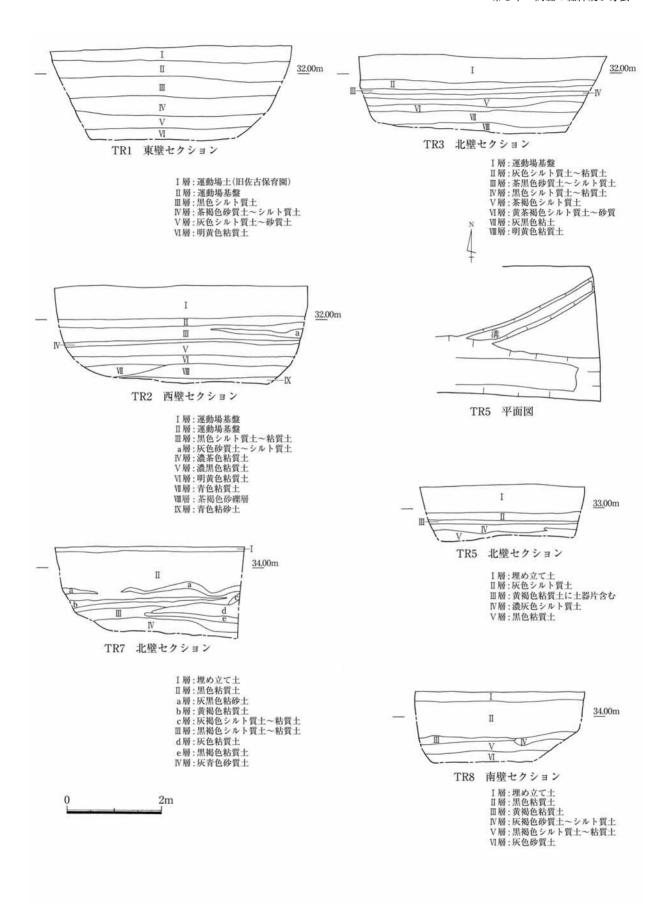
調査対象地北側の一番西側に 位置する。TR7と同様、黒色の 粘質土が堆積している。遺構・ 遺物は検出されなかった。

TR9

調査対象地西側に位置する。 TR7・8と同様、黒色の粘質土 が堆積している。遺構・遺物は 検出されなかった。



第2図 試掘トレンチ 位置図



第3図 試掘トレンチ セクション図及び平面図 (S=1/80)

TR10

調査対象地ほぼ中央付近に位置する。上層は赤土で造成されているが、その下の層からは土器が 多量に出土した。土器を含む層の下を確認するため、2本のサブトレンチを設定し、柱穴と思われる ピットを検出した。このピットは2m間隔で並んでいる。全体の確認は本調査に委ねる。

TR11

調査対象地西側に位置する。南北に細長いトレンチである。北側部分では遺構・遺物の検出面までの深さが浅いが、南に行くとTR10同様、赤土で造成されている。この赤土についても本発掘調査時に除去し、下層の確認を行う。

試掘調査まとめ

運動場となる部分の西側は、昔公民館があり、東側は畑だった。そのため段差があり、佐古小学校の仮のグラウンドとして使用する際に、東側の一段低い土地を赤土で造成している。今回土器や遺構が出土した場所は、主に昔から畑(水田)であった部分であり、公民館や、保育所が建てられていた部分については手が加えられており遺構・遺物は残っていない。

TR7の東側のアゼ、TR10の西側に出土した木(土地の境界を表す木か?)より東側に遺構・遺物が残存しているため、このアゼと木より東側を本発掘調査の対象地とする。本発掘調査の範囲は約3,000㎡となり、造成されている赤土を除去してから調査を開始する。試掘調査を行った調整池となる部分については、これ以上の成果はないものと見られるので工事を再開する。



TR 5



TR 11

今回の試掘調査で出土した土器は、平安時代後期~南北朝時代の遺物で占められており、特に鎌倉時代の遺物が中心である。中でも在地産の土師器が多く出土し、土師器か瓦質の脚付鍋の口縁部や脚部も出土している。他にも中国の華南産白磁V類に分類される白磁の碗や、龍泉窯系の青磁碗、鎬蓮弁文青磁碗が出土しており、佐古亀山産の可能性も考えられる布目瓦や須恵器甕の胴部も出土している。

遺物からみても鎌倉時代が中心になっていると思われ、「土居屋敷」という字名が残っているが、 その時代(中世末~近世)の遺構・遺物は見られない。今回の試掘調査では遺構検出面で止めてあ るため、遺構に伴う土器は含まれていない。本発掘調査での成果を待ちたい。

(『平成12年度 母代寺土居屋敷遺跡試掘調査概報』野市町教育委員会 2000年より 一部改変)

第3節 調査の経過

平成12年(2000年)

11月13日 試掘調査開始

11月17日 野市中学校1年生 職場体験学習

12月13日 発掘調査開始

平成13年(2001年)

1月11日 I区北側でピット群検出

1月22日 佐古小学校6年生 体験学習

Ⅱ区の調査終了

1月23日 佐古小学校5年生 体験学習

1月31日 I区で軒丸瓦・軒平瓦出土

2月13日 Ι区で井戸1を検出

2月15日 Ι区で井戸1の2面目を検出

2月19日 Ι区西側でピット群検出

野市町文化財保護審議委員現場を視察

2月26日 I区で井戸2を検出

3月11日 現地説明会

3月31日 発掘調査現場作業終了



佐古小学校 体験学習



現地説明会

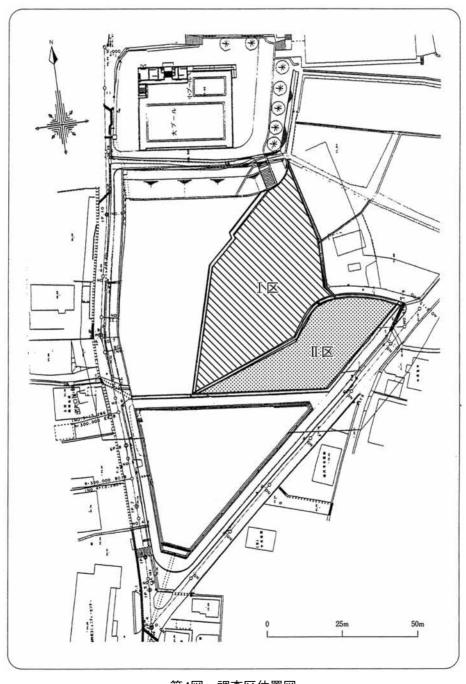


佐古小学校 体験学習

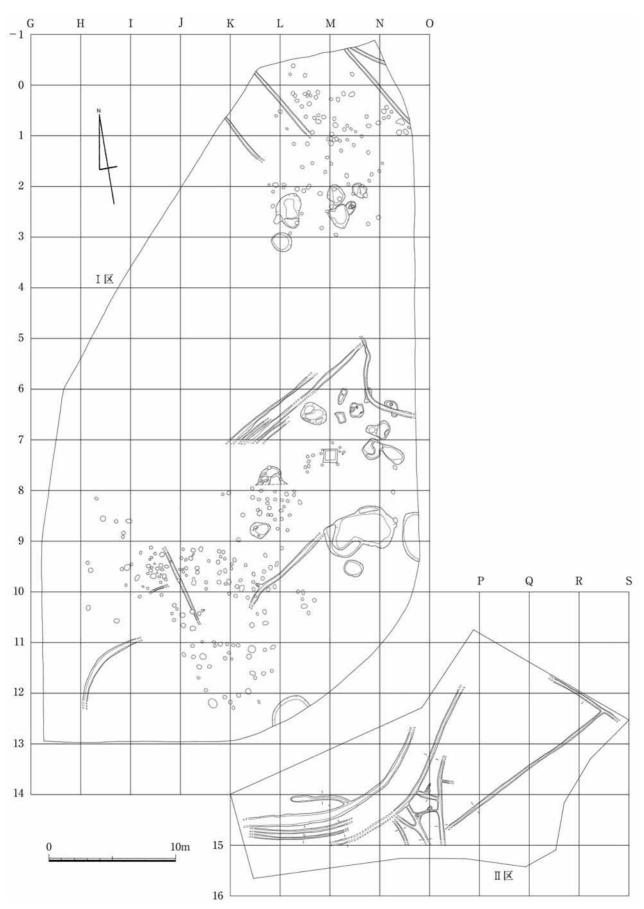
第4節 調査の方法

調査対象約3,000㎡について I 区・II 区の2つの調査区を設定し、造成されている赤土を除去してから調査を開始した。調査の手順としては、耕作土、旧耕作土を重機を用いて除去した後、包含層掘削、遺構検出、遺構埋土掘削を手作業で進める。試掘調査時には、それぞれのトレンチで包含層を確認した後、遺構検出作業までを行う。遺構の調査はすべて本発掘調査で行ったものである。

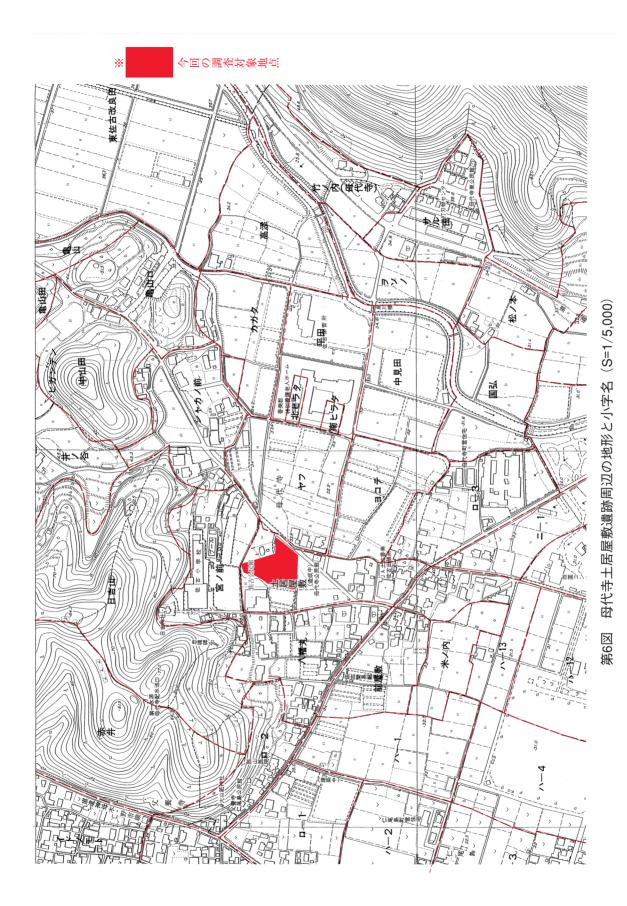
遺構の実測については、任意に設定した座標軸に基づいて4m方限をかけ、グリッドNo.を付して地 点の記録及び実測を行った。平面実測及び土層断面図については、縮尺20分の1を基本に、状況に応 じて10分の1等他の縮尺を用いた。



第4図 調査区位置図



第5図 I・Ⅱ区全体図と設定した4mグリッド(S=1/300)



第Ⅱ章 遺跡周辺の地理的歴史的環境

第1節 地理的環境

母代寺土居屋敷遺跡のある香南市野市町は、県中央部に広がる高知平野の東端に位置し、県下三大河川のひとつ物部川の下流域に発達した扇状地上にある。平成18年3月に旧香美郡の香南五ヶ町村(赤岡町・香我美町・野市町・夜須町・吉川村)が合併、面積126.49㎡、人口約3万4,000人の香南市が誕生した。

旧野市町は物部川の左岸に沿って南北約6km、東西約4kmの範囲に広がっている。西は物部川を境として南国市、東は香南市香我美町と隣接し、北は烏ヶ森山系により香美市土佐山田町と分けられる。南は香南市赤岡町、吉川町と境を接し南端部より約0.8km南で土佐湾にのぞむ。南部には、県都高知市と県東部を結ぶ国道55号線が東西に走っており、高知市より車で約30分と交通の便もよく、県都のベッドタウンとして人口も年々増加しており近年発展し続けている。

主要産業としては、江戸時代、野中兼山により灌漑施設が整備され、かつては豊富な水を生かした米作の穀倉地帯であったが、現在は近郊型の園芸農業が盛んとなっている。

自然地理学的には、北東部に聞楽山系の山岳地と物部川左岸側に分布する古期扇状地を呈する野市台地よりなっている。この聞楽山系は、秋葉山系と鳥ヶ森山系の2つからなり野市町の約3分の1強の面積をしめる。



母代寺土居屋敷遺跡周辺の地形(航空写真)

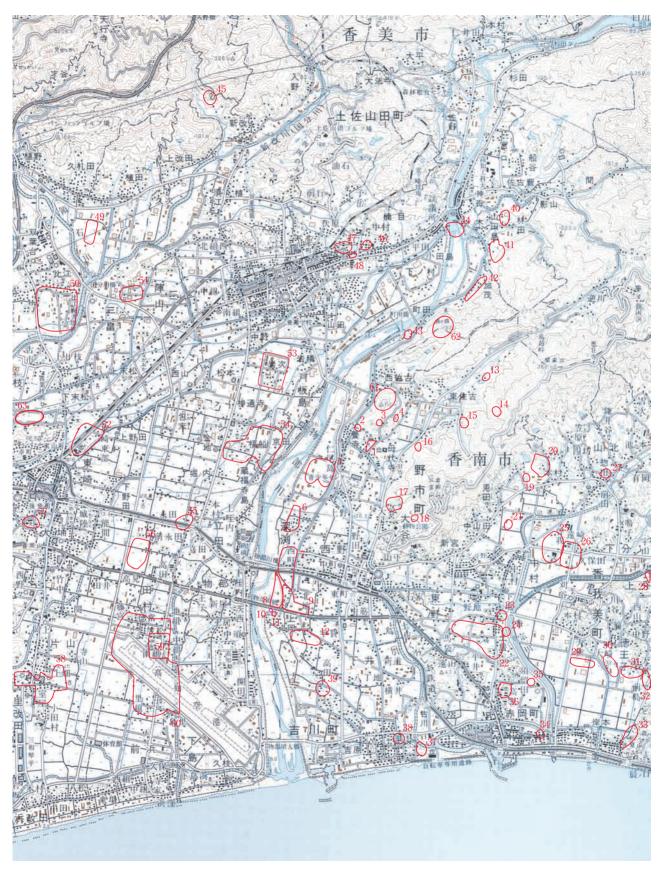
秋葉山系は町の北東、香我美町の境にある聞楽山(標高368.2m)より南西方向に高度を減じ、町のほぼ中心の三宝山(別名金剛山、標高213.9m)の南西方向で野市台地の下に沈む。その秋葉山系の北方に平行して烏ヶ森山系があり、同じく南西に向かって高度を減じて、物部川にその山脚を浸食されている。

その山地の下に広がる野市台地は古期扇状地であり、現在の市街地をのせ、海抜高度約40~10m と北から南へ高さを減じている。これらの台地は、秋葉山系の西端部の三宝山の山麓部でさえぎら れた物部川の堆積物が南東側へ向かって放出されたためできた扇状地性堆積物によって形成された ものである。また、台地の西端部分は5mほどの段丘崖となり、その下は新期扇状地となっている。

物部川が現在の流路を形成したのは、中近世以降のことであり、それ以前はいくつもの流路からなっていたが、中世になるとそれまで多数存在していた小流路の幾つかが堆積作用により埋積、自然堤防が形成された。近世になって両岸に堤防が築堤され、現在の流路になったと考えられる。

表1 母代寺土居屋敷遺跡と高知平野東半の遺跡

番号	遺跡名	主な時代	番号	遺跡名	主な時代	番号	遺跡名	主な時代
1	母代寺土居屋敷遺跡	弥生・古代・中世	22	東野土居遺跡	古墳~近世	43	町田堰東遺跡	縄文~中世
2	父養寺古墳	古墳	23	香宗城跡	中世	44	山田堰	近世~
3	日吉山古墳群	古墳	24	宝鏡寺跡	中世	45	新改西谷遺跡	旧石器·古代·中世
4	亀山窯跡	古代	25	曽我遺跡	弥生~中世	46	ひびのき遺跡	弥生・古墳
5	深渕北遺跡	弥生・古代・中世	26	下分遠崎遺跡	弥生	47	ひびのきサウジ遺跡	弥生~近世
6	深渕遺跡	縄文~中世	27	岡ノ芝遺跡	古墳~中世	48	伏原大塚古墳	古墳~中世
7	西野遺跡群	弥生~古代	28	十万遺跡	縄文~中世	49	白猪田遺跡	古墳・古代
8	下ノ坪遺跡	弥生~古代	29	花宴遺跡	弥生~古墳	50	土佐国府跡	弥生~中世
9	北地遺跡	弥生~古代	30	徳王子大崎遺跡	弥生・古墳・中世	51	三畠遺跡	弥生~古代
10	上岡北遺跡	弥生・近世	31	徳王子広本遺跡	弥生~中世	52	東崎遺跡	弥生~中世
11	上岡遺跡	弥生・古代	32	徳王子前島遺跡	弥生~中世	53	大領遺跡	古墳~中世
12	高田遺跡	平安	33	クノ丸遺跡	弥生~近世	54	岩村遺跡群	弥生~中世
13	小山谷古墳	古墳	34	江見遺跡	古墳	55	寺ノ前遺跡	弥生~中世
14	鬼ヶ岩屋洞穴遺跡	弥生	35	大東遺跡	古墳~近現代	56	修理田遺跡	弥生~古代
15	アゴデン白岩窯跡	古代・中世	36	須留田城跡	中世	57	大篠小学校校庭遺跡	弥生
16	竹ノ内山古墳	古墳	37	住吉砂丘遺跡	弥生	58	里改田遺跡	弥生~中世
17	大谷城跡	中世	38	南中曽遺跡	弥生・古墳	59	田村城跡	中世
18	大谷古墳	古墳	39	野口遺跡	弥生~中世	60	田村遺跡群	縄文~近現代
19	大崎山古墳	古墳	40	林田シタノヂ遺跡	縄文~中世	61	前ノ山城跡	中世
20	本村遺跡	弥生	41	林田遺跡	弥生~中世	62	烏ヶ森城跡	中世
21	兎田柳ヶ本遺跡	弥生・古墳	42	加茂遺跡	古墳~中世	63	土島田遺跡	縄文~近世



第7図 母代寺土居屋敷と高知平野東半の遺跡(S=1/50,000)

第2節 歷史的環境

母代寺土居屋敷遺跡のある香南市野市町は、北部に山塊を背負い南部に平野部が開けている。西 は一級河川物部川に隔てられ東は香宗川がほぼ町境と重なっている。

物部川は野市町をはじめ、高知平野東部の平野を潤しているが、近世以前においては現在よりも 西部を流れており下流に大小の自然堤防を形成し、多くの縄文時代後期以降の遺跡が立地している。 その中でも、母代寺土居屋敷遺跡から約5km南西の地点に位置する田村遺跡(1)は弥生時代における南 四国最大の拠点集落として知られている。

物部川中流右岸の香美市土佐山田町にはひびのき遺跡⁽²⁾(弥生時代~古墳前期)、その対岸には林田遺跡⁽³⁾(弥生~中世)がある。東部を流れる香宗川流域にも、弥生時代前期の土器が発見されるとともに多量の木器が出土した香我美町の下分遠崎遺跡⁽⁴⁾や十万遺跡⁽⁵⁾など高知平野東半の主な河川流域に遺跡が分布している。

香南市内には163の包蔵地が確認されている(平成21年9月現在)。縄文時代の遺跡は少なく、夜須町の手結遺跡(草創期)、香我美町の拝原遺跡⁽⁶⁾(後期)、十万遺跡(晩期)、深渕遺跡⁽⁷⁾(晩期末)の例があるのみだが、弥生時代になると遺跡数が飛躍的に増大し市内全域に分布する。特に物部川左岸の段丘上の遺跡密度は高い。母代寺土居屋敷遺跡に最も近いものとしては南西に深渕北遺跡⁽⁸⁾があり、その南には深渕遺跡、西野遺跡群⁽⁹⁾、北地遺跡⁽¹⁰⁾、下ノ坪遺跡⁽¹¹⁾、上岡遺跡⁽¹²⁾と物部川の段丘崖に沿って連続して分布している。また香宗川流域には下分遠崎遺跡の西側に官衙関連の遺跡である曽我遺跡⁽¹³⁾が、その北側間楽山地の麓にはガラス製の勾玉も出土した弥生中期の高地性集落の性格をもつ本村遺跡⁽¹⁴⁾がある。間楽山地には中期末の笹ヶ峰遺跡や、土器、貝殻、獣骨、魚骨などが出土した後期末の鬼ヶ岩屋洞窟遺跡もある。

古墳時代の遺跡も物部川、香宗川両流域に広がり集落が営まれていたことがうかがえる。古墳も 聞楽山地に数多くみられ、特に竹ノ内山(溝渕山)古墳は、当時の原形に最も近い状態で残存して いる横穴式石室の円墳で青銅環、直刀等が出土している。その他にも2次にわたる埋葬面が確認され 金環、馬具等多量の貴重な副葬品が出土した大谷古墳¹⁵⁵をはじめ、小山谷古墳、大崎山古墳がある。 また、母代寺土居屋敷遺跡のある佐古地区にも日吉山古墳群や父養寺古墳等、そして今は消滅して いるが上分古墳の存在により、地方豪族のいたことが推察される。

古代の遺跡としては、母代寺土居屋敷遺跡から南へ約3kmに下ノ坪遺跡がある。下ノ坪遺跡は弥生時代後期前半と奈良時代に盛行する遺跡で、古代の出土遺物は硯や丸鞆、全国的にも例の少ない四仙騎獣八稜鏡等が出土しており、古代の遺構では、掘立柱建物跡も発掘調査当時は南四国最大級の規模を呈しており、地方官衙的な性格を持つ遺跡であったと思われる。また、母代寺土居屋敷遺跡の南西約1.5kmに深渕遺跡がある。深渕遺跡も先にも述べたように縄文時代からの複合遺跡であるが、古代の出土物は二彩陶器、緑釉陶器、墨書土器、硯、蛇尾等が出土している。また深渕遺跡は瓦窯跡の指摘もあり、円面硯や風字硯も発見され、官衙的性格を持つ遺跡であったと考えられる。また、母代寺土居屋敷遺跡北側の亀山にも窯跡があり、そこで作られた瓦は平安京大極殿、藤原氏の氏寺である法勝寺に使用されていたことがわかっており(16)、もっぱら中央向けの官窯であったと思われる。このことは、当時の野市町が中央と深いつながりを持つ重要な地であったことを示している。

中世になると、中原秋家、秋道が地頭となり、香宗我部氏と名乗り勢力をふるった。しかし、関ケ原合戦後山内氏入国によりその所領を失い、その後の一国一城制でその居城である香宗城は取り壊された。現在は八幡社と土塁の一部を残すのみである。その南東には香宗我部氏菩提寺の宝鏡寺跡と歴代の墓と観音堂がたっている。また、戦国時代の城では母代寺土居屋敷遺跡の北側に前ノ山城、また土佐山田町との境に烏ヶ森城がある。

近世前期、野市町域は物部川山田堰からの分水により開墾が進み、原野の広がる野市台地は豊かな穀倉地帯へと生まれ変わった。上岡北遺跡からは、物部川治水を手がけた野中兼山による築堤と推測される石積みの堤防(17世紀)が確認されている(17)。野市町は、この旧堤防の持つ歴史的意義を認識し、工事計画を変更した。発掘された近世の堤防は埋め戻され、現地で保存されている。

参考文献

『野市町史 上巻』野市町史編纂委員会 1992年

引用文献

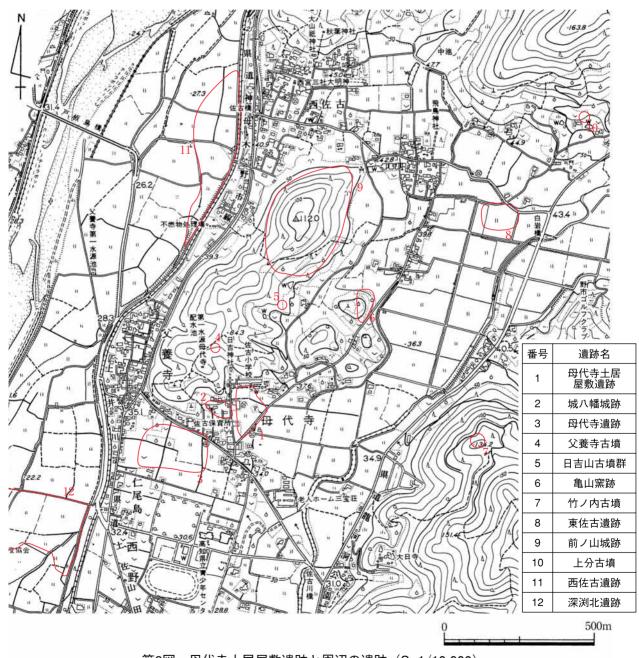
- (1) 出原恵三『南国土佐から問う弥生時代像 田村遺跡』 新泉社 2009年
- (2) 岡本健児・廣田典夫『高知県ひびのき遺跡』 土佐山田町教育委員会 1977年
- (3) 宅間一之·山本哲也·森田尚宏『林田遺跡』 土佐山田町教育委員会 1983年
- (4) 高橋啓明·出原恵三『下分遠崎遺跡発掘調査概報』 香我美町教育委員会 1987年 高橋啓明·出原恵三『下分遠崎遺跡(1)』 香我美町教育委員会 1989年
- (5) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生『十万遺跡発掘調査報告書』 香我美町教育委員会 1988年
- (6) 出原恵三『拝原遺跡』 香我美町教育委員会 1993年
- (7) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生『深渕遺跡発掘調査報告書』 野市町教育委員会 1989年
- (8) 佐竹寛・吉成承三『深渕北遺跡』 野市町教育委員会 1996年
- (9) 『西野遺跡群ルノ丸地区南 第二次発掘調査概要報告書』 香南市教育委員会 2007年
- [10] 『野市町 北地遺跡 記者発表·現地説明会資料』 野市町教育委員会 2004年
- (11) 出原恵三・池澤俊幸・小松大洋・行藤たけし『下ノ坪遺跡 I 』 野市町教育委員会 1997年 出原恵三・池澤俊幸・小松大洋『下ノ坪遺跡 II 』 野市町教育委員会 1998年 更谷大介『下ノ坪遺跡 II 』 野市町教育委員会 2000年
- (12) 更谷大介『上岡遺跡』 野市町教育委員会 2005年
- (13) 高橋啓明·吉原達生『曽我遺跡発掘調査報告書』 野市町教育委員会 1989年
- (14) 坂本憲昭『本村遺跡発掘調査報告書』 野市町教育委員会 1993年
- (15) 山本哲也『大谷古墳』(財) 高知県文化財団 1991年
- (16) 大石良材・朧谷寿・谷口俊治・鈴木忠司『平安宮推定大殿跡調査報告書』 1983年
- (17) 更谷大介·溝渕真紀『上岡北遺跡』香南市教育委員会 2008年

第3節 母代寺土居屋敷遺跡と周辺の遺跡

母代寺土居屋敷遺跡は、日吉山南側の裾野部、佐古小学校南側にある。かつて佐古公民館・佐古 保育所があった場所一帯、字名「土居屋敷」付近に位置する。

日吉山中央、東部山麓には2基、北側にも古墳群が確認されている。その東には通称亀山があり、 古代の亀山窯跡がある。北側の前ノ山城跡には大規模な土塁が残っている。

母代寺という地名は、播磨、讃岐、肥後の国司を歴任した紀夏井が土佐に配流されてきた時、母の追善供養のために建立したと伝えられる母代寺からきている。だが、伝承以外、寺の存在は不明のままである。



第8図 母代寺土居屋敷遺跡と周辺の遺跡(S=1/10,000)

第Ⅲ章 調査の成果

調査の成果について、調査区ごとにまとめて報告する。 I 区・Ⅱ区は隣接しているが、Ⅱ区が一 段低くなっており、形成された遺構の時期も、I 区が古代末から中世前期にかけての遺構であるの に対し、Ⅱ区は近世以降と異なっている。

I 区は上段の遺構群 (検出面の標高34m前後) が調査区北東端にまとまっており、下段の遺構群 (検出面の標高33m前後) が調査区南半で確認されている。Ⅱ 区遺構検出面標高は32.5m前後と南側が低くなっている。

第1節 I区

I区からは弥生時代から近代にかけての遺物が確認されている。遺構出土遺物は大半が古代末から中世前期にかけてのものであり、遺構面が形成されたのは古代末から中世前期にかけてだと考えられる。

上段においては、この遺構面よりも上面から溝が確認されている。SD1~4が上面遺構であり、異なる検出面だが遺構全体図(第10図)には他遺構と一緒に記載し報告する。

また、下段では古代末遺構面より下面から遺構が検出されている。古代の粘土採取に伴う遺構だと推定される土取り跡及び自然流路であり、これらについては下層の遺構としてまとめて報告する。 I 区全体での下層遺構の位置は、土取り跡については全体図で一緒に示すが、下層の流路(SR1~3)については、別図(第50図)に記載する。

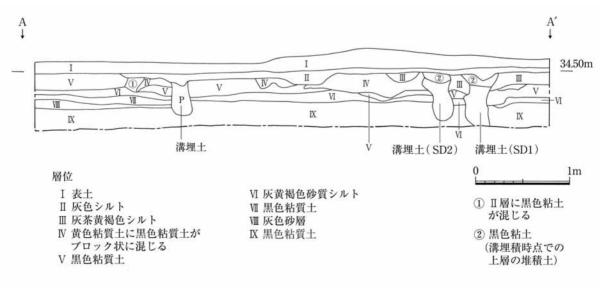


SE1 出土遺物(土師器・供膳具)

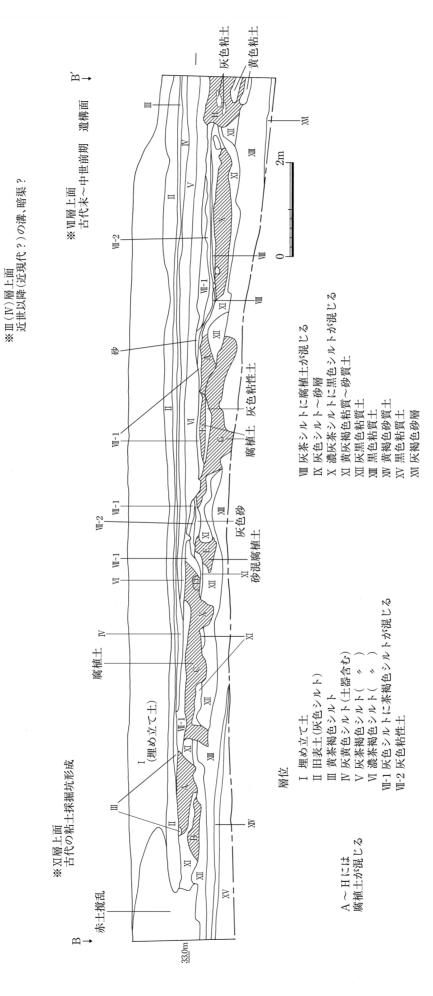
1. 基本層序

調査区の北端部・上段北壁(A-A'間)と中央部東側・下段東壁(B-B'間)で基本層序を観察した。 第9-1図に上段北壁セクションを、第9-2図に下段東壁セクションを示す。セクションポイントの位 置は第10図に示したとおりである。

上	段 北壁 セクション	下段	東壁 セクション
I 層	埋め立て土 (表土)	I層	埋め立て土 (表土)
Ⅱ層	灰色シルト(旧表土)	Ⅱ層	灰色シルト(旧表土)
Ⅲ層	灰茶黄褐色シルト (東壁IV層に対応)	Ⅲ層	黄茶褐色シルト
IV層	灰茶褐色シルト (東壁V層に対応)	IV層	灰黄色シルト (土器含む)
V層	黒色粘質土(東壁 VI 層に対応)	V層	灰茶褐色シルト (土器含む)
VI層	灰黄褐色砂質シルト	VI層	濃茶褐色シルト (土器含む)
Ⅷ層	灰黒色粘質土	Ⅷ-1層	灰色シルトに茶褐色シルト混
Ⅷ層	灰色砂層	Ⅷ-2層	灰色粘性土
IX層	黒色粘質土(東壁 畑層に対応)	Ⅷ層	灰茶色シルトに腐植土が混じる
		IX層	灰色シルト〜砂層
		X層	濃灰茶色シルトに黒色シルトが混じる
		XI層 j	黄灰褐色粘質~砂質土
		XII層	灭黒色粘質土
		双層 爿	黑色粘質土 XV層 黑色粘質土
		w層 j	黄褐色砂質土



第9-1図 I区上段北壁 セクション図 (S=1/40)



第9-2図 I 区下段東壁セクション図 (S=1/80)

2. 遺構と遺物

I区で検出した遺構は、集石遺構1ヶ所、 0 井戸跡1基、土坑17基、溝跡13条、柱穴跡 0 0 SB1 293基、土取り跡4基、自然流路3条であり、 SD3 現時点で復元し得た掘立柱建物跡は8棟、 柵列跡1列である。(第10図) SB2 SD4 柱穴跡(P)の遺構番号については、第46 ~48図で、自然流路の調査区内での位置・ 008 SK1 遺構番号については第50図で示す。 SK2 SK30 SK5 SK4 SK6 上段遺構 (検出面標高 34.1m ~ 34.2m) SD5 A-A', B-B'は SK11 セクションポイント SK8 SK12 (第9-1図、9-2図参照) DSK10 下段遺構 SK9 SK7 SK13 (検出面標高 SK15 32.8m ~ 33.3m) SD9 SD8 SD7 SD6 SK16 SK14 SEI SA1 o ° SB4 ※上面遺構 土取り跡4 SD1~4 0 0 0 0 (近世以降) 8 土取り跡30 0000 ※下面遺構 SD10 土取り跡1 土取り跡1~4 B 000 土取り跡2 (古代) 00 ° SD12 0 SB5 0 0 0 ° 0 SD11 0 0 それ以外の遺構は、 SB7 大半が、古代末~ 000 中世前期に属する。 なお、下面遺構の中 SD13 SB8 で、自然流跡(SR1 SK17 ~3)は別図(第50図) に位置を示す。 0 8m

第10図 I区全体図・遺構配置図(S=1/250)

検出した遺構は大半が古代末から中世前期に属し、検出面標高も上段が34.1~34.2m前後、下段が32.8~33.3mとそれぞれの段でほぼ同じ高さとなっている。この検出面以外に上層と下層からも遺構が検出されている。

上層で検出した遺構は、調査区北側の上段で検出されたSD1~4である。北壁のⅢ層(下段東壁ではⅣ層)上面が遺構面となっており、旧表土直下に形成された遺構である。細かい時期は特定できないものの、近現代に機能していたと考えられる。検出面標高は34.4~34.5mである。

下層からは自然流路と4基の土坑が確認されている。下段東側に確認された4基の土坑は、XI層 (黄灰褐色粘土層)を掘り込んで粘土を採取した「土取り跡」と推定されている。(第9-2図参照)検 出面標高は32.5~32.8mである。

図中に記したA-A'及びB-B'は調査区上段北側(東西方向)と下段東側(南北方向)で土層堆積状況を確認した際のセクションポイントである。

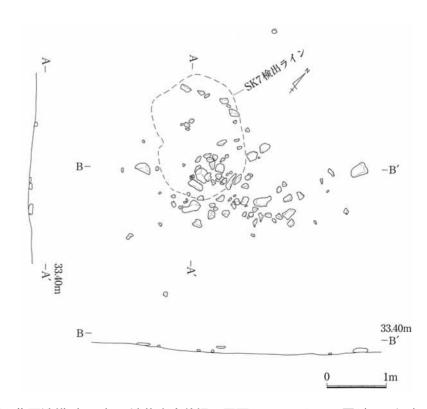
出土遺物は、遺構ごとに提示し、包含層出土遺物は最後にまとめて提示する。

(1) 集石遺構 (SS)

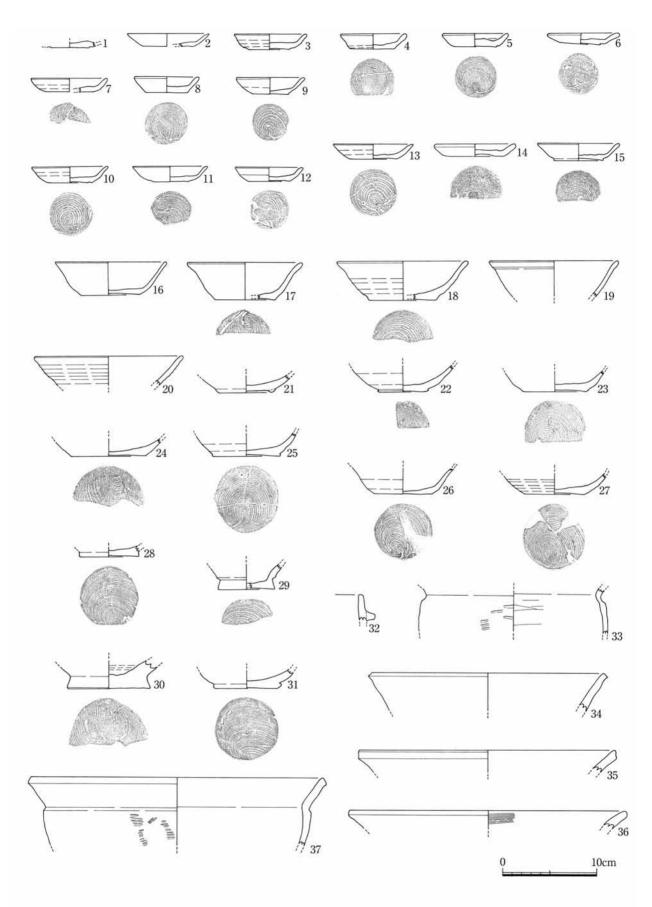
調査区(I区下段)の中央東寄り(L6/M6グリッド)に位置する。検出高は33.27mを測る。多数の遺物と15~20cm大の礫を多く検出している。遺構の範囲は約20cm下面から検出されるSK7とほぼ重複している。

遺物は口縁・底部(回転糸切り)を含む土師器片、須恵器片、瓦質土器片、瓦片(布目痕)、白磁・青磁片等コンテナ1箱分ほどを出土している。

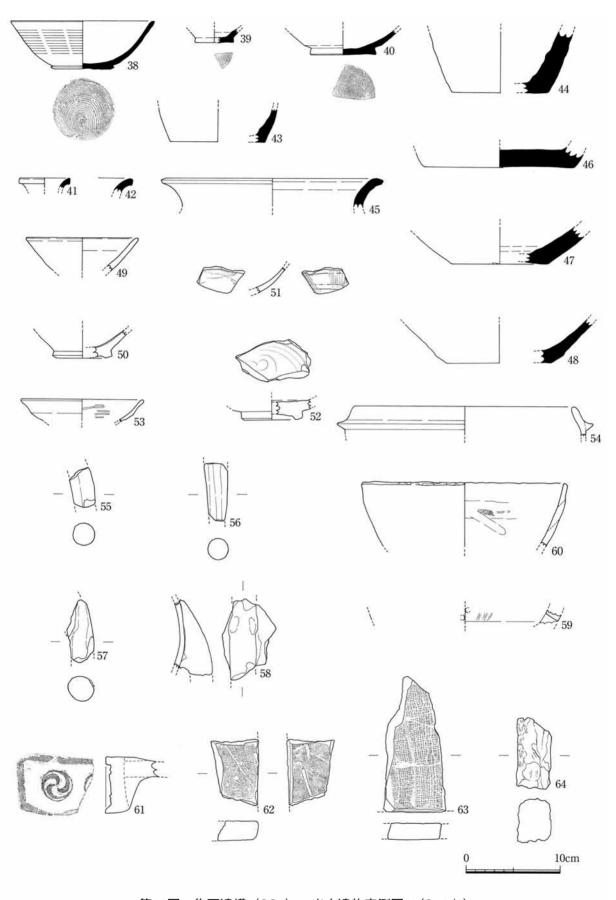
図示したものは土師器の 小皿 (1~15)、坏 (16~ 20 · 22~27 · 29 · 30)、椀 (21・28・31)、羽釜(32)、 甕 (33~37)、須恵器の椀 $(38\sim40)$ 、壺 $(41\sim44)$ 、 甕(45~47)、鉢(48)、瓦 器の椀(53)、瓦質土器の 羽釜 (54)、同脚部 (55~ 58)、白磁の碗(49・50)、 青磁の碗(51・52)、瓦 (61~63)、石鍋(59)、窯 壁片 (64) である。他に流 れ込みの可能性が考えられ る弥生後期の鉢(60)が出 土している。



第11図 集石遺構 (SS1) 遺物出土状況・平面エレベーション図 (S=1/50)



第12図 集石遺構(SS1) 出土遺物実測図1(S=1/4)



第13図 集石遺構(SS1) 出土遺物実測図2(S=1/4)

(2) 井戸 (SE)

SE1 (第14図~24図)

調査区(I区下段)の中央東寄り(L7/M7グリッド)に位置する。検出高は32.79mを測る。平面 形態は方形状を呈し、長径1.12m、短径1.07m、深さ45cmを測る。断面形態は箱形状を呈し、四隅の 隅柱とそれに伴う木枠を検出しており、井桁を構成している。また後述するSB3とした建物及び周辺 のピット群は当遺構に伴う施設のものである可能性が考えられる。

井戸枠の型式は組み立て式方形縦板組型のB類(薄板横桟留型)に分類されるもので、さらに隅柱の存在からB1類とすることができる。厚さ8mm前後の薄い縦板を隅柱のホゾ穴に差し込んだ各面1本ずつの横桟により支える構造である。この型式は奈良においては、8世紀中頃に登場し、平安遷都まで盛行、その後少なくなる傾向があるという。註1)

床面からは一面に礫を検出している。礫は砂岩・砂礫岩・チャートなど周辺で入手可能なもので、最大でも20 cm大で3 kgほどであり、 $10 \sim 15 \text{cm}$ 大で1 kg前後の重量のものが最も多い。河川にある円礫はなく、大半が角礫である。埋土は Π 層で、 Π 層目は灰色粘土で砂質土を含んでおり、 Π 層目は黒色粘土で、 Π 月間に対し部分的にブロック状の堆積が認められる。

遺物は口縁・底部(回転糸切り)を含む土師器片104点と、焼成不良を含む須恵器片20点、瓦器片1点を出土している。土師器片の多くは摩耗しており、輪高台1点を含んでいる。他に瓦片(布目有り・表面炭素吸着)8点を出土している。図示したものは土師器の小皿($66\cdot67\cdot83\sim92$)、坏($65\cdot68\cdot70\sim73\cdot96$)、椀($74\sim80\cdot93\sim95\cdot97\cdot98$)、須恵器の甕($101\sim105$)、鉢(81)、瓦器の椀($69\cdot99$)、土錘(100)、布目瓦($82\cdot106\sim119$)、井戸隅柱($120\sim123$)、横桟($124\sim127$)、杭(128) である。

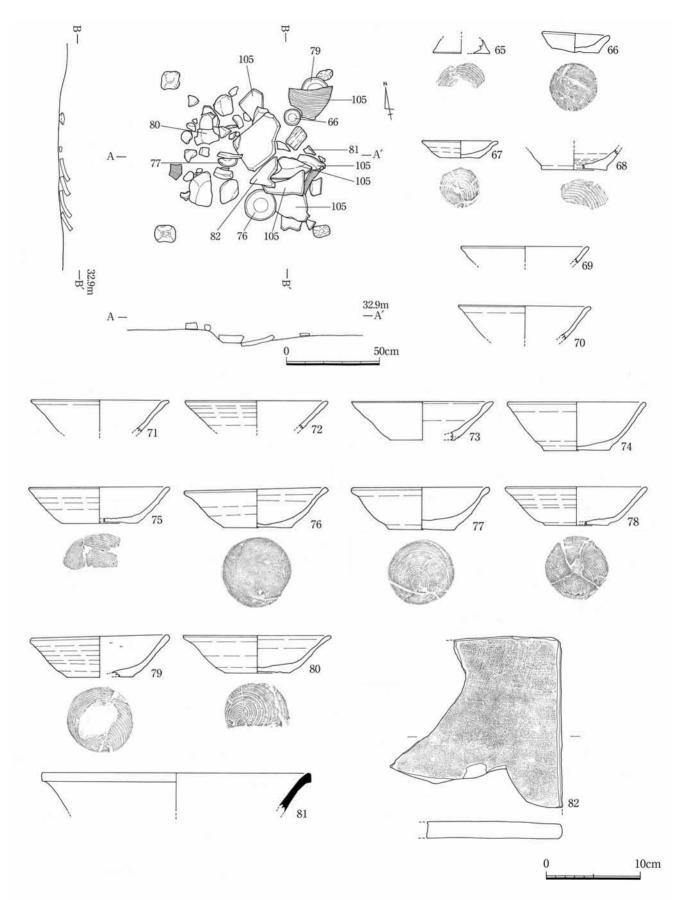
遺構の掘形からは口縁・底部(回転糸切り)を含む土師器片6点と、須恵器片1点を出土しており、 土師器片は摩耗している。図示したものは土師器の坏(129)、瓦器の椀(130)である。遺物から12 世紀末に廃絶した遺構と考えられる。

土師器や布目瓦など遺物は意図的に並べられており、110・112・113・116・117などのように2次的に被熱赤変した瓦も認められる。平瓦・丸瓦が大半だが、1点だけ剣頭文が確認される軒平瓦 (109) も出土している。105の大きく変形した須恵器・甕は従来知られる亀山窯跡採集資料との胎土比較により、亀山窯跡で生産されたものだと考えられる。また、79の土師器椀には底部に穿孔が認められる。これらの遺物出土状況からSE1は井戸の廃絶儀礼等が行われた可能性が考えられる遺構である。

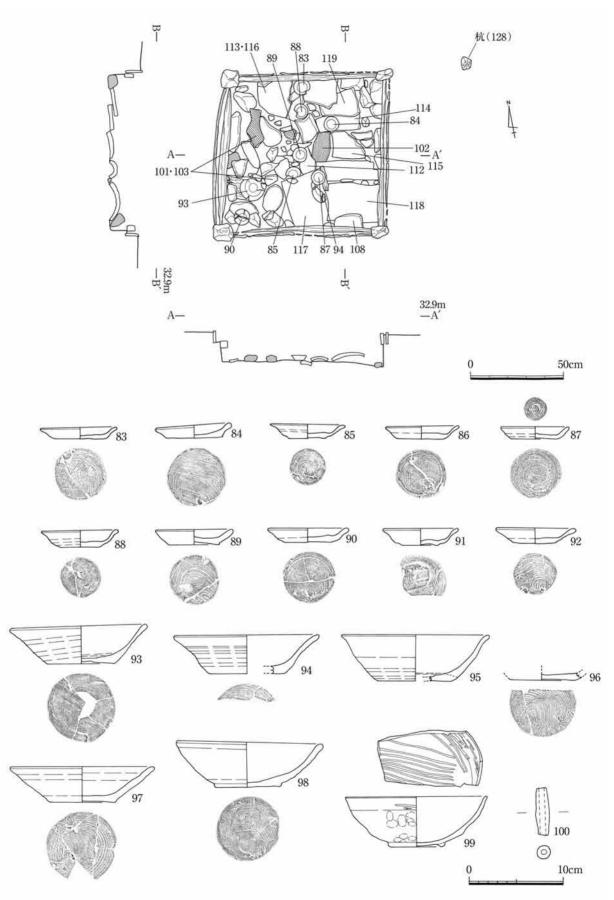
註1) 鐘方正樹 2003『井戸の考古学』同成社

組み立て式方形縦板組型の井戸自体は中世まで広く認められるが、都市部においては近世以降姿を消す。これに対し近畿地方の農村部では近世以降も田畑の野井戸に使われており、都市部と農村部の井戸形態に顕著な違いが生じるとのことである。

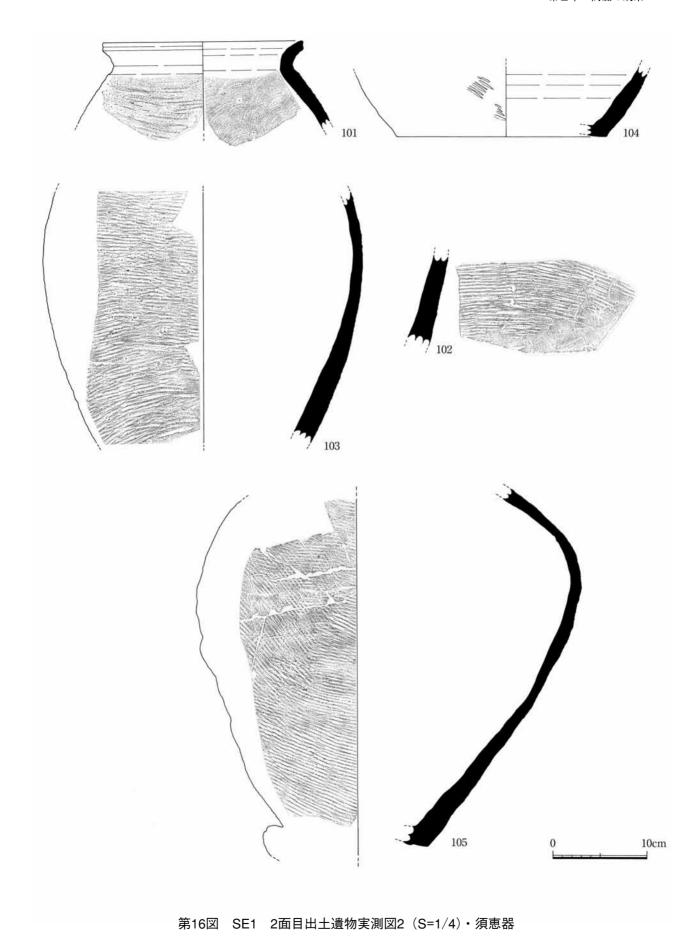
井戸の「ほりかた」については「掘形」という漢字に統一して報告する。(『井戸の考古学』参照)



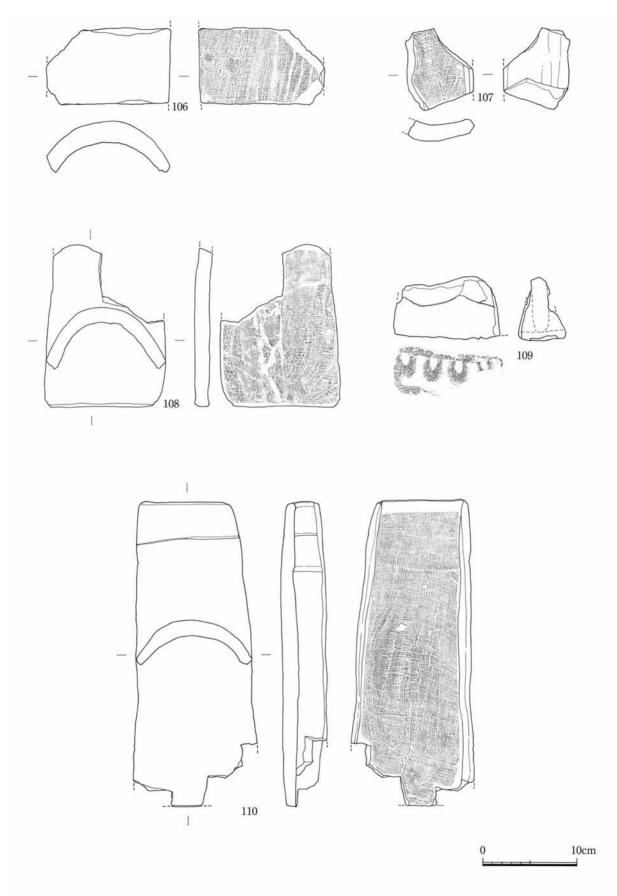
第14図 SE1 検出面及び1面目遺物出土状況(S=1/20)・出土遺物実測図(S=1/4)



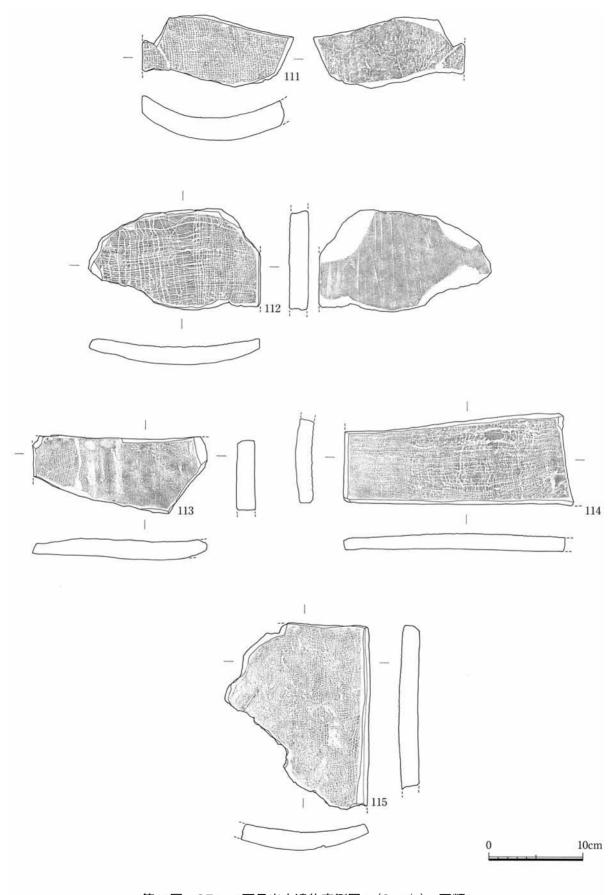
第15図 SE1 2面目遺物出土状況 (S=1/20)・出土遺物実測図1 (S=1/4)・土師器、瓦器



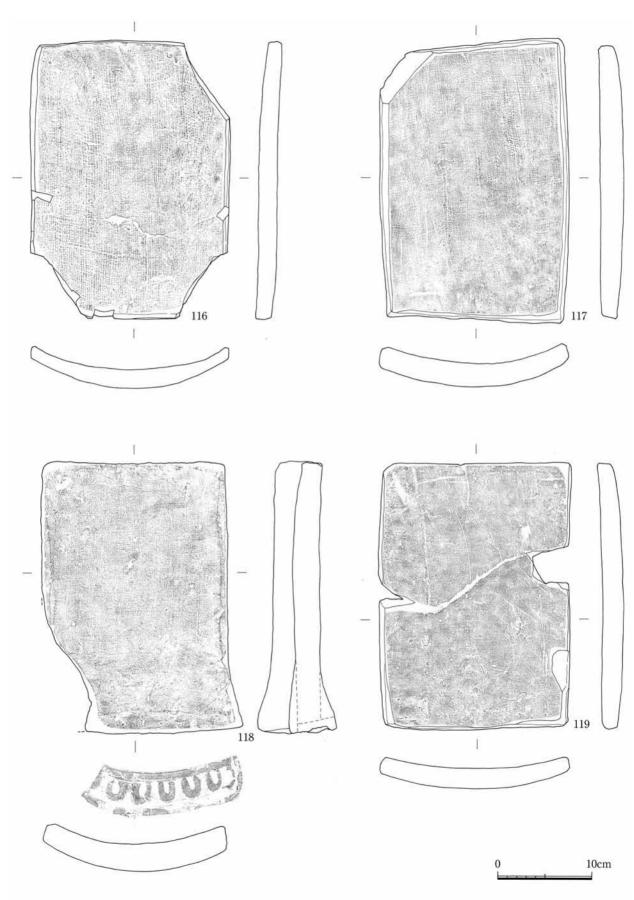
25



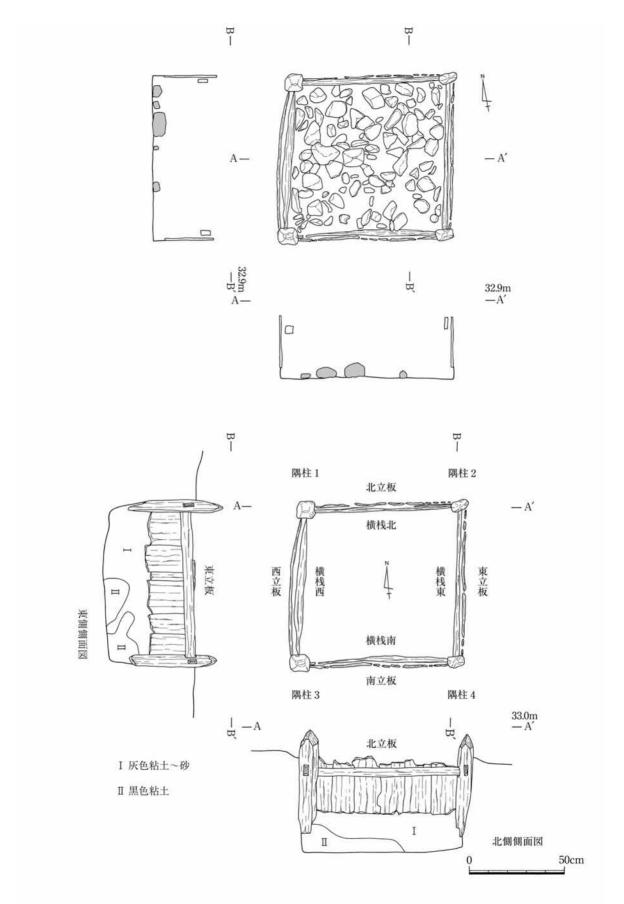
第17図 SE1 2面目出土遺物実測図3 (S=1/4)・瓦類1



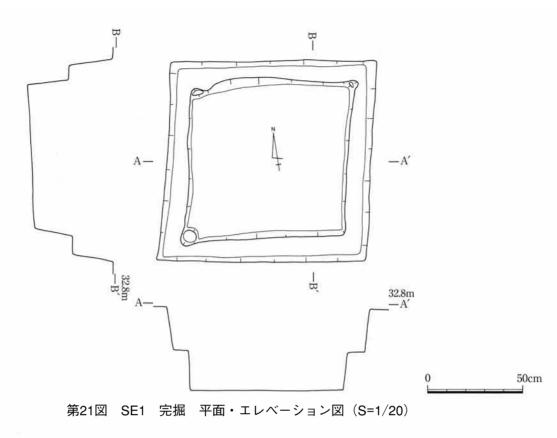
第18図 SE1 2面目出土遺物実測図4 (S=1/4) · 瓦類2

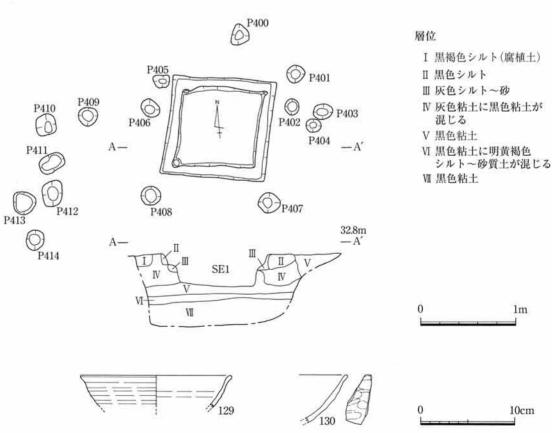


第19図 SE1 2面目出土遺物実測図5 (S=1/4)·瓦類3

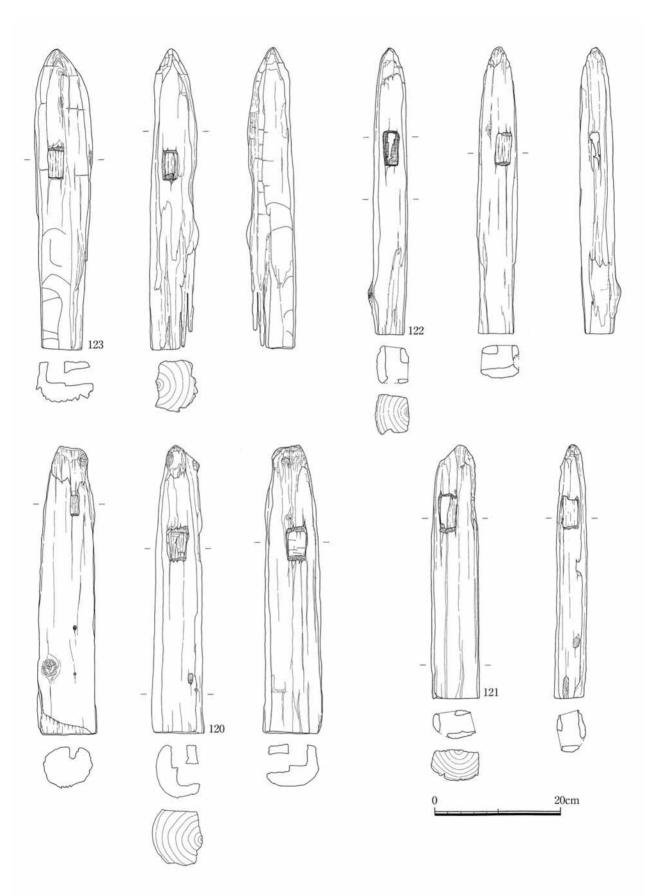


第20図 SE1 礫出土状況・平面・エレベーション図及び井戸枠平面・側面図 (S=1/20)

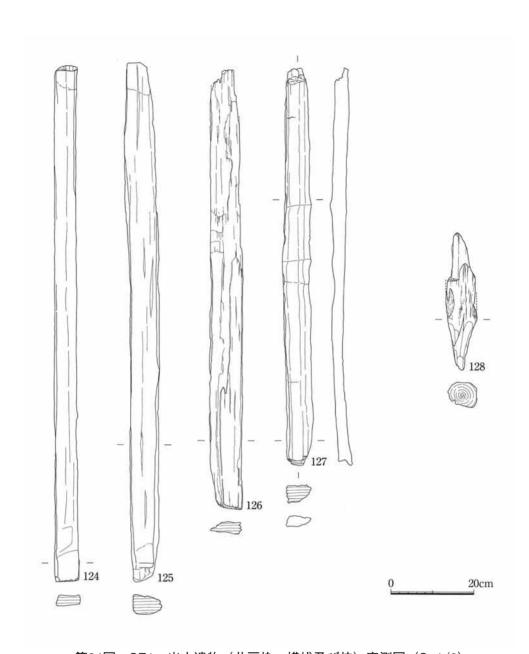




第22図 SE1 下層確認セクション図及び周辺遺構平面図 (S=1/40) 掘形出土遺物実測図 (S=1/4)



第23図 SE1 出土遺物(井戸枠-隅柱)実測図(S=1/6)



第24図 SE1 出土遺物(井戸枠ー横桟及び杭)実測図(S=1/6)

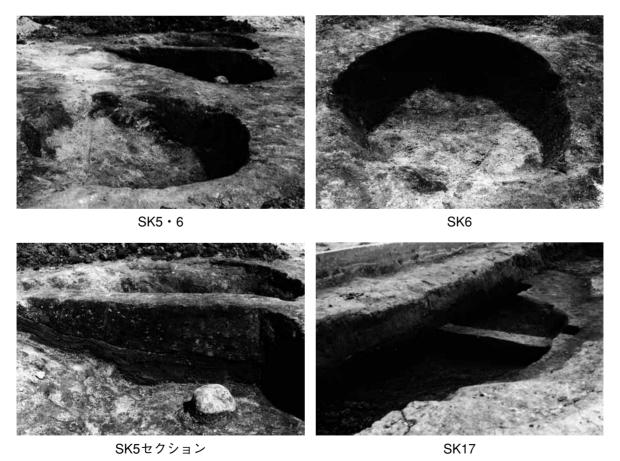
(3) 土坑 (SK)

SK1 (第25図)

調査区(I区上段)の南側(M1・2グリッド)に位置する。検出高は34.16mを測る。平面形態は 歪な楕円形状を呈し、長径1.28m、短径1.03m、深さ12~36cmを測る。断面形態は船底状を呈し、西 側に段部を有する。埋土は基本的に3層で、I層目は黒褐色シルトに黄色粘土がブロック状に混じり、 Ⅱ層目は灰色砂質(シルト)、Ⅲ層目は灰色粘土であり、I層とⅡ・Ⅲ層間に堆積の差が看取できる。 遺物は出土していない。



東からみた上段土坑(右からSK1・2・3・4、後方はSK5・6)



I区の土坑

SK2 (第25図)

調査区(I区上段)の南側(M1・2グリッド)に位置する。検出高は34.15mを測る。平面形態は不整形状を呈し、長径1.57m、短径1.24m、深さ29cmを測る。断面形態は船底状を呈し、壁面は斜めに立ち上がる。埋土の状態は基本的にSK1と同様である。

遺物は摩耗した土師器片1点と土師器の椀(131)を出土している。

SK3 (第25図)

調査区(I区上段)の南側(M2グリッド)に位置する。検出高は34.10mを測る。平面形態は楕円形状を呈し、長径1.20m、短径0.76m、深さ14~24cmを測る。SK4に切られるが、床面の形状からSK4以外の切り合い関係の可能性も考えられる。床面から長径32cm、短径17cm、深さ12cmを測る楕円形状の落ち込みを検出しているが、遺構との関連性は不明である。

遺物は口縁・底部(回転糸切り)を含む土師器片18点を出土しており、多くは摩耗している。図示したのは土師器の坏(132・133)である。

SK4 (第25図)

調査区(I区上段)の南側(M2グリッド)に位置する。検出高は34.13mを測る。平面形態は不整 楕円形状を呈し、長径1.94m、短径1.62m、深さ24~36cmを測る。SK3を切るが、床面及び平面形態 からSK3以外の切り合い関係の可能性も考えられる。埋土の状態は基本的にSK1と同様である。

遺物は口縁部を含む土師器片2点を出土している。

SK5 (第25図)

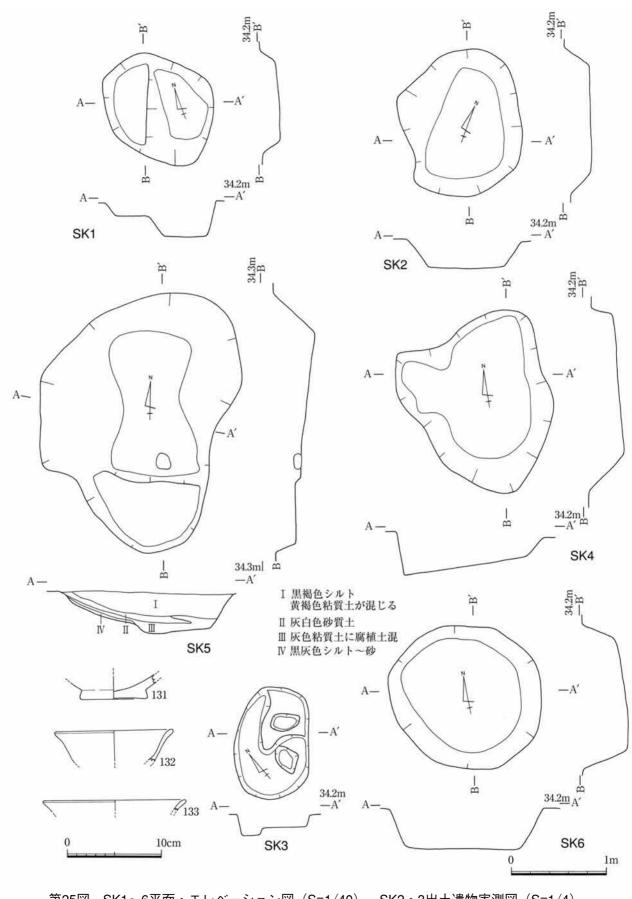
調査区(I区上段)の南側(L2グリッド)に位置する。検出高は34.16mを測る。平面形態は不整 楕円形状を呈し、長径2.78m、短径1.85m、深さ21~44cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、西側 は緩やかに立ち上がる。南側に段部を有し、形状から切り合いの可能性も考えられる。埋土は4層で あり、I層と II~IV 層間に堆積の差が看取できる。

遺物は出土していない。

SK6 (第25図)

調査区(I区上段)の南側(K2・3/L2・3グリッド)に位置する。検出高は34.17mを測る。平面 形態は円形状を呈し、長径1.60m、短径1.52m、深さ24~46cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、 床面は南側に向かって傾斜している。埋土の状態は基本的にSK1と同様と考えられる。

遺物は口縁・底部(回転糸切り)を含む土師器片21点と、焼成不良を含む須恵器片4点、瓦質土器片1点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。



第25図 SK1~6平面・エレベーション図 (S=1/40) SK2・3出土遺物実測図 (S=1/4) 131 (SK2) 132、133 (SK3)

SK7 (第26~28図)

調査区(I区下段)の中央東寄り(L6グリッド)に位置する。検出高は33.08mを測る。平面形態は不整形状を呈し、長径2.07m、短径1.54m、深さ30~57cmを測る。西側に段部を有し、遺物の出土状態や形状から切り合いの可能性も考えられる。また段部床面から径約20cm、深さ17cmを測るピットを検出しているが、遺構との関連性は不明である。

遺物は口縁・底部(回転糸切り)を含む土師器片約300点と、焼成不良を含む須恵器片約40点、瓦片(布目痕)約20点、白磁片(IV類)1点を出土している。他に混入と見られる弥生土器片3点と、近世陶磁器片2点を出土している。図示したものは土師器の小皿(134)、坏(135~140・142・145~151)、椀(141・143・144)、甕(154~157)、羽釜(152)、須恵器の壺(158)、甕(153・160・161)、捏ね鉢(159)、瓦器の椀(162)、瓦質土器の羽釜(163)、同脚部(164~166)、白磁の皿(167)、碗(168・169)、瓦(172~180)、鉄製品(171)である。遺物から12~13世紀頃の遺構と考えられる。

遺構からは板材と15~20cm大の礫を多く検出しており、当初水留め遺構の可能性も考えられた。 また遺構の上面からは遺物を多く含む集石遺構(SS1)を検出しており、当遺構との関連性も含めた 検討が必要になると思われる。

SK8 (第29図)

調査区(I区下段)の中央東側(M6グリッド)に位置する。検出高は33.09mを測る。平面形態は隅丸長方形状を呈し、長径1.30m、短径0.48m、深さ10~15cmを測る。断面形態は皿状を呈し、南側が浅く落ち込んでいる。

遺物は出土していない。

SK9 (第29図)

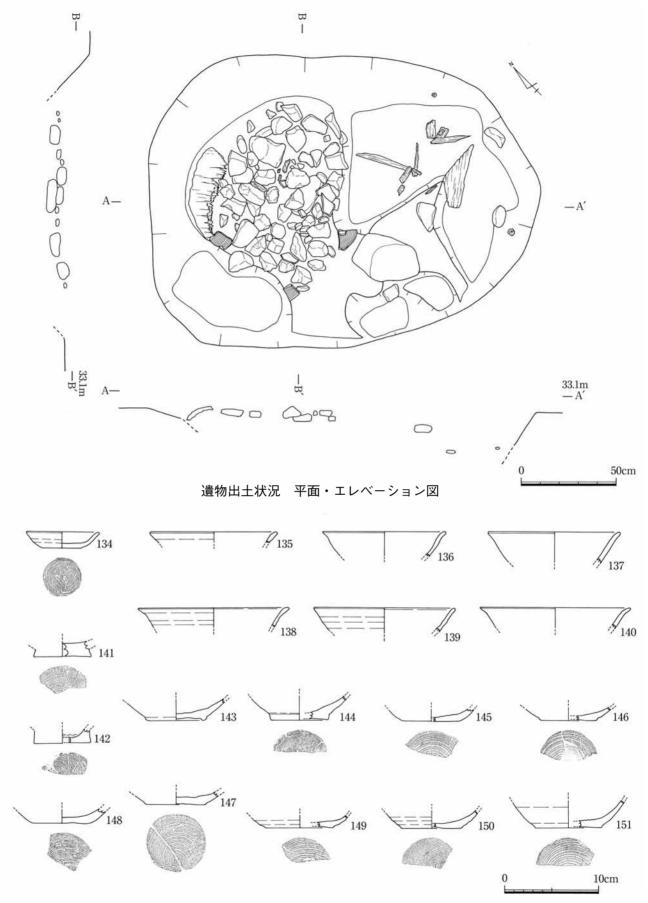
調査区(I区下段)の中央東側(M6グリッド)に位置する。検出高は33.06mを測る。平面形態は不整形状を呈し、長径0.92m、短径0.49m、深さ25cmを測る。断面形態は箱形状を呈し、床面の形状はほぼ水平である。

遺物は口縁・底部(回転糸切り)を含む土師器片約30点と、須恵器片3点、瓦片(布目痕)2点、 黒色土器の可能性が考えられる細片2点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。図示した ものは土師器の坏(181・182・184・185)、椀(183)、甕(186)である。遺物から12~13世紀頃の 遺構と考えられる。

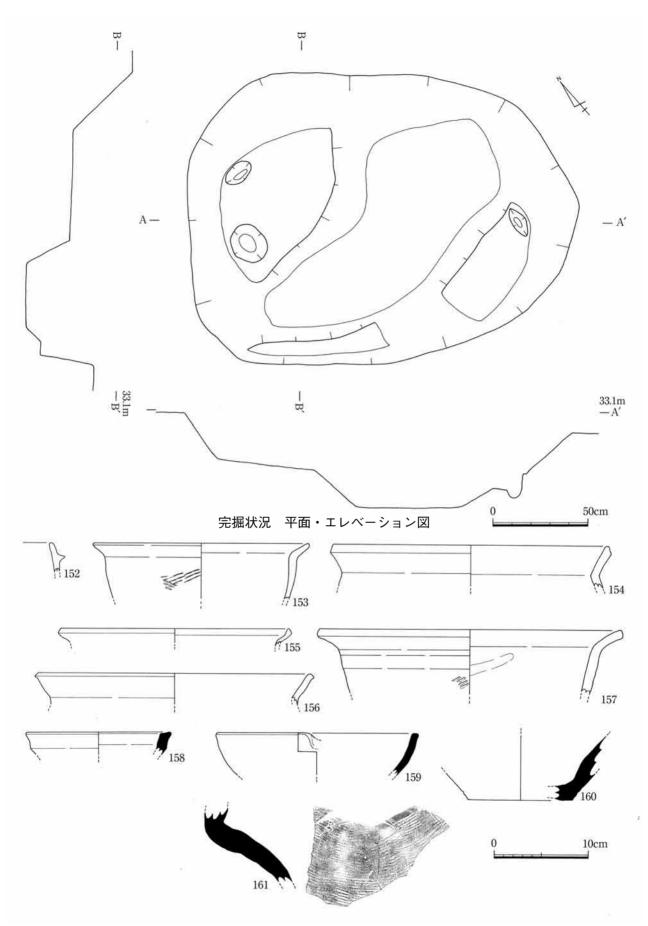
SK10 (第30図)

調査区(I区下段)の中央東側(M6グリッド)に位置する。検出高は33.05mを測る。平面形態は 歪な方形状を呈し、長径1.18m、短径1.06m、深さ14cmを測る。床面から長径27~40cm、短径10~34 cm、深さ6~9cmを測るピット状の落ち込みを検出しているが、遺構との関連性は不明である。

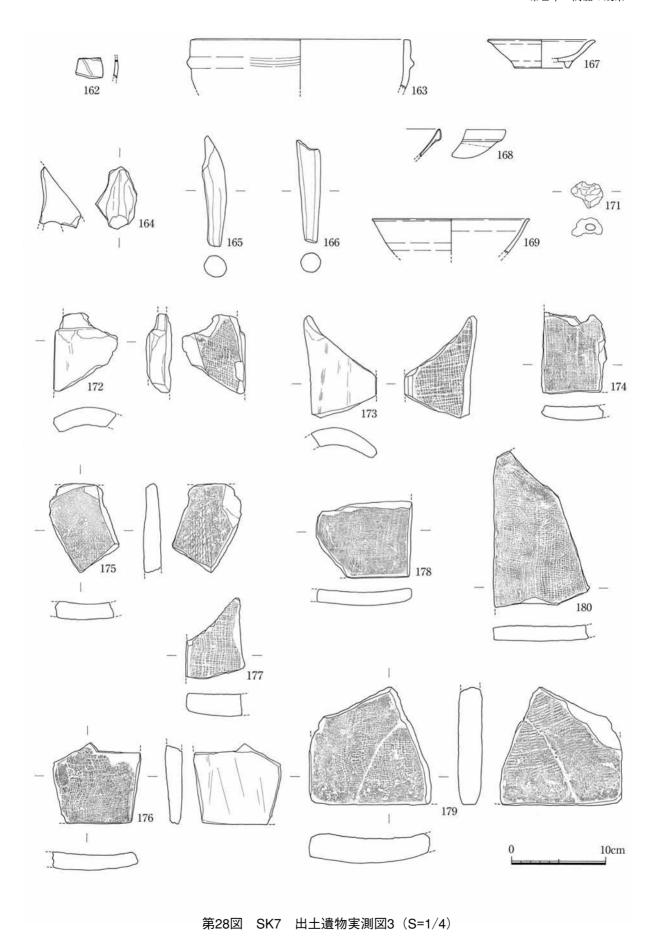
遺物は出土していない。

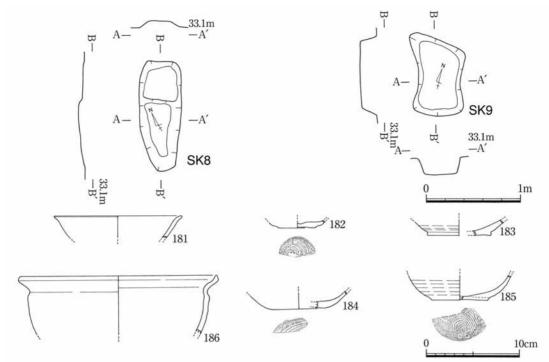


第26図 SK7 遺物出土状況 平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図1 (S=1/4)



第27図 SK7 完掘状況・平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図2 (S=1/4)





第29図 SK8・9平面・エレベーション図 (S=1/40) SK9 出土遺物実測図 (S=1/4)

SK11 (第30図)

調査区(I区下段)の中央東側(M6グリッド)に位置する。検出高は33.07mを測る。平面形態は隅丸方形状を呈し、長径1.21m、短径0.50m、深さ10cmを測る。SD5に切られている。断面形態は皿状を呈している。北側に径53~55cm、深さ27cmを測る方形状の掘り込みを有しているが、形状から切り合いの可能性も考えられる。

遺物は出土していない。

SK12 (第30図)

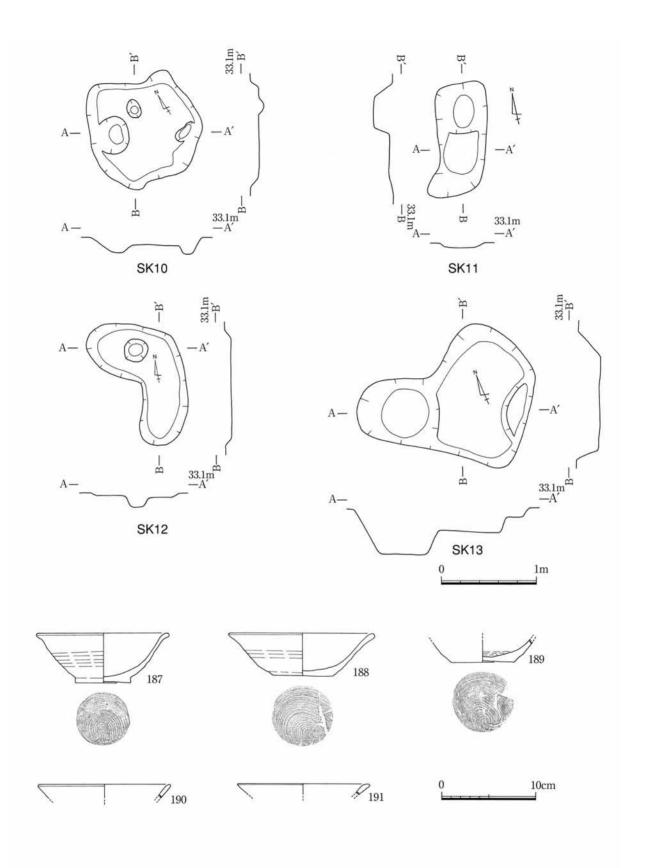
調査区(I区下段)の中央東側(M6グリッド)に位置する。検出高は33.02mを測る。平面形態は不整楕円形状(逆L字状)を呈し、長径1.45m、短径0.58m、深さ6cmを測る。断面形態は皿状を呈している。床面から径25cm、深さ13cmを測るピット状の落ち込みを検出し、ほぼ完形の土師器の坏(187)を出土している。

遺物は口縁部を含む土師器片2点を出土している。

SK13 (第30図)

調査区(I区下段)の中央東側(M6・N6グリッド)に位置する。検出高は33.04mを測る。平面 形態は不整楕円形状を呈し、長径1.76m、短径1.40m、深さ27cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し ている。西側に長径0.88m、短径0.69m、深さ51cmを測る楕円形状の掘り込みを有しているが、形状 から切り合いの可能性も考えられる。

遺物は底部(回転糸切り)を含む土師器片6点を出土しており、多くは摩耗している。図示したのは土師器の坏(188~191)である。



第30図 SK10~13平面・エレベーション図(S=1/40) SK12・13出土遺物実測図(S=1/4) 187 (SK12) 188~191 (SK13)

SK14 (第31図)

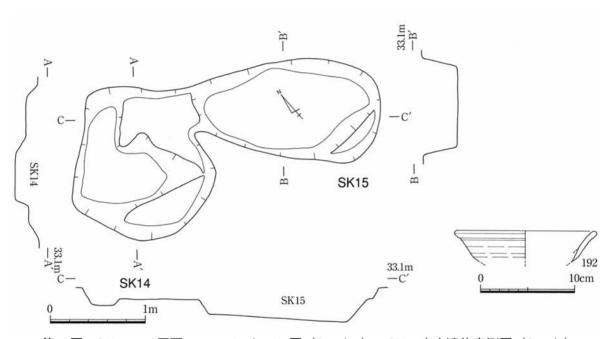
調査区(I区下段)の中央東側(M7/N7グリッド)に位置する。検出高は33.04mを測る。平面 形態は歪な方形状を呈し、長径1.63m、短径1.48m、深さ14~27cmを測る。西側と南側に段部を有し、 東側はSK15に切られている。

遺物は土師器片の口縁部を2点出土している。図示したのは土師器の坏(192)である。

SK15 (第31図)

調査区(I区下段)の中央東側(N7グリッド)に位置する。検出高は33.02mを測る。平面形態は 楕円形状を呈し、長径1.96m、短径1.02m、深さ38cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、床面は東 側に向かって緩やかに傾斜している。西側はSK14を切っている。

遺物は出土していない。



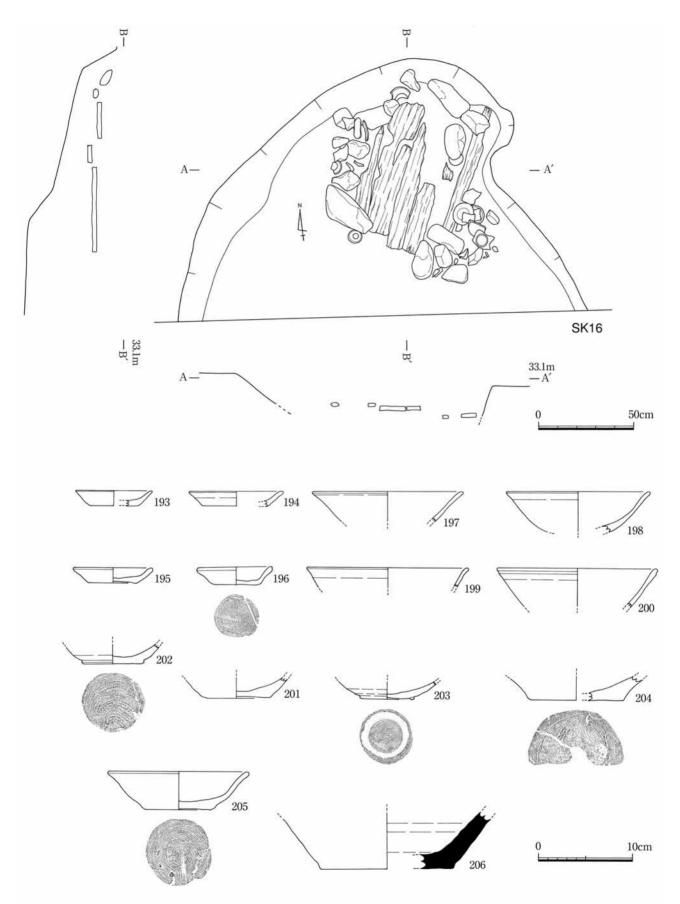
第31図 SK14・15平面・エレベーション図(S=1/40) SK14出土遺物実測図(S=1/4)

SK16 (第32~35図)

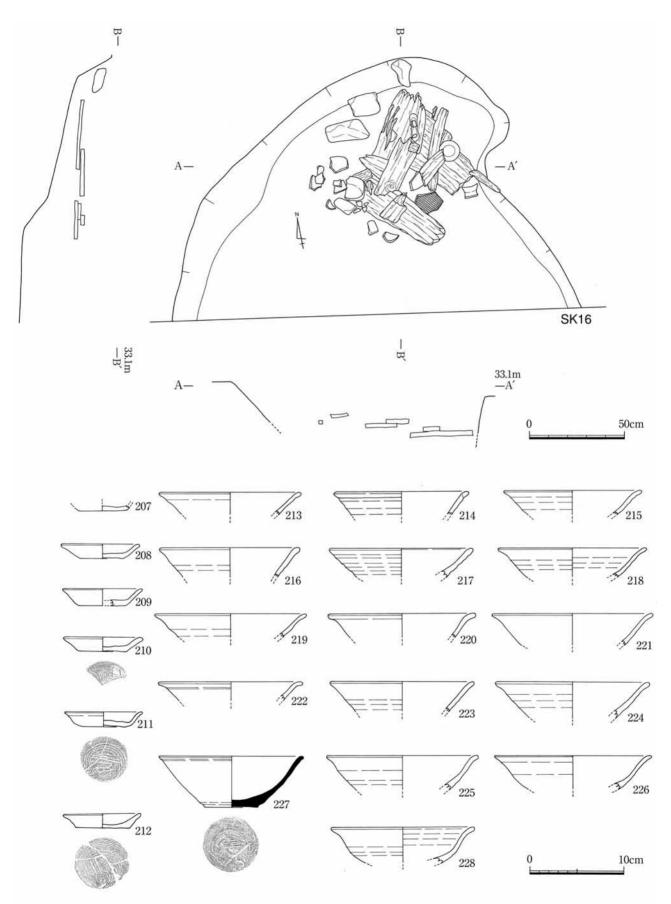
調査区(I区下段)の中央南寄り(K7/L7グリッド)に位置する。南側はTRにより未検出である。検出高は33.10mを測る。平面形態は不整楕円形状を呈し、深さ27~51cmを測る。床面は段部を有しており、遺物の出土状態などから切り合いの可能性も考えられる。

遺物は口縁・底部(回転糸切り)を含む土師器片約450点と、須恵器片約80点、窯壁片9点、瓦片(布目痕)1点、瓦器片1点、白磁片(N類)1点を出土している。他に混入と考えられる弥生土器片7点を出土している。図示したものは土師器の小皿(193~196・207~212)、坏(201・205・213~226・230~233)、椀(197~200・202・203・227~229・234~236)、甕(237・238)、鉢(204)、須恵器の壺(239・240・246)、甕(241~245)、鉢(206)、瓦器の椀(247・248)、白磁の碗(249・250)、瓦(251)である。遺物から12~13世紀頃の遺構と考えられる。

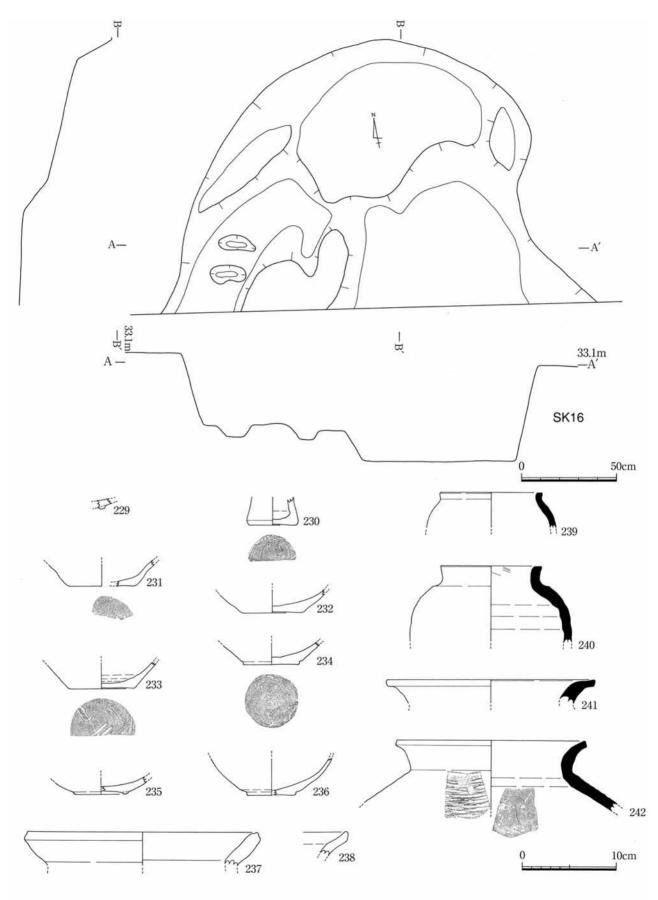
遺構からは板材と15~30cm大の礫を多く検出しており、水留め遺構の可能性も考えられる。



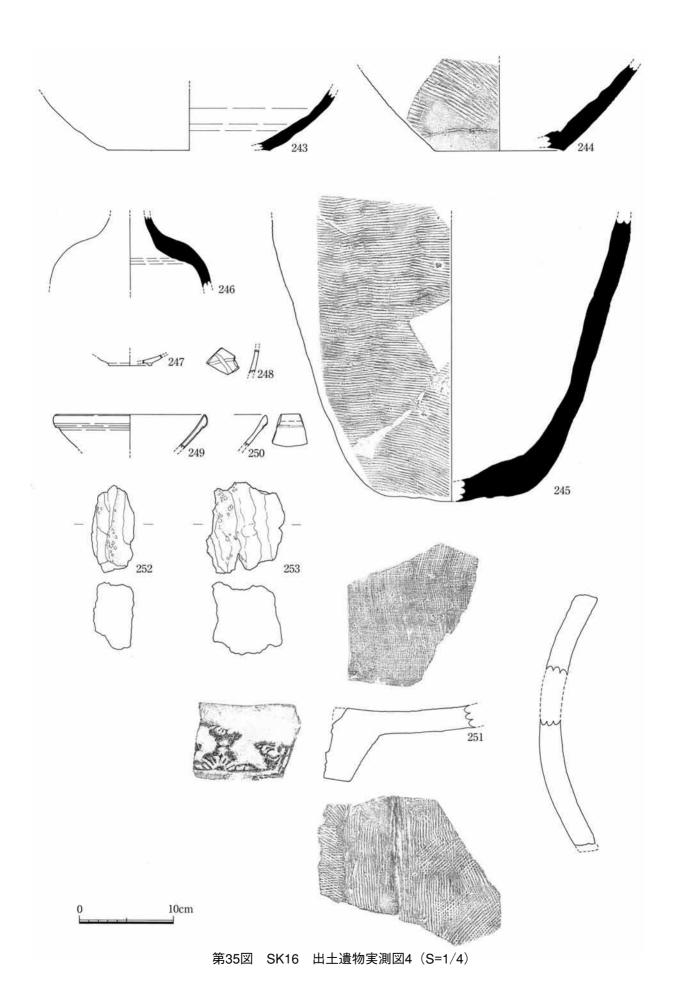
第32図 SK16 1面目遺物出土状況 平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図1 (S=1/4)



第33図 SK16 2面目遺物出土状況 平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図2 (S=1/4)



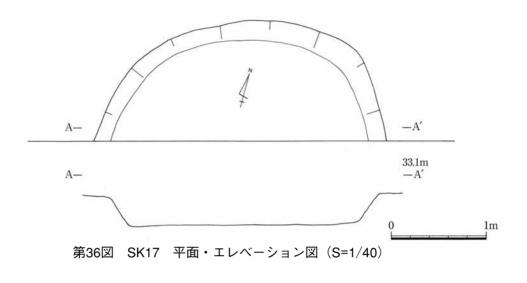
第34図 SK16 完掘状況 平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図3 (S=1/4)



SK17 (第36図)

調査区(I区下段)の南端(K12/L12グリッド)に位置する。南側は調査区外の為、未検出である。検出高は32.94mを測る。平面形態は現状で楕円形状を呈し、径3.45m、深さ1.40mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、床面の形状はほぼ水平である。

遺物は口縁・底部(回転糸切り)を含む土師器片120点と、口縁部を含む須恵器片7点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。他に混入と考えられる近世陶磁器片1点を出土している。



(4) 溝(SD)

SD1 (第37図)

調査区(I区上段)の北端(M1/N1グリッド)に位置する。両端は調査区外へ続いている。検出 高は北端で34.18m、東端で34.15mを測る。主軸方向はN-54°-Wで、僅かに東端を振っている。検出 規模は2.90×0.30m、床面高は北端で33.95m、東端で33.89mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最 深部で27cmを測る。遺構は旧表土直下より掘り込まれ、底面に礫が確認された。

遺物は瓦片(近代以降)1点を出土している。口縁部を含む土師器片11点と、瓦質土器片1点、瓦片(布目痕)1点も出土しているが、土師器片の多くは摩耗しており、溝が機能した時期以外の遺物だと考えられる。近世以降の暗渠の可能性が考えられる遺構である。

SD2 (第37図)

調査区(I区上段)の北端(M1/N0・1グリッド)に位置する。両端は調査区外へ続いている。 検出高は北・東端ともに34.15m を測る。主軸方向はN-30°-Wで、ほぼ直線状に検出している。検出 規模は7.70×0.26m、床面高は北端で34.11m、東端で34.08mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最 深部で11cmを測る。

遺物は近世陶磁器片1点を出土している。図示したものは瓦(254・255)、窯壁片(256)であるが、 周辺から検出された掘建柱建物跡等の軸方向が一致せず、近世以降の暗渠の可能性が考えられる遺 構である。

SD3 (第37図)

調査区(I区上段)の北端(K0・1/L0グリッド)に位置する。北端は調査区外へ続いている。

検出高は北端で34.15m、南端で34.12mを測る。主軸方向はN-30°-Wで、ほぼ直線状に検出している。 検出規模は6.56×0.30m、床面高は北端で33.70m、南端で33.76mを測る。断面形態は箱形状を呈し、 最深部で52cmを測る。

遺物は摩耗した土師器片(底部)1点と、須恵器片1点、染付を含む近世陶磁器片15点、備前焼片(擂り鉢)2点、瓦片(近代)10点を出土している。主な出土遺物や周辺から検出された掘建柱建物跡等の軸方向が一致しないなど、近世以降の暗渠の可能性が考えられる遺構である。

SD4 (第37図)

調査区(I区上段)の北端(J0/K0・1グリッド)に位置する。北端は調査区外へ続いている。検出高は北・南端ともに34.33mを測る。主軸方向はN-30°-Wで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は4.35×0.30m、床面高は北端で34.23m、南端で34.29mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で15cmを測る。

遺物は口縁・底部(回転糸切り)を含む土師器片76点と、瓦片(布目痕)1点、近世陶磁器片1点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。図示したものは土師器の小皿(257)、坏(258)、羽釜(259)、瓦質土器の羽釜(260)、瓦(261)であるが、付近に位置するSD2・3(近世以降の暗渠の可能性あり)と軸方向が同一であり、出土遺物との関係を含めて、時期・性格等については検討を要する。

SD5 (第38図)

調査区(I区下段)の東側(M5・6/N6グリッド)に位置する。北端は未検出であり、東端は調査区外へ続いている。検出高は北端で33.13m、東端で33.04mを測る。北端からN-10°-Eで約4.0m検出し、N-65°-Wで弧を描き東端に至る。SK11・12を切っている。検出規模は8.63×0.43m、床面高は北端で33.08m、東端で32.84mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で21cmを測る。

遺物は口縁・底部(回転糸切り)を含む土師器片4点を出土しており、多くは摩耗している。底部の1点は輪高台状を呈している。図示したものは土師器の坏(262~264)、須恵器の蓋(265)である。遺物から12~13世紀頃の遺構と考えられ、切り合い関係にある土坑とは僅かな時期差があると考えられる。

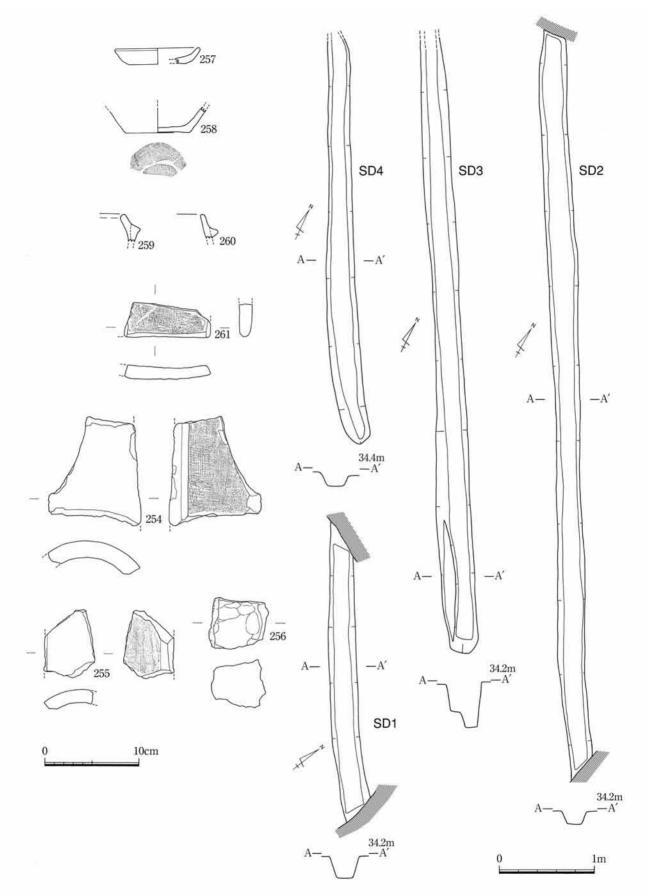
SD6 (第38図)

調査区(I区下段)の中央(K6/L6グリッド)に位置する。東端は未検出であり、西端はTRにより切られている。検出高は東端で33.24m、西端で33.22mを測る。主軸方向はN-63°-Eで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は2.37×0.38m、床面高は東端で33.19m、西端で33.17mを測る。断面形態は皿状を呈し、最深部で9cmを測る。

遺物は出土していない。隣接するSD7~9と軸方向がほぼ同一であり、畝状遺構の可能性も考えられる。

SD7 (第38図)

調査区(I区下段)の中央($K6/L5 \cdot 6/M5$ グリッド)に位置する。東端は未検出であり、西端はTRにより切られている。検出高は東端で33.12m 、西端で33.24mを測る。主軸方向はN-60°-Eでほぼ直線状に検出している。検出規模は 11.80×0.36 m、床面高は東端で33.07m、西端で33.13mを測る。断面形態は皿状を呈し、最深部で11cmを測る。



第37図 SD1~4平面・エレベーション図(S=1/40) SD2・4出土遺物実測図(S=1/4) $254 \sim 256 \, (\, \text{SD2}\,) \ \ 257 \sim 261 \, (\, \text{SD4}\,)$

遺物は口縁・底部(回転糸切り)を含む土師器片10点を出土しており、多くは摩耗している。隣接するSD6~9と軸方向がほぼ同一であり、畝状遺構の可能性も考えられる。

SD8 (第38図)

調査区(I区下段)の中央(K6グリッド)に位置する。東端は未検出であり、西端はTRにより切られている。検出高は東端で33.24m、西端で33.27mを測る。主軸方向はN-61°-Eで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は2.50×0.25m、床面高は東端で33.20m、西端で33.23mを測る。断面形態は皿状を呈し、最深部で4cmを測る。

遺物は出土していない。隣接するSD6~9と軸方向がほぼ同一であり、畝状遺構の可能性も考えられる。

SD9 (第38図)

調査区(I区下段)の中央(K6/L5・6グリッド)に位置する。東端は未検出であり、西端はTRにより切られている。検出高は東端で33.23m、西端で33.27mを測る。主軸方向はN-62°-Eで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は8.08×0.27m、床面高は東端で33.21m、西端で33.24mを測る。断面形態は皿状を呈し、最深部で5cmを測る。遺物は底部を含む土師器片5点と、須恵器片1点、瓦質土器片1点を出土しており、土師器片と瓦質土器片は摩耗している。隣接するSD6~8と軸方向がほぼ同一であり、畝状遺構の可能性も考えられる。

SD10 (第39図)

調査区(I区下段)の南側(K9・10/L9グリッド)に位置する。東端はTRに切られている。検出高は東端で33.11m、北端で33.14mを測る。主軸方向はN-57°-Eで、北側で僅かに弧を描き検出を終える。SR3を切っているが、SB5との前後関係は不明である。検出規模は7.60×0.38m、床面高は東・北端ともに32.99m を測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部は17cmを測る。埋土は灰色シルトである。

遺物は口縁・底部(回転糸切り)を含む土師器片32点と、須恵器片3点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。図示したのは土師器の小皿(266・267)、鉢(268)である。

SD11 (第39図)

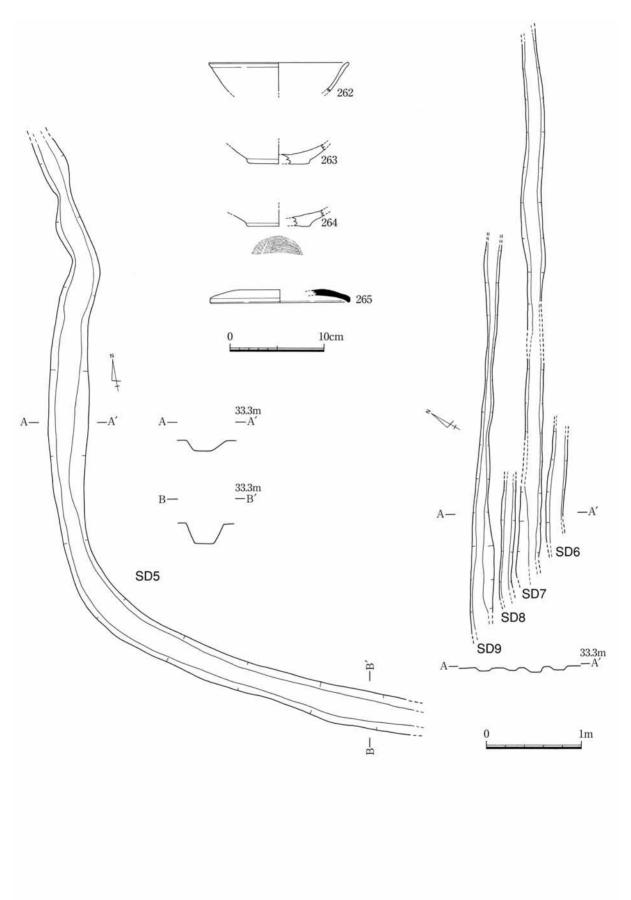
調査区(I区下段)の南側(I9/J9・10グリッド)に位置する。北端は未検出である。検出高は 北端で33.25m、南端で33.19mを測る。主軸方向はN-14°-Wで、ほぼ直線状に検出している。掘建柱 建物跡(SB6)を含むピット3個に切られている。検出規模は7.00×0.32m、床面高は北・南端ともに 33.17mを測る。断面形態は皿状を呈し、最深部は8cmを測る。

遺物は出土していない。

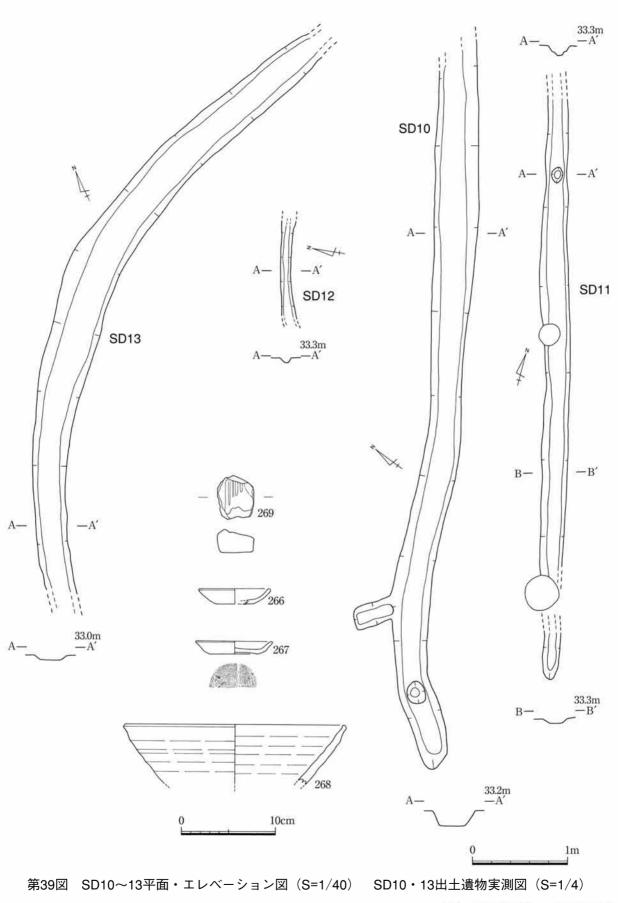
SD12(第39図)

調査区 (I区下段) の南側 (I9・10グリッド) に位置する。両端は未検出である。検出高は東端で33.28m、西端で33.27m を測る。主軸方向はN-78°-Eで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は1.09×0.15m、床面高は東端で33.21m、西端で33.20mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で5cmを測る。

遺物は煉瓦片(近代)1点を出土している。



第38図 SD5~9平面・エレベーション図 (S=1/40) SD5出土遺物実測図 (S=1/4)



266~268 (SD10) 269 (SD13)

SD13 (第39図)

調査区(I区下段)の南側(H11・12/I11グリッド)に位置する。両端は未検出である。検出高は東端で32.99m、南端で32.91mを測る。主軸方向は東端からN-78°-Eで約2.5m検出し、N-27°-Eで弧を描き東端に至る。検出規模は6.65×0.40m、床面高は東端で32.92m、南端で32.88mを測る。断面形態は皿状を呈し、最深部で10cmを測る。埋土は灰色シルトである。

遺物は口縁・底部(回転糸切り)を含む土師器片13点と、須恵器片1点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。図示したものは窯壁片(269)である。

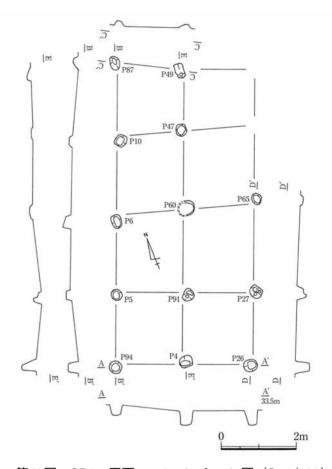
(5) 掘立柱建物(SB)·柵列(SA)·柱穴等(P)

SB1 (第40・41図)

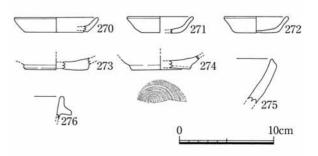
調査区(I区上段)の北側(L0・1・2/M0・1・2グリッド)に位置する。SK2・SB2との切り合い関係は不明である。検出高は34.12~34.33mを測る。棟方向はN-22°-Eである。検出規模は梁間1×桁行4、梁間3.6m×桁行8.0mを測る。柱間寸法は梁間1.8m、桁行1.5~2.3mを測る。柱穴数は13で、北東隅の柱穴は未検出と考えられる。柱穴の規模は径28~39cm、深さ8~39cmを測る。

遺物はP4から口縁・底部を含む土師器片29点、P5から土師器片1点、P6から土師器片7点、P10から土師器片1点、P26から底部を含む土師器片8点、P27から土師器片3点、P87から土師器片8点、P94から土師器片2点をそれぞれ出土している。底部は回転糸切りで、土師器片の多くは摩耗している。図示したものはP4出土の土師器の椀(273)、P5出土の土師器の小皿(270)、P6出土の瓦質土器の羽釜(276)、P26出土の土師器の小皿(271・272)、椀(274)、P94出土の瓦質土器の鉢(275)である。遺物から13世紀頃の遺構と考えられる。

尚、P5は当遺構と重複して検出しているSB2 を構成する柱穴と検出場所が一致しており、建 て替え等が行われた可能性を含んでいる。



第40図 SB1 平面・エレベーション図 (S=1/100)



第41図 SB1 出土遺物実測図 (S=1/4)

SB2 (第42図)

調査区 (I区上段) の北側 (L0・1/M0・1グリッド) に位置する。SB1との切り合い関係は不明である。検出高は34.12~34.19mを測る。棟方向はN-13°-Wである。検出規模は梁間2×桁行3、梁間3.2m×桁行4.8mを測る。柱間寸法は梁間1.2~2.2m、桁行1.3~2.0mを測る。柱穴数は10である。柱穴の規模は径22~34cm、深さ6~25cmを測る。

遺物はP5から土師器片1点、P12から土師器片3 点、P38から窯壁片1点をそれぞれ出土している。

尚、P5は当遺構と重複して検出しているSB1を 構成する柱穴と検出場所が一致しており、建て替 え等が行われた可能性を含んでいる。

SB3 (第42図)

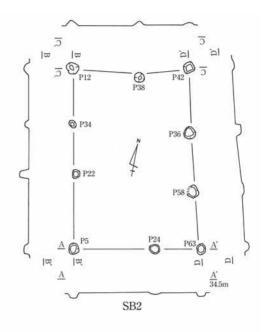
調査区(I区下段)の中央東寄り(L7/M7グリッド)に 位置する。検出高は32.76~32.81mを測る。棟方向はN-10°-Eである。検出規模は梁間1×桁行1、梁間1.3m×桁行1.3m を測る。柱間寸法は梁間1.3m、桁行1.3mを測る。柱穴数は 4である。柱穴の規模は径18~24cm、深さ9~19cmを測る。

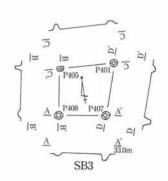
遺物は出土していない。当遺構はSE1に伴う可能性が考えられる。

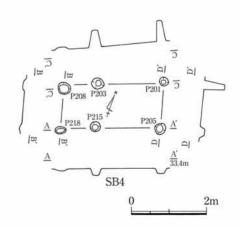
SB4 (第42図)

調査区(I区下段)の中央南寄り(K7・8/L7・8グリッド)に位置する。SK16との切り合い関係は不明である。検 出高は33.13~33.18mを測る。棟方向はN-68°-Eである。検 出規模は梁間1×桁行2、梁間1.2m×桁行2.6mを測る。柱間 寸法は梁間1.2m、桁行0.9~1.7mを測る。柱穴数は6である。 柱穴の規模は径25~35cm、深さ5~57cmを測る。

遺物はP201から口縁部を含む土師器片3点、P205から底部を含む土師器片6点と須恵器片1点、P215から瓦質土器片1点、口縁・底部を含む土師器片4点をそれぞれ出土している。底部は回転糸切りで、土師器片の多くは摩耗している。







第42図 SB2~4 平面・エレベーション図 (S=1/100)

SB5 (第43図)

調査区(I区下段)の南側(K9・10グリッド)に位置する。 SD10との前後関係は不明である。検出高は33.08~33.16mを測る。 棟方向はN-19°-Eである。検出規模は梁間1×桁行2、梁間2.0m× 桁行3.7mを測る。柱間寸法は梁間2.0m、桁行1.8~2.3mを測る。 柱穴数は5で、南西隅の柱穴は未検出と考えられる。柱穴の規模 は径25~56cm、深さ13~34cmを測る。

遺物はP233から口縁・底部を含む土師器片8点と須恵器片2点、 P340から土師器片2点、P345から土師器片7点と瓦片1点をそれぞ れ出土している。

付近に位置するSB6・7とは棟方向が同軸であり、一連の遺構 群の可能性が考えられる。

SB6 (第43図)

調査区 (I区下段) の南側 (I9・10/I9・10グリッド) に位置 する。SD11を切っている。検出高は33.22~33.26mを測る。棟方 向はN-19°-Eである。検出規模は梁間1×桁行2、梁間2.3m×桁行 4.0mを測る。柱間寸法は梁間2.3m、桁行1.7~2.3mを測る。柱穴 数は6である。柱穴の規模は径約22~31cm、深さ約14~28cmを測 る。

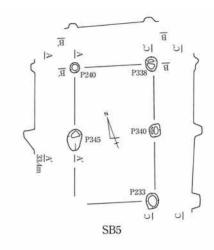
遺物はP249から土師器片6点、P270から土師器片1点、P359か ら土師器片8点をそれぞれ出土している。底部は回転糸切りで、 土師器片の多くは摩耗している。

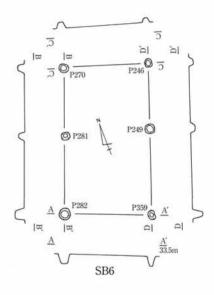
付近に位置するSB5・7とは棟方向が同軸であり、一連の遺構 群の可能性が考えられる。

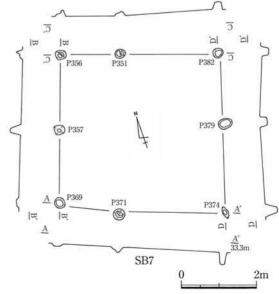
SB7 (第43・44図)

調査区(I区下段)の南側(I11・12/ K11・12グリッド) に位置する。SB8との前 後関係は不明である。検出高は32.95~33.07 mを測る。棟方向はN-19°-Eである。検出規 模は梁間2×桁行2、梁間4.1m×桁行4.3mを 測る。柱間寸法は梁間1.9m~2.3m、桁行1.6 m~2.6mを測る。柱穴数は8である。柱穴の 規模は径27~38cm、深さ8~34cmを測る。

遺物はP356から土師器片6点、P357から土 師器片2点、P369から土師器片1点、P371か ら口縁部を含む土師器片5点、P379から口 第43図 SB5~7 平面・エレベーション図 (S=1/100)







縁・底部(輪高台1点)を含む土師器片28点、 P382から土師器片2点と須恵器片20点をそれ ぞれ出土している。

底部は回転糸切りで、土師器片の多くは摩耗 している。図示したものはP379出土の土師器 の坏(277)と、P382出土の須恵器の壺(278) である。

付近に位置するSB5・6とは棟方向が同軸 であり、一連の遺構群の可能性が考えられる。 SB8 (第45図)

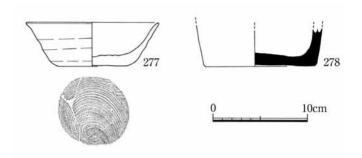
調査区(I区下段)の南側(J11・12/K11・12グリッド)に位置する。SB7との前後関係は不明である。検出高は33.01~33.08 mを測る。棟方向はN-82°-Eである。検出規模は梁間1×桁行2、梁間3.1m×桁行4.4mを測る。柱間寸法は梁間3.1m、桁行2.2mを測る。柱穴数は5であるが、北東隅の柱穴は未検出と考えられる。柱穴の規模は径28~76cm、深さ7~42cmを測る。

遺物はP349から土師器片3点、P367から瓦片1点をそれぞれ出土している。

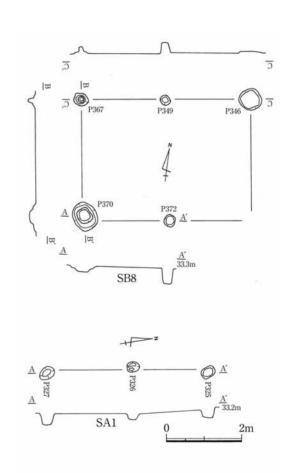
SA1 (第45図)

調査区(I区下段)の中央東側(N7・8グリッド)に位置する。検出高は32.92~33.02 mを測る。主軸方向はN-10°-Eである。検出規模は4.6mを測る。柱間寸法は2.0~2.2mを測る。柱穴数は3であり、南端のP327は土取り跡4の上面から検出している。柱穴の規模は径32~41cm、深さ17~32cmを測る。

遺物は出土していない。



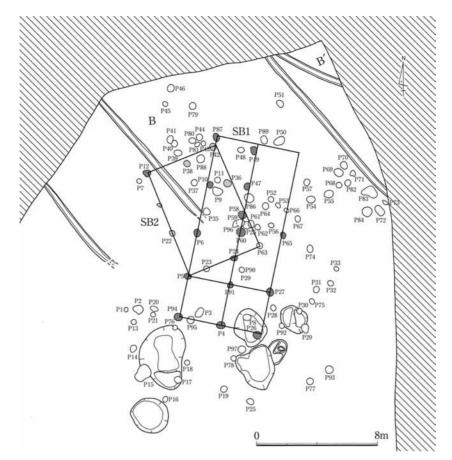
第44図 SB7 出土遺物実測図(S=1/4)



第45図 SB8・SA1 平面・エレベーション図 (S=1/100)

柱穴等(P)(第46図~48図)

調査区全域から293基のピットを検出した。調査地点ごとに、調査時点の遺構番号と遺構の規模、 出土遺物について一覧表にまとめて提示する。ピットからの出土遺物は細片が多く、時期が判断可 能な遺物は、すべて古代末から中世前期にかけての遺物である。



第46図 I区上段遺構と遺構(ピット)配置図(S=1/160)

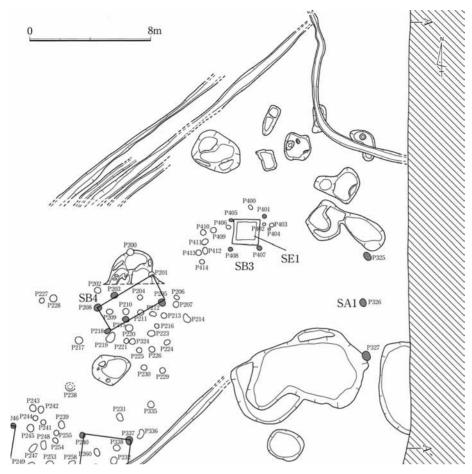
遺構	遺構内での ピット番号	ピット 番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)
SB-1	W 1	P-87	26.0	36.5	13.3
SB-1	W 2	P-10	29.0	30.0	9.2
SB-1	W 3	P-6	26.0	39.0	22.4
SB-1	W 4	P-5	26.0	29.0	14.0
SB-1	W 5	P-94	32.0	33.0	28.7
SB-1	C 1	P-48	25.0	26.0	13.6
SB-1	C 2	P-47	29.0	33.0	3.6
SB-1	C 3	P-60	25.0	39.0	8.5
SB-1	C 4	P-91	26.0	31.0	22.6
SB-1	C 5	P-4	28.0	35.0	38.8
SB-1	E 3	P-65	23.0	28.0	11.6
SB-1	E 4	P-27	30.0	37.0	27.3
SB-1	E 5	P-26	34.0	36.0	39.0
SB-2	W 1	P-12	29.0	33.0	14.1
SB-2	W 2	P-34	16.0	22.0	12.0
SB-2	W 3	P-22	21.0	24.0	24.5
SB-2	C 1	P - 38	25.0	27.0	11.8
SB-2	C 4	P-24	24.0	31.0	5.3
SB-2	E 1	P-42	28.5	29.0	6.8
SB-2	E 2	P-36	30.0	32.0	15.3
SB-2	E 3	P-58	30.0	34.0	4.6
SB-2	E 4	P-63	23.5	27.0	15.4

P-1	19.0	21.0	4.0
P-2	38.0	40.0	24.0
b-3	28.0	46.0	17.9
P-7	21.0	21.5	6.3
P-8	29.0	34.0	10.5
P-9	32.0	47.0	7.0
P-11	24.0	25.0	8.1
P-13	24.0	25.0	2.8
P-14	26.0	34.0	13.1

ピット	1-41 / \	ESTATE (Norm Se /
番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)
P-15	60.0	72.0	27.4
P-16	20.0	28.0	38.4
P-17	28.0	31.5	22.3
P-18	21.0	22.0	12.2
P-19	25.5	27.0	9.2
P-21	22.0	22.0	7.1
P-20	20.0	36.0	8.4
P-23	26.0	26.0	10.2
P-25	25.0	28.0	16.7
P - 28	25.0	28.0	16.1
P-29	35.0	42.0	23.4
P - 30	25.0	27.5	5.5
P - 31	25.0	29.5	19.7
P - 32	22.0	37.0	16.4
P - 33	16.5	19.0	20.6
P - 35	29.0	30.0	9.3
P = 37	27.0	30.0	10.8
P - 39	28.0	38.5	9.2
P - 40	25.0	27.0	36.8
P-41	25.0	34.0	30.8
P - 43	21.0	22.0	3.8
P-44	26.0	26.5	8.6
P-45	22.0	22.0	5.2
P-46	27.0	30.5	30.5
P-49	24.0	39.0	11.7
P-50	32.0	46.0	19.7
P-51	28.0	36.0	11.2
P-52	23.5	27.0	10.4
P-53	18.0	28.0	9.3
P - 54	26.5	34.0	14.1
P-55	29.0	42.0	6.4
P-56	20.5	22.0	9.6
P = 57	25.0	26.0	4.1

ピット 番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)
P-59	20.0	30.0	7.4
P-61	26.0	30.0	10.6
P-62	23.5	25.0	13.1
P-64	24.0	26.0	9.0
P-66	20.0	21.0	7.3
P-67	23.0	28.0	4.9
P-68	25.0	26.0	6.5
P-69	30.0	38.0	8.1
P-70	29.0	43.0	23.1
P-71	25.0	30.0	11.9
P-72	32.0	47.0	10.9
P - 73	14.5	36.0	10.2
P-74	28.0	32.0	14.4
P = 75	20.0	22.0	6.2
P-76	21.0	22.0	23.6
P-77	28.0	28.0	7.4
P-78	21.0	22.0	7.4
P-79	27.5	30.0	63.1
P-80	23.0	30.5	11.8
P-81	15.0	26.0	7.2
P-82	25.0	25.0	19.8
P-83	39.0	62.0	15.3
P-84	42.0	43.0	25.7
P-85	28.0	42.0	17.1
P-86	37.0	41.0	21.6
P-88	31.0	34.0	21.7
P-89	29.0	35.0	17.1
P-90	22.5	25.0	13.2
P-92	22.0	26.0	14.3
P-93	35.0	35.0	32.5
P-95	33.5	34.0	12.7
P-96	26.0	31.0	16.0
P-97	34.0	34.0	30.2

表2 Ι区ピット計測表(1)



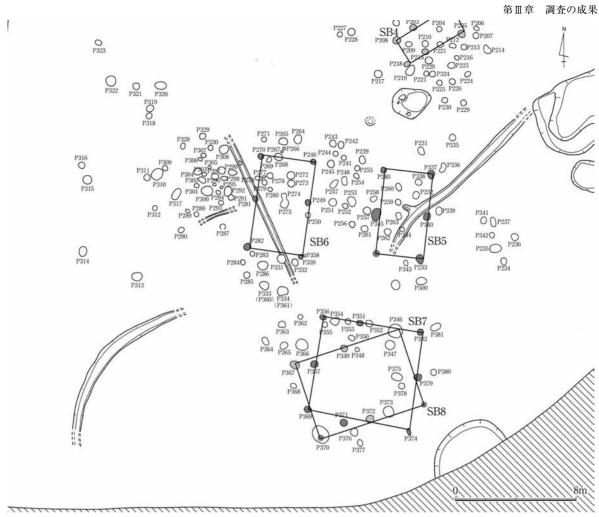
I区下段北半部遺構と遺構(ピット)配置図(S=1/160)

	Sets 18th L				
遺構	遺構内での ピット番号	ピット 番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)
SB-3	W 1	P-405	12.5	18.0	17.2
SB-3	W 2	P - 408	20.5	21.5	7.8
SB-3	E 1	P-401	19.0	19.0	8.3
SB-3	E 2	P-407	21.0	24.0	18.5
SA1	1	P-325	32.0	33.0	28.7
SA1	2	P-326	25.0	26.0	13.6
SA1	3	P-327	29.0	33.0	3.6
SB4	W 1	P-201	22.0	24.5	56.6
SB4	W 2	P-203	31.0	34.0	46.9
SB4	W 3	P-208	31.0	35.0	7.2
SB4	E 1	P-205	30.0	31.0	14.7
SB4	E 2	P-215	26.0	29.0	18.8
SB4	E 3	P-218	19.5	31.0	4.5
					•
		P-400	19.0	22.0	4.2
		P-402	15.0	17.0	13.3
		P-403	17.0	21.0	7.8
		P-404	14.0	17.0	9.9
		P-406	17.0	22.0	20.3
		P-409	19.0	22.0	11.5
		P-410	21.5	22.5	13.3
		P-411	18.5	28.0	16.0
		P-412	21.0	28.0	13.3
		P-413	25.0	25.0	6.8
		P-414	19.0	21.0	8.1
		P-500	36.0	52.0	10.0
		P-200	29.0	41.5	21.1
		P-202	26.0	28.0	10.7
		P-204	23.0	24.0	57.1
		P-206	21.0	23.0	12.3
		P-207	24.0	28.0	9.8
		P-209	23.0	29.0	17.4
		P-210	28.5	30.0	25.5
				2270	

ピット 番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)
P-211	23.0	25.0	32.5
P - 212	19.0	29.0	25.2
P-213	22.0	26.0	25.6
P = 214	32.0	42.0	39.9
P-216	20.0	22.0	21.9
P = 217	32.0	33.0	17.5
P-219	29.0	48.0	27.3
P-220	27.0	30.0	16.6
P-221	20.0	29.5	16.5
P-223	26.0	26.0	23.4
P-224	19.5	24.5	12.8
P-225	25.0	25.0	24.4
P-226	20.5	23.0	15.1
P-227	18.0	22.0	12.5
P-228	29.0	29.0	8.9
P-229	21.0	24.0	16.1
P-230	22.0	23.0	9.6
P-231	25.0	34.0	11.4
P-232	27.0	31.0	21.0
P-234	27.0	29.0	20.5
P-235	35.0	47.0	18.6
P-236	26.0	27.0	20.9
P-237	20.0	44.0	19.1
P-238	15.0	33.0	21.1
P-239	29.0	33.0	8.4
P-241	22.0	23.0	7.7
P - 242	25.0	33.0	19.1
P-243	27.0	32.0	11.0
P-244	23.0	23.0	10.7
P-245	28.0	35.0	7.7
P-247	24.0	45.0	41.0
P-248	23.5	38.0	17.6
P-250	23.0	23.0	22.7
P-251	34.0	36.0	29.2

ピット 番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)
P-252	21.0	28.0	15.9
P-253	30.0	40.0	18.6
P-254	22.0	28.0	27.9
P = 255	25.0	25.0	10.3
P-256	24.0	26.0	30.3
P-257	28.0	32.0	33.5
P-258	21.0	32.0	38.0
P-259	21.0	26.0	17.2
P-260	24.0	35.0	18.6
P-261	25.0	27.0	15.4
P-262	27.0	27.0	18.2
P-263	27.0	31.0	16.0
P-264	30.0	39.0	27.0
P-265	28.0	37.0	8.1
P-266	17.0	17.0	4.2
P-267	9.0	13.0	3.2
P-268	33.0	36.0	18.6
P-269	17.0	31.0	13.0
P-271	21.0	23.0	11.9
P-272	34.0	35.0	21.9
P-273	31.0	31.0	27.0
P-274	26.0	27.0	13.8
P-275	35.0	40.0	19.2
P-276	27.0	28.0	21.1
P-277	12.0	12.0	7.8
P-278	17.0	23.0	15.8
P-279	23.0	25.0	18.5
P-280	19.0	19.0	16.5
P-283	22.5	23.0	23.8
P-284	18.0	22.0	27.5
P-285	23.5	27.0	26.5
P-286	37.0	46.0	24.9
P-287	22.0	24.0	16.7
P-288	21.0	23.0	13.4

表2 I区ピット計測表(2)



I 区下段南半部遺構と遺構(ピット)配置図(S=1/160)

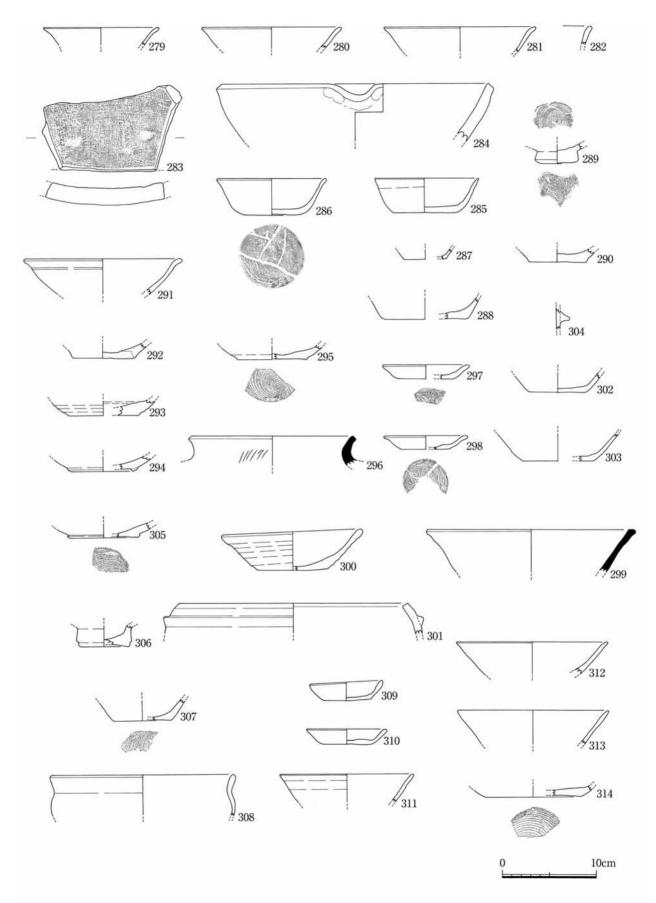
	ピット番号	ピット 番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)
SB5	W 2	P-345	37.0	56.0	29.9
SB5	E 1	P-337	30.0	38.0	12.1
SB5	E 2	P - 340	29.0	34.0	21.0
SB5	E 3	P-233	34.0	39.0	22.9
SB6	W 1	P = 270	23.0	25.0	18.5
SB6	W 2	P-281	21.5	22.0	17.5
SB6	W 3	P - 282	30.0	31.0	26.1
SB6	E 1	P-246	19.5	24.0	13.2
SB6	E 2	P = 249	25.0	25.0	13.6
SB6	E 3	P-359	17.0	26.0	27.8
SB7	W 1	P = 356	23.0	28.0	17.2
SB7	W 2	P-357	25.0	27.0	28.7
SB7	W 3	P - 369	28.0	30.0	7.8
SB7	C 1	P = 351	25.0	27.0	11.1
SB7	C 3	P = 371	31.0	32.0	15.9
SB7	E 1	P - 382	25.0	28.0	46.0
SB7	E 2	P = 379	26.0	38.0	20.1
SB7	E 3	P = 374	16.0	33.0	33.4
SB8	W 1	P-346	56.0	56.0	5.6
SB8	W 2	P-349	24.0	28.0	27.8
SB8	W 3	P-367	32.0	39.0	19.3
SB8	E 2	P-372	28.0	32.5	41.7
SB8	E 3	P-370	62.0	76.0	16.1

P-289	12.5	18.0	2.3
P-290	21.0	25.0	6.4
P-291	23.0	29.0	16.2
P-292	35.0	43.0	19.2
P-293	20.0	23.0	18.3
P-294	18.0	19.0	6.7
P-295	13.0	13.0	10.6
P-296	14.5	15.0	3.9
P-297	28.0	30.0	13.9

ピット 番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)
P-298	20.0	30.0	13.6
P-299	25.0	40.0	13.8
P-300	38.0	46.0	23.7
P-301	18.5	23.5	13.0
P-302	22.0	28.5	11.6
P-303	21.0	24.5	21.4
P-304	28.0	39.0	17.7
P-305	13.0	15.0	4.8
P-306	16.0	21.5	7.3
P-307	23.0	23.5	12.8
P-308	35.0	45.0	20.5
P-309	21.0	23.0	15.7
P-310	42.0	51.0	23.3
P-311	26.0	28.0	12.7
P-312	17.5	21.5	12.2
P-313	33.0	45.0	25.5
P-314	33.0	43.0	16.0
P-315	35.0	38.0	24.3
P-316	24.0	25.0	12.9
P-317	30.0	52.0	11.9
P-318	24.0	28.0	12.3
P-319	25.0	30.0	10.8
P-320	34.0	50.0	13.5
P-321	29.0	31.0	16.0
P-322	40.0	40.0	16.8
P-323	26.0	27.0	10.6
P-324	25.0	28.0	22.4
P-328	18.5	39.0	14.1
P-329	25.0	25.0	8.1
P-330	24.0	24.0	10.2
P-331	46.0	47.0	28.7
P-332	30.0	31.0	36.1
P-333	35.0	41.0	16.4

ピット 番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)
P-334	34.0	43.0	12.7
P-335	29.0	31.0	21.6
P - 336	20.0	45.0	6.9
P - 338	28.0	28.0	11.1
P - 339	29.0	34.0	14.7
P-341	27.0	32.0	12.5
P - 342	21.5	25.0	15.9
P-343	23.0	26.5	11.2
P-344	22.0	24.0	16.1
P-347	40.0	41.0	35.4
P-348	16.5	19.0	8.8
P - 350	20.0	30.0	6.5
P = 352	28.0	29.5	13.6
P - 353	20.0	27.0	3.5
P = 354	27.0	36.0	14.8
P - 355	22.0	23.0	24.9
P = 358	14.0	14.0	17.6
P - 360	34.0	40.0	15.8
P = 361	33.0	41.0	12.9
P = 362	19.0	19.0	6.5
P-363	28.0	40.0	26.7
P-364	27.0	29.0	10.8
P-365	26.0	36.0	20.7
P - 366	43.0	48.0	29.1
P - 368	23.0	29.0	11.9
P = 373	40.5	47.5	37.4
P = 375	32.0	44.0	29.9
P = 376	32.0	33.0	7.6
P-377	19.0	26.0	10.5
P-378	27.0	29.0	39.7
P - 380	25.0	30.0	11.7
P-381	25.0	45.0	12.2
P - 383	27.0	34.0	15.1

表2 Ι区ピット計測表(3)



第49図 ピット出土遺物実測図 (S=1/4)

(6) 下層の遺構・土取り跡

下層検出の遺構は土取り跡 4 基と自然流路 3 条であり、遺構の配置を第50図に示した。 I 区南東端に集まっており、グリッド J \sim N 、 7 \sim 11 0 範囲に分布している。自然流路は北西方向から南東方向に向かって流れている。

土取り跡1 (第51図)

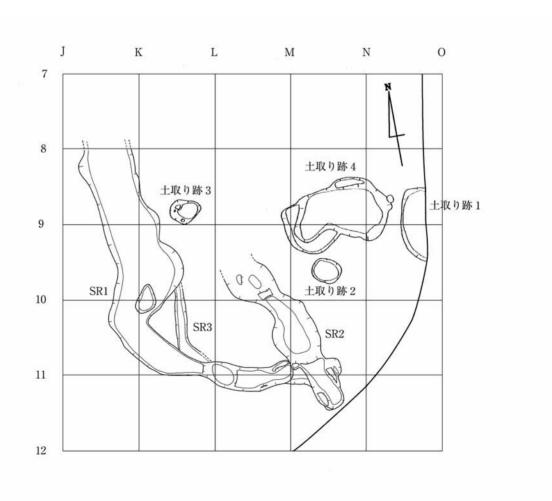
調査区(I区下段)の東端南側(N8・9グリッド)に位置する土坑である。東側は調査区外の為未 検出である。検出高は32.57mを測る。平面形態は長楕円形状を呈し、径3.80m、深さ20cmを測る。 断面形態は逆台形状を呈し、壁面は斜めに立ち上がる。埋土は黒茶褐色腐葉土である。

遺物の出土は確認していない。

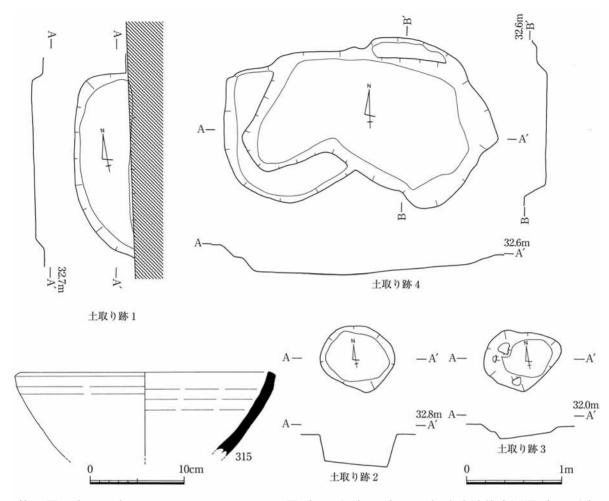
土取り跡2(第51図)

調査区(I区下段)の南側東寄り(M9グリッド)に位置する土坑である。検出高は32.63mを測る。 平面形態は歪な円形状を呈し、径1.50m、深さ58~70cmを測る。断面形態は箱形状を呈し、床面は東側に向かって傾斜している。埋土は黒茶褐色腐葉土である。

遺物の出土は確認していない。



第50図 I区下層遺構位置図(S=1/200)



第51図 土取り跡1~4平面・エレベーション図(S=1/40) 土取り跡4出土遺物実測図(S=1/4)

土取り跡3 (第51図)

調査区(I区下段)の中央南寄り(K8グリッド)に位置する土坑である。検出高は32.81mを測る。 平面形態は楕円形状を呈し、長径1.54m、短径1.26m、深さ18~31cmを測る。断面形態は逆台形状を 呈し、床面は西側に向かって傾斜している。埋土は黒褐色腐葉土である。

遺物の出土は確認していない。

土取り跡4 (第51図)

調査区(I区下段)の東側南寄り(L8・9/M8・9/N8・9グリッド)に位置する土坑である。検 出高は32.59mを測る。平面形態は不整楕円形状を呈し、長径3.48m、短径3.00m、深さ29~54cmを測 る。断面形態は皿状を呈し、床面は西側に向かって傾斜している。西側に段部を有し、形状から切 り合いの可能性が考えられる。埋土は黒茶褐色腐葉土である。

図示したものは須恵器の鉢(315)である。

(7) 下層の遺構・自然流路 (SR)

SR1 (第52図)

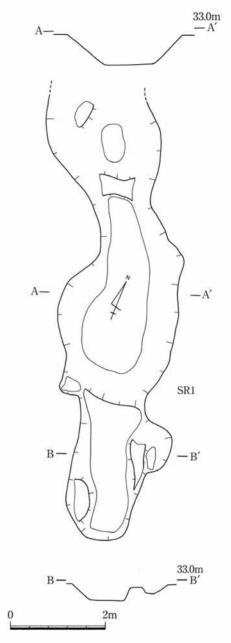
調査区(I区下段)の南側(L9・10/M10・ 11グリッド)に位置する。北端は未検出である。 検出高は北端で32.95m、南端で32.90mを測る。 主軸方向はN-23°-Wで、ほぼ直線状に検出して いる。SD10に切られ、SR3を切っている。検出 規模は9.52×2.00m、床面高は北端で32.62m、 南端で32.38mを測る。断面形態は逆台形状を 呈し、最深部で68cmを測る。

遺物は出土していない。

SR2 (第53図)

調査区(I区下段)の南側(J8・9・10/ K8・9・10・/L10・11グリッド) に位置する。 北端は未検出である。検出高は北端で32.88m、 東端で32.93mを測る。主軸方向は北端からN-6°-Wで約11.5m検出し、N-73°-Wで東端を東 へ振る。SR3を切っている。検出規模は21.60× 1.76m、床面高は東端で32.63m、北端は不明で ある。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で59 cmを測る。埋土は灰褐色砂である。

遺物は弥生土器片13点と石包丁の未製品1点 を出土している。他に口縁・底部(回転糸切り) を含む土師器片20点と、須恵器片1点、瓦質土 器片(羽釜)12点を出土している。土師器片の 多くは摩耗しており、瓦質土器片(羽釜)は1個体分の可能性が考えられる。

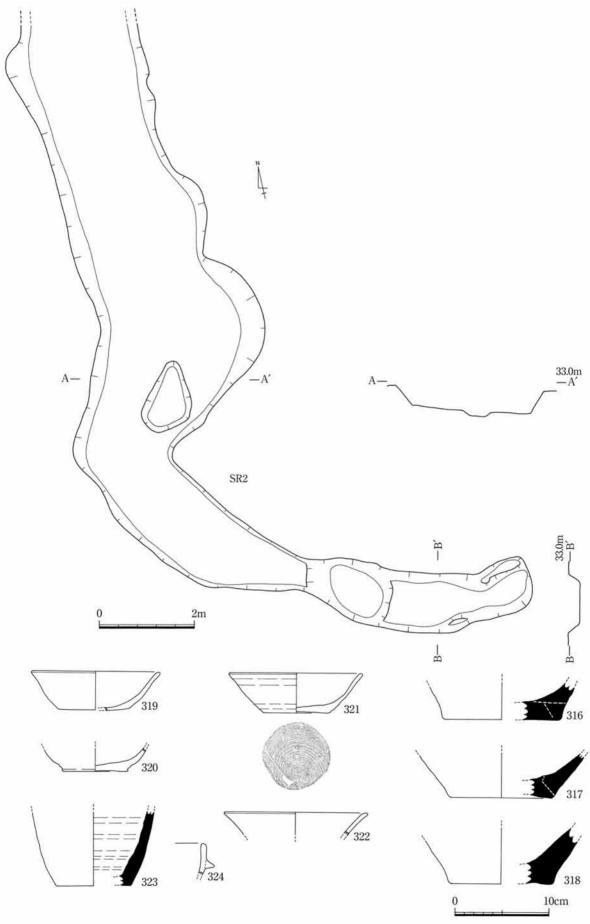


第52図 SR1 平面・エレベーション図 (S=1/80)

図示したものは弥生土器の底部 (316~318)、土師器の坏 (319~322)、須恵器の壺 (323)、瓦質 土器の羽釜(324)であるが、土師器・須恵器・瓦質土器片の多くは検出面直上より出土しており、 遺構に伴わない可能性が考えられる。切り合い関係や出土遺物等から、時期が大きく遡る可能性を 含んでいる遺構である。

SR3 (第54図)

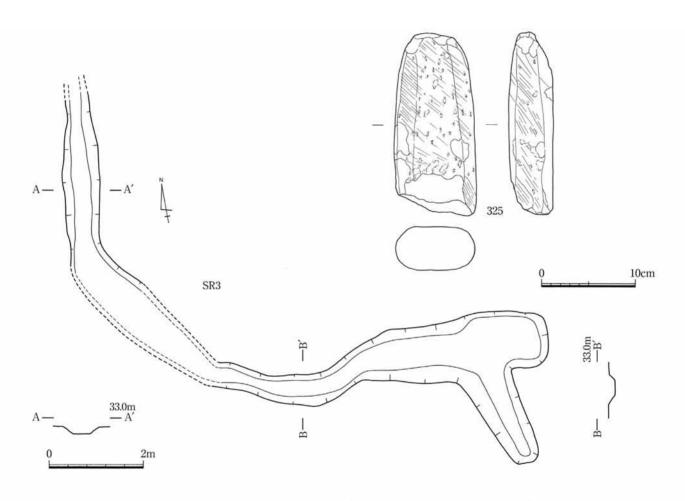
調査区(I区下段)の南側(K9・10・11/L10・11/M10・11グリッド)に位置する。北端は未 検出である。検出高は北端で32.81m、東端で32.64mを測る。主軸方向は北端からN-6°-Eで約3.5m 検出し、N-88°-Wで東端を東へ振る。SR1・2に切られている。検出規模は12.48×0.54m、床面高は



第53図 SR2 平面・エレベーション図 (S=1/80) 出土遺物実測図 (S=1/4)

北端で32.76m、東端で32.57mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で25cmを測る。埋土は灰 茶褐色砂である。

遺物は弥生土器片(底部)2点を出土している。図示したものは弥生時代の石斧(325)である。 切り合い関係や遺物等から弥生時代の溝状遺構の可能性が考えられる。



第54図 SR3 平面・エレベーション図 (S=1/80) 出土遺物実測図 (S=1/4)

(6) 包含層出土遺物

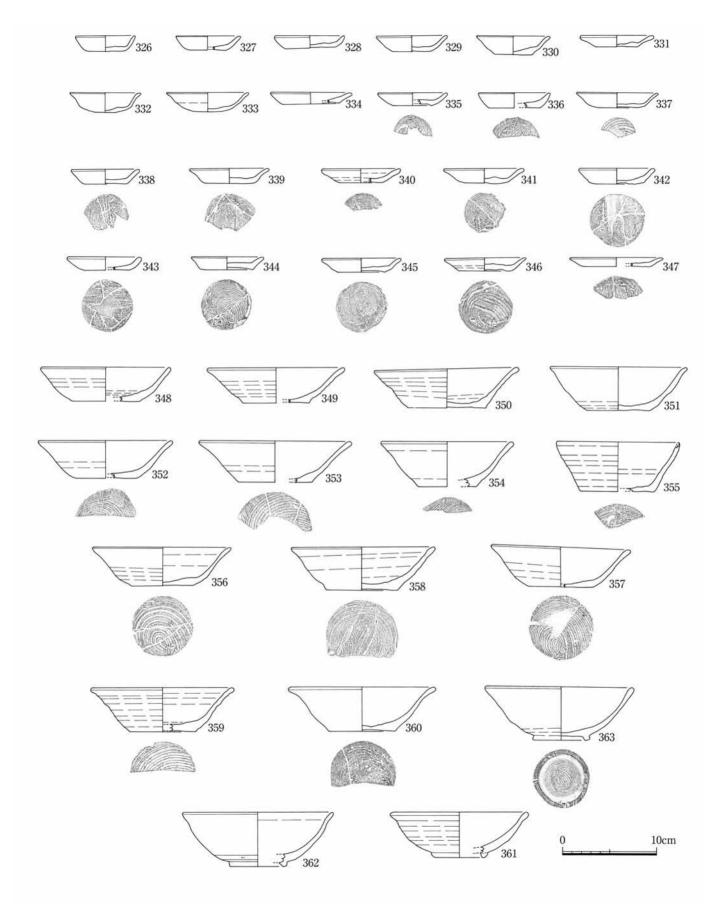
当遺跡の包含層出土遺物は、土師器・須恵器片を中心にコンテナケース約10箱分を出土しており、 土師器片の多くは摩耗している。包含層出土遺物に層位による時期差を看取できなかったため、当 稿においては包含層一括資料として扱い、器種ごとに分類し、図示し得た個々の遺物の特徴を概説 していくこととする。

土師器(小皿・坏・椀・甕)

小皿 (第55図)

326~347は小皿である。全て回転糸切りで、口径5.5~9.4cm、器高0.9~2.1cm、底径4.0~7.0cmを測る。

326は Ⅵ~ Ⅶ層から出土し、口径6.2cm、器高1.7cm、底径4.4cmを測る。色調は浅黄橙色で赤色風化 礫を含んでおり、全体的に摩耗している。327はI区のV~VI層から出土し、口径5.5cm、器高1.5cm、 底径4.0cmを測る。色調はにぶい橙色で赤色風化礫を含み、内外面横ナデ、平行圧痕が認められる。 328はⅢ層から出土し、口径7.2cm、器高1.4cm、底径5.2cmを測り、色調は浅黄橙色でチャートの粗粒 砂を含んでおり、全体的に摩耗している。329は口径7.4cm、器高1.7cm、底径4.0cmを測り、色調は浅 黄橙色でチャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を含んでおり、全体的に摩耗している。330は口径7.6cm、 器高2.0cm、底径4.0cmを測り、色調は浅黄橙色でチャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を含んでおり、 全体的に摩耗している。331はN~V層から出土し、口径7.5cm、器高1.2cm、底径4.5cmを測る。色調 は浅黄橙色で赤色風化礫の粗粒砂を含む。332は口径7.2cm、器高2.1cm、底径5.0cmを測り、色調は浅 黄橙色で精選された胎土を用い、平行圧痕が認められる。333はⅣ~Ⅴ層から出土し、口径8.4cm、器 高2.1cm、底径5.0cmを測る。色調は灰白色で精選された胎土を用い、平行圧痕が認められる。334は 口径8.4cm、器高1.5cm、底径6.0cmを測り、色調は灰白色で内外面に横ナデが認められる。335はⅢ~ IV層から出土し、口径は7.2cm、器高1.3cm、底径4.2cmを測る。色調はにぶい橙色で精選された胎土を 用いている。336はW~W層から出土し、口径は7.4cm、器高1.6cm、底径5.5cmを測る。色調はにぶい 橙色で精選された胎土を用いている。337はⅣ~Ⅴ層から出土し、口径8.4cm、器高1.6cm、底径4.0cm を測る。色調は浅黄橙色で精選された胎土を用いている。338はⅢ~Ⅳ層から出土し、口径7.0cm、器 高1.6cm、底径4.6cmを測る。色調は灰白色で精選された胎土を用い、平行圧痕が認められる。339は Ⅳ~V層から出土し、口径8.0cm、器高1.6cm、底径5.4cmを測る。色調は灰白色で精選された胎土を用 い、内外面に横ナデ、平行圧痕が認められる。340はW~W層から出土し、口径8.2cm、器高1.5cm、 底径4.6cmを測る。色調は橙色でチャートの粗粒砂を含み、平行圧痕が認められる。341はⅣ~Ⅴ層か ら出土し、口径8.2cm、器高1.7cm、底径4.5cmを測る。色調は精選された胎土を用い、内外面に横ナデ が認められる。342は口径7.6cm、器高1.7cm、底径5.6cmを測り、色調は浅黄橙色でチャートの粗粒砂 を含み、平行圧痕が認められる。343は IV ~ V層から出土し、口径7.5cm、器高1.5cm、底径4.8cmを測 る。色調は浅黄橙色でチャート他の粗粒砂を含み、内外面横ナデ、平行圧痕が認められる。344はⅣ ~ V層から出土し、口径7.3cm、器高1.4cm、底径5.4cmを測る。色調は灰白色で精選された胎土を用い ている。345はIV~V層から出土し、口径8.0cm、器高1.5cm、底径5.0cmを測る。色調は灰白色で精選 された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。346はIX層から出土し、口径8.3cm、器高1.4cm、



第55図 I区包含層出土遺物実測図1 (S=1/4)

底径5.5cmを測る。色調は灰白色で細粒砂を含み、内外面横ナデ、平行圧痕が認められる。347は口径9.4cm、器高0.9cm、底径7.0cmを測り、色調は灰白色で精選された胎土を用い、平行圧痕が認められる。 坏(第55図)

348~360は坏であり、364~378は底部である。全て回転糸切りで、口径13.4~15.6cm、器高3.6~5.3 cm、底径5.4~8.2cmを測る。

348は Ⅲ~Ⅷ層から出土し、口径13.4cm、器高3.6cm、底径7.2cmを測る。色調はにぶい赤橙色で精選 された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。全体的に摩耗している。349は Ⅵ~ Ⅷ層から出土 し、口径14.0cm、器高3.7cm、底径7.0cmを測る。色調は浅黄橙色で赤色風化礫の細粒砂を含み、内外 面に横ナデが認められる。350はIV~V層から出土し、口径14.9cm、器高4.4cm、底径8.2cmを測る。色 調は浅黄橙色でチャート他の粗・細粒砂を含み、内外面横ナデ、内面に右から左のケズリが認めら れ、外面が煤けている。351は口径14.2cm、器高4.6cm、底径6.8cmを測り、色調は浅黄橙色でチャート 他の細・粗粒砂を含み、内外面に横ナデが認められる。全体的に摩耗している。352はⅣ~Ⅴ層から 出土し、口径13.8cm、器高4.0cm、底径6.8cmを測る。色調は浅黄橙色で赤色風化礫の細・粗粒砂を多 く含み、内外面に横ナデが認められる。全体的に摩耗している。353はⅢ~Ⅳ層から出土し、口径 15.6cm、器高4.3cm、底径7.8cmを測る。色調は浅黄橙色でチャートの細粒砂を含み、内外面横ナデ、 外底に籾圧痕が認められる。354は口径13.6cm、器高4.7cm、底径6.2cmを測り、色調は浅黄橙色で精選 された胎土を用い、内面に右から左のケズリ・横ナデが認められる。355は口径不明で、器高5.3cm、 底径7.8cmを測り、色調はにぶい橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められ、内外面 が煤けている。356は N ~ V 層から出土し、口径14.3cm、器高4.2cm、底径6.6cmを測る。色調は浅黄橙 色でチャートの細・粗粒砂を含み、内面に右から左のケズリが認められる。357は四層から出土し、 口径14.3cm、器高4.6cm、底径7.0cmを測り、色調はにぶい橙色でチャートの細粒砂を含み、内外面に 横ナデが認められる。358は W~ V 層から出土し、口径14.8cm、器高4.6cm、底径7.7cmを測る。色調は 灰白色で赤色風化礫の細粒砂を含み、内外面横ナデ、平行圧痕が認められる。359は口径14.8cm、器 高4.7cm、底径7.0cmを測り、チャートの細粒砂を含み、内外面に横ナデが認められる。360は口径15.0 cm、器高4.7cm、底径7.0cmを測り、色調は灰白色でチャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を含み、内外 面に横ナデが認められる。全体的に摩耗している。364は底径6.4cmを測り、色調はにぶい橙色でチャ ートの細・粗粒砂を多く含んでいる。365はW~V層から出土し、底径5.4cmを測り、色調は灰白色で 細粒砂を多く含んでおり、全体的に摩耗している。366はN~V層から出土し、底径6.0cmを測る。色 調は灰白色で精選された胎土を用い、平行圧痕が認められる。全体的に摩耗している。367は IV ~ V 層から出土し、底径7.4cmを測る。色調は浅黄橙色でチャートの細粒砂を含み、内外面に横ナデが認 められ、全体的に摩耗している。368は底径7.0cmを測り、色調は橙色でチャートの粗粒砂を含んでい る。全体的に激しく摩耗している。369は VI~ VI層から出土し、底径7.7cmを測る。色調は浅黄橙色で チャートの細・粗粒砂を含み、内外面に横ナデが認められる。370は底径6.0cmを測り、色調は浅黄橙 色で精選された胎土を用い、円盤状高台が認められる。全体的に摩耗している。371はⅢ~Ⅳ層から 出土し、底径6.4cmを測る。色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められ、 全体的に摩耗している。373は VI 層から出土し、底径6.4cmを測る。色調は灰白色でチャートの細粒砂

を含んでおり、全体的に摩耗している。374はW~W層から出土し、底径7.0cmを測る。色調は浅黄橙色で赤色風化礫の細・粗粒砂を含み、内外面に横ナデが認められる。全体的に摩耗している。375はVI層から出土し、底径5.2cmを測る。色調は灰白(乳白)色で精緻な胎土を用いている。未製品の可能性が考えられる。376はW~W層から出土し、底径6.3cmを測る。色調は灰白(黄灰)色で精緻な胎土を用いている。377はV~V層から出土し、底径5.3cmを測る。色調は灰白(乳白)色で精緻な胎土を用い、石英粒を含んでいる。378はV~V層から出土し、底径5.0cmを測る。色調は灰白(乳白)色で精緻な胎土を用いている。

椀 (第55・56図)

361~363は椀であり、379~396は底部である。円盤状高台を有するものは回転糸切り痕が認められる。口径14.0~15.6cm、器高4.8~5.8cm、底径5.0~7.5cmを測る。

361はVI~VI層から出土し、口径14.0cm、器高4.8cm、底径5.4cmを測る。色調は浅黄橙色で石英、赤 色風化礫を含み、内外面に丁寧な横ナデ、外面に回転ナデの痕跡が顕著に認められ、丸みを帯びた 貼り付け高台を有している。全体的に摩耗している。362はIX層から出土し、口径15.6cm、器高5.7cm、 底径6.0cmを測る。色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、長石、石英を含み、内面右から左のケ ズリと丁寧な横ナデが認められ、断面台形の貼り付け高台を有している。搬入品と考えられる。363 はX層から出土し、口径15.2cm、器高5.8cm、底径6.1cmを測る。色調はにぶい黄橙色で石英粒を多く 含み、内面はケズリと丁寧な横ナデが認められ、口縁部は肥厚し、断面長方形のしっかりした高台 を有している。379は V層から出土し、底径5.6cmを測る。色調は浅黄橙色で赤色風化礫を含み、内外 面に横ナデが認められる。全体的に摩耗している。380は VI 層から出土し、底径5.7cmを測る。色調は 浅黄橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められ、高台は扁平化している。全体的に 摩耗している。381はⅢ層から出土し、底径は7.2cmを測る。色調はにぶい黄橙色で雲母、石英粒を多 く含み、内外面にヘラミガキが認められ、断面台形状のしっかりした高台を有している。搬入品と 考えられる。382はV層から出土し、底径6.0cmを測る。色調は浅黄橙色でチャートの細粒砂を多く含 み、円盤状高台を有している。全体的に激しく摩耗している。383はIV層から出土し、底径5.6cmを測 る。色調は浅黄橙色で赤色風化礫の細粒砂を含み、円盤状高台を有している。全体的に摩耗してい る。384はIV~V層から出土し、底径7.5cmを測る。色調は浅黄橙色で細粒砂を含み、円盤状高台を有 している。内面が煤けており、全体的に摩耗している。385はIV~V層から出土し、底径5.5cmを測る。 色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、内面にヘラミガキが認められ、円盤状高台を有している。 全体的に摩耗している。386はⅢ~Ⅳ層から出土し、底径6.6cmを測る。色調は浅黄橙色でチャートの 細粒砂を多く含み、円盤状高台を有している。全体的に摩耗している。387は底径6.0cmを測り、色調 は浅黄橙色でチャートの粗粒砂を含み、円盤状高台を有している。内外面が煤けており、全体的に 摩耗している。388は底径6.0cmを測り、色調は浅黄橙色でチャートの粗粒砂を含み、円盤状高台を有 している。全体的に摩耗している。389はV層から出土し、底径6.4cmを測る。色調は褐灰色で精選さ れた胎土を用い、円盤状高台を有している。内外面が煤けており全体的に摩耗している。390は底径 5.9cmを測り、色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、内面にヘラミガキが認められ、円盤状高台 を有している。全体的に摩耗している。391はW~W層から出土し、底径は6.6cmを測る。色調は浅黄 橙色でチャートの細・粗粒砂を多く含み、円盤状高台を有している。全体的に摩耗している。392は III ● No 出土し、底径5.6cmを測る。色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、内面にヘラミガキが認められ、円盤状高台を有している。全体的に摩耗している。393は III ● IV 層から出土し、底径6.0cmを測る。色調は浅黄橙色で赤色風化礫の細粒砂を多く含み、円盤状高台を多く有している。全体的に摩耗している。394は IV ● V 層から出土し、底径6.0cmを測る。色調はにぶい黄橙色で精選された胎土を用いており、全体的に摩耗している。395は III ● II

甕 (第56図)

397~399は甕である。古代からの長胴甕の系譜を引く煮炊具と考えられる。

397は □~□層から出土し、口径25.0cmを測る。色調はにぶい赤褐色で石英、長石の細・粗粒砂を多く含み、口縁部内外面に横ナデが認められ、口唇部は凹状を呈している。398は Ⅵ層から出土し、口径30.6cmを測る。色調は浅黄橙色でチャート他の粗粒砂を多く含み、口縁部内外面に横ナデが認められ、頸胴部境に凹状の段を有している。399は Ⅳ~ Ⅴ層から出土し、口径36.0cmを測る。色調は橙色で石英、長石他の細粒砂を多く含み、口縁部内外面に横ナデが認められ、口唇部は凹状を呈している。

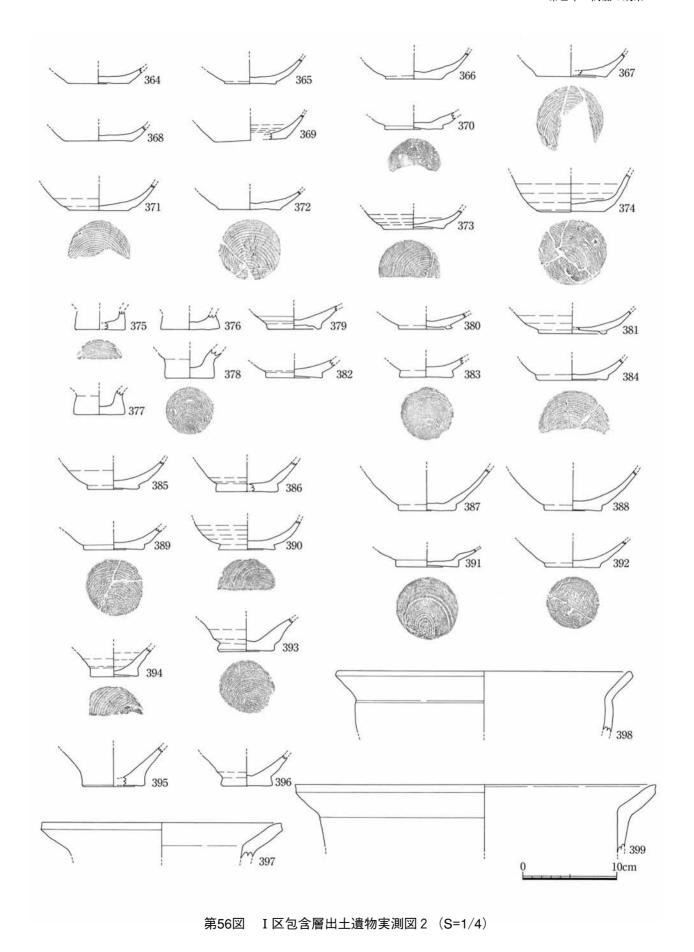
須恵器(椀・壺・甕・鉢・水注)

椀 (第57図)

400~405は椀である。400は IX層から出土し、口径15.3cm、器高6.1cm、底径5.5cmを測る。色調は灰白色でチャートの細・粗粒砂を含み、内外面をケズリ、丁寧な横ナデが認められ、内面にヘラミガキを施した可能性がある。しっかりした方形高台を有している。401は II ~ IV 層から出土し、口径16.4cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、外面にケズリと横ナデ、内面に横ナデが認められる。内外面上半部に自然釉がかかる。402は II ~ III 層から出土し、底径3.6cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、外面にケズリと横ナデ、内面にミガキが認められ、底部は回転糸切りである。403は底径6.0cmを測り、色調は灰色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。厚い円盤状高台を有し、底部は回転糸切りである。404は IV 層から出土し、底径6.0cmを測る。色調はにぶい黄橙色で精選された胎土を用い、黄茶色に発色し、外面に横ナデ、内面にミガキが認められ、平行圧痕が残る。底部は回転糸切りで、火襷がみられる。405は III ~ III 層から出土し、底径6.0cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、大襷がみられる。405は III ~ III 層から出土し、底径6.0cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、大襷がみられる。405は III ~ III 層から出土し、底径6.0cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められ、底部は回転糸切りである。

壺 (第57図)

408~410は壺である。408はⅢ~㎞層から出土し、口径8.7cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、上胴部から内傾し、内外面に丁寧な横ナデが認められる。409はⅢ~Ⅳ層から出土した高杯の脚部である。色調は灰色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。全体的に摩耗している。410はⅦ~㎞層から出土し、底径8.0cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、外面に弱いケズリと横ナデ、内面にナデ調整が認められる。

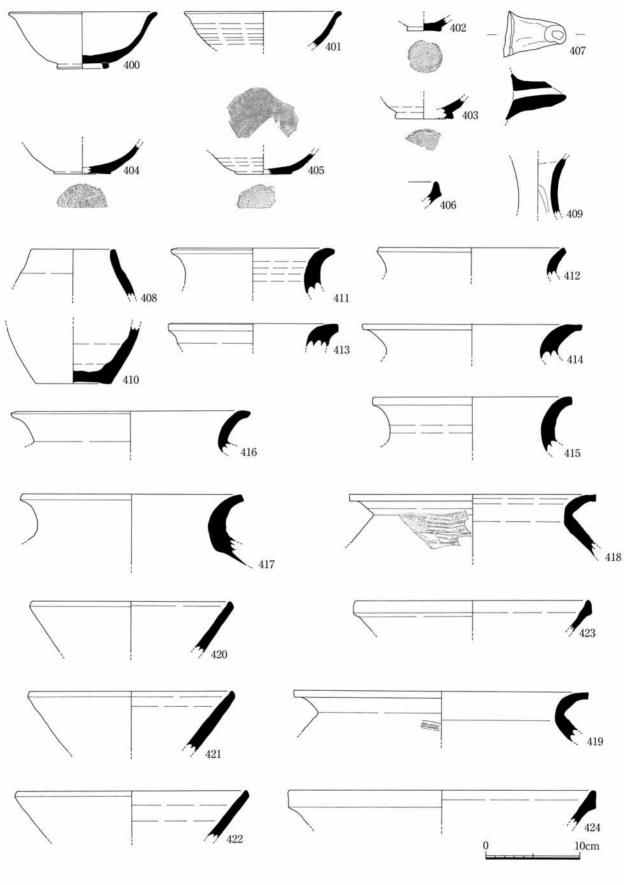


甕 (第57・58図)

411~419は口縁部、427~431は底部である。411は V 層から出土し、口径24.0cmを測る。色調は灰 色で粗粒砂を少量含み、内外面に横ナデが認められる。412はW~V層から出土し、口径17.3cmを測 る。色調は灰色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。自然釉がみられる。413は Ⅱ層から出土し、口径18.0cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認めら れる。内面に自然釉がかかる。414は口径19.6cmを測り、色調は灰色で精選された胎土を用い、内外 面に横ナデが認められ、口唇部は鋭く面を取る。内外面に自然釉がかかる。415は口径21.0cmを測り、 色調は外面が灰褐色、内面が暗赤褐色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。外 面と口縁端部に自然釉がかかる。416は口径23.0cmを測り、色調は灰色で精選された胎土を用い、内 外面に横ナデが認められる。417は VI 層から出土し、口径23.0cmを測る。色調は灰色で粗粒砂を多く 含み、内外面に横方向のケズリと横ナデ、外面に横ナデが認められる。内外面に自然釉がかかる。 418は W~V層から出土し、口径26.0cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、内外面に横ナ デ、胴部外面に平行タタキが認められる。419はⅢ~Ⅳ層から出土し、口径31.0cmを測る。色調は灰 色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデ、胴部外面に平行タタキが認められ、口唇部は凹状を 呈している。外面に自然釉がかかる。427はⅢ~Ⅳ層から出土し、底径12.2cmを測る。色調は外面が 青灰色、内面が暗灰黄色で石英他の細・粗粒砂を多く含み、外面に左から右方向のケズリ、内面に ナデ調整が認められる。外底に砂粒が多くみられる。428はV層から出土し、底径12.6cmを測る。色 調は灰色で精選された胎土を用い、外面に左から右方向のケズリ、内面にナデ調整が認められる。 外底に砂粒が多くみられる。429はV層から出土し、底径12.6cmを測る。色調は外面が浅黄橙色、内 面が灰褐色でチャート他の粗粒砂を多く含み、外面にケズリと横ナデ、内面にナデ調整が認められ る。外底に砂粒が多くみられる。430は W層から出土し、底径11.0cmを測る。色調は灰色でチャート 他の粗粒砂を含み、外面に左から右方向のケズリ、平行タタキが認められ、内面にナデ調整がみら れる。底部は剥離している。431はIV~V層から出土し、底径18.0cmを測る。色調は外面が暗赤褐色、 内面が灰色で精選された胎土を用い、外面に自然釉がかかる。

鉢・他(第57図)

406・420~426は鉢(捏鉢)である。406はW~W層から出土し、色調は灰色で細・粗粒砂を含み、内外面に横ナデが認められる。東播系捏ね鉢と考えられる。420はW~V層から出土し、口径21.0cmを測る。色調は外面がにぶい赤褐色、内面が灰白色で焼成は堅緻である。内外面に横ナデが認められ、口縁端部は僅かに摘み上げ口唇部は面を取り、内面は白色化した自然釉がみられる。421は口径21.2cmを測り、色調は外面がにぶい赤橙色、内面が灰白色で焼成は堅緻であり、外面は茶色に発色している。内外面に横ナデが認められ、口縁端部は僅かに摘み上げ口唇部は面を取り、内面は白色化した自然釉がみられる。422はV層から出土し、口径24.0cmを測る。色調は外面がにぶい赤橙色、内面が灰色で焼成は堅緻であり、外面は茶色に発色している。内外面に横ナデが認められる。東播系捏ね鉢を模倣した可能性が考えられる。423はW~W層から出土し、口径24.4cmを測る。色調は灰色で粗粒砂を含み、内外面に横ナデが認められ、重ね焼き痕がみられる。口唇部に自然釉がみられる。東播系捏ね鉢と考えられる。424は口径32.0cmを測り、色調は灰色で胎土は精緻である。内外面に横



第57図 I区包含層出土遺物実測図3 (S=1/4)

ナデが認められ、口唇部外面上半に重ね焼き痕がみられる。東播系捏ね鉢と考えられる。425は底径 10.4cmを測り、色調は灰色で粗粒砂を多く含み、内外面に横ナデが認められる。亀山窯の可能性が考えられる。426は底径11.0cmを測り、色調は灰色で粗粒砂を含み、内外面に横ナデ、外面の下地にケズリが認められる。亀山窯の可能性が考えられる。

407は水注の注口部で色調は褐灰色で精選された胎土を用い、注口端部は鋭く削いでいる。体部接合部から剥離し、外面に自然釉がかかる。

瓦器(小皿・椀)

小皿 (第58図)

432はW~W層から出土し、口径9.0cm、器高1.9cmを測る。色調は暗灰色でチャート、頁岩の細・粗粒砂を含み、内面にナデ調整、外面に指頭圧痕が認められる。

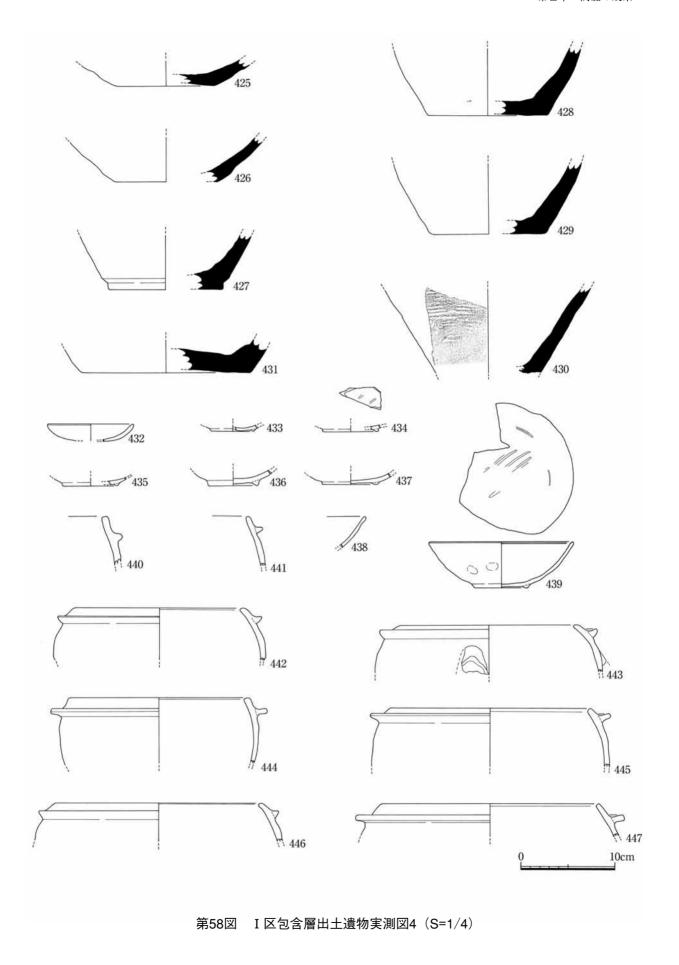
椀(第58図)

433~439は瓦器碗である。433はⅢ~Ⅳ層から出土し、底径4.6cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、断面三角形の貼り付け高台を有している。434はⅣ層から出土し、底径6.0cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、内面にヘラミガキが認められ、しっかりした外方に踏ん張る高台を有している。435はⅢ~Ⅳ層から出土し、底径5.8cmを測る。色調は黄灰色で精選された胎土を用い、断面三角形の貼り付け高台を有している。436は底径5.2cmを測り、チャートの粗粒砂を含み、内面に籾圧痕が認められ、断面三角形の貼り付け高台を有している。437はⅡ層から出土し、底径6.0cmを測る。色調は暗灰色でチャートの細・粗粒砂を多く含み、断面蒲鉾状の高台を有している。438の色調は暗灰色で、口縁部に横ナデ、内面にヘラミガキが認められ、外面に指頭圧痕がみられる。439はⅢ~Ⅳ層から出土し、口径15.2cm、器高4.9cm、底径5.6cmを測る。色調は暗灰色で精選された胎土を用い、外面口縁端部は横ナデが認められ、体部内面に横方向のヘラミガキ、内底は一定方向のヘラミガキがみられる。断面は丸みを帯びた三角状の高台を有している。

瓦質土器(羽釜・鉢)

羽釜・鍋 (第58・59図)

440~447は羽釜である。440の色調は灰色でチャートの粗粒砂を多く含み、口唇部は面を取り、断面蒲鉾状の鍔で、鍔の上下口縁部に横ナデ、胴部外面に指頭圧痕が認められる。441の色調は暗灰色でチャート他の細・粗粒砂を含み、口唇部は丸みを帯び、断面三角形のしっかりした鍔で、鍔の上下口縁部に横ナデが認められる。外面が煤けている。442は皿~IV層から出土し、口径18.0cmを測る。色調はオリーブ黒色で口唇部は丸みを帯び、断面三角形のしっかりした鍔で、胴部外面に指頭圧痕が認められる。外面が煤けている。443は皿~IV層から出土し、口径18.6cmを測る。色調は黒色でチャートの粗粒砂を多く含み、口唇部は丸みを帯び、断面三角形の鍔で器表は激しく荒れている。三足鍋の脚は付け根が剥離している。外面が煤けている。444は四層から出土し、口径19.0cmを測る。色調は外面が黒褐色、内面が灰黄色でチャートの粗粒砂を多く含み、口唇部は面を取り1.4cm幅の鍔で、鍔の上下口縁部に横ナデ、胴部内外面にナデ調整が認められる。外面が灰色でチャート他の粗粒砂を多く含み、口唇部は面を取り、1.0cm幅の鍔で、鍔の上下口縁部に横ナデ、胴部内外面にナデ調整を多く含み、口唇部は面を取り、1.0cm幅の鍔で、鍔の上下口縁部に横ナデ、胴部内外面にナデ調整



が認められる。外面が煤けている。446はW~W層から出土し、口径22.0cmを測る。色調は外面が暗灰色、内面が灰白色で口唇部は丸みを帯び、断面三角形の鍔で器表は荒れている。447はW~W層から出土し、口径23.0cmを測る。色調は外面が灰色、内面が灰白色で口唇部は丸みを帯び、1.1cm幅の鍔で、胴部内外面にナデ調整が認められる。448はV層から出土し、口径18.5cmを測る。色調は灰白色でチャート他の細粒砂を含み、口唇部は丸く収める。内外面にナデ調整、胴部外面に指頭圧痕が認められる。449はV層から出土し、口径17.0cmを測る。色調は灰白色でチャートの細・粗粒砂を含み、口唇部は面を取り、内面にナデ調整、同部外面に指頭圧痕が認められ、外面が煤けている。450はV層から出土し、口径18.0cmを測る。色調は外面が暗灰色、内面が灰色で精選された胎土を用い、口縁部内外面に横ナデ、胴部外面に指頭圧痕が認められ、外面が煤けている。448~450は「土佐型」の鍋と考えられる。451はⅢ~Ⅳ層から出土し、色調は外面が黒色、内面が暗灰色でチャートの粗粒砂を多く含み、外面が激しく煤けている。三足鍋の脚部の付け根である。452はW~W層から出土し、色調は外面が暗灰色、内面が灰色でチャートの細・粗粒砂を多く含み、ナデ調整が認められる。三足鍋の脚部である。453はW~W層から出土し、色調は暗灰色でチャートの細・粗粒砂を多く含み、外面が煤けている。三足鍋の脚部で付け根部分から剥離している。

鉢 (第59図)

454は鉢である。Ⅲ~Ⅳ層から出土し、口径19.6cmを測る。色調は外面が灰白色、内面が灰色で細・粗粒砂を含み、口唇部は面を取り、外面は右から左方向のケズリとナデ調整、内面に横ナデが認められる。捏ね鉢と考えられる。

白磁(第59図)

455・456は壺、457~460は皿、461~479は碗である。

青磁 (第60図)

480は皿か坏で、481~505は碗、506~508は皿である。

染付(青花)(第60図)

509・510は碗である。

瀬戸(第60図)

511・512は皿である。

備前(第60図)

513・514は擂り鉢である。

瓦 (第61図)

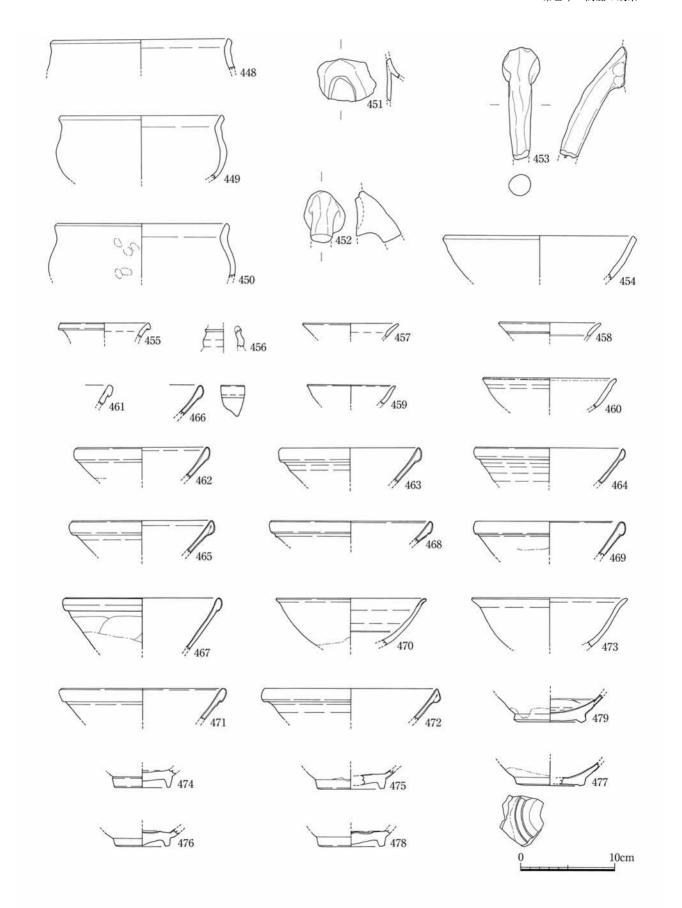
520は平瓦、521は軒丸瓦である。

石製品・石器(石鍋・硯・石鏃)(第61図)

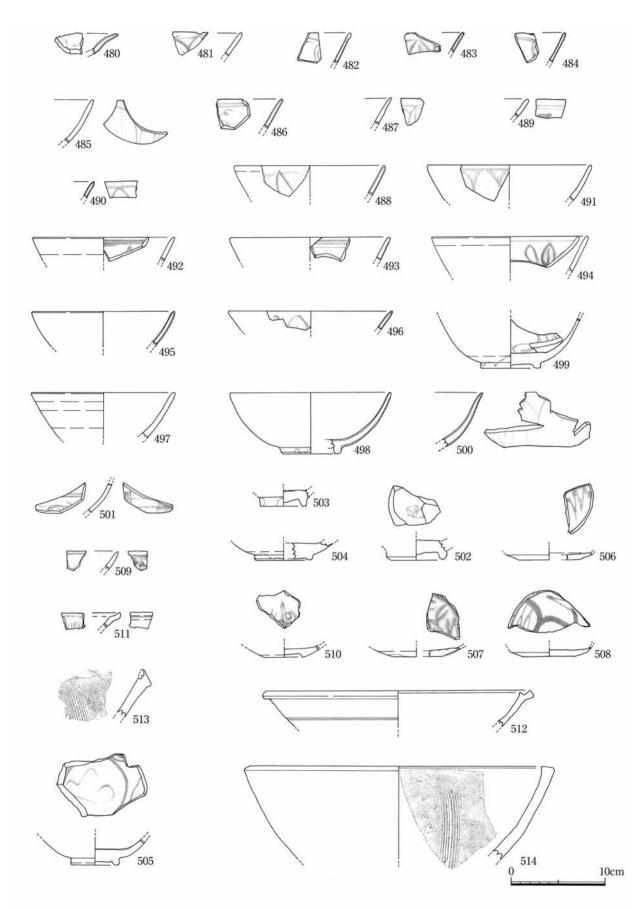
 $515\sim519$ は石鍋である。519の底部は2ヶ所穿孔されており、温石として転用されたと考えられる。522は硯、523は石鏃である。

鉄製品(第61図)

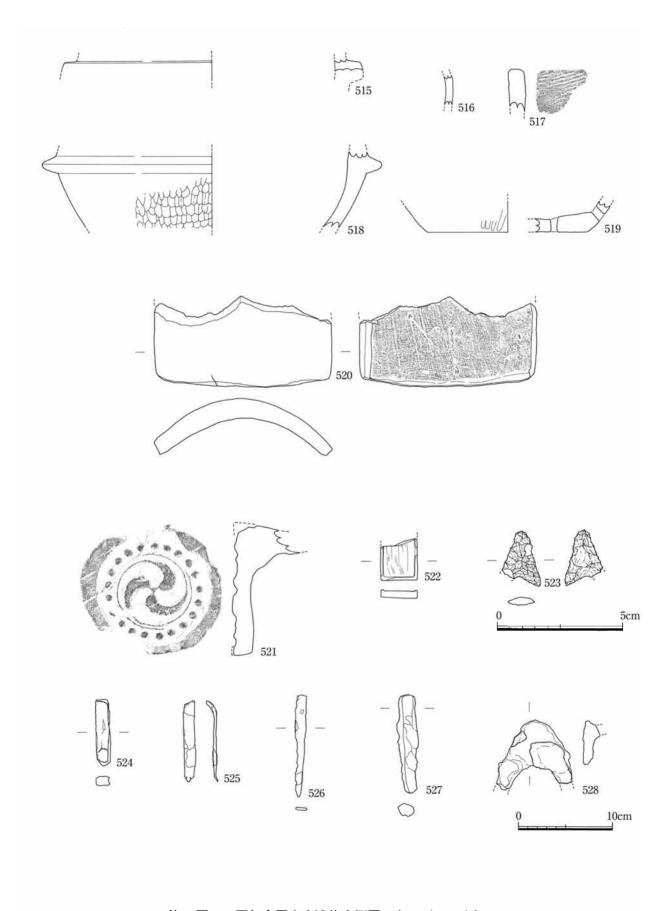
524~528は鉄製品である。



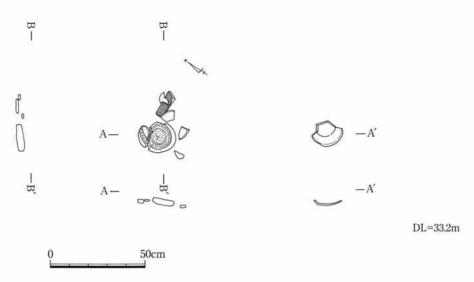
第59図 I区包含層出土遺物実測図5(S=1/4)



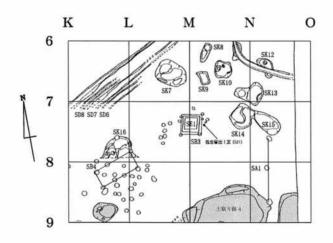
第60図 I区包含層出土遺物実測図6(S=1/4)



第61図 I 区包含層出土遺物実測図7(S=1/4、2/3) ※S=2/3は、523のみ



第62図 I 区包含層出土遺物 (S=1/20) 521・軒丸瓦出土状況及び位置図 (S=1/250)



第2節 Ⅱ区

Ⅱ区は I 区の東側に隣接している。検出面標高は、 I 区が32.8mから34.5mであるのに対し、 II 区は32.5mから32.6mと一段低い場所に立地している。

1. 基本層序

調査区の北壁と南壁で土層の堆積状況を確認した。基本層序は以下のとおりであり、北壁セクションと南壁セクションを第63図に示した。

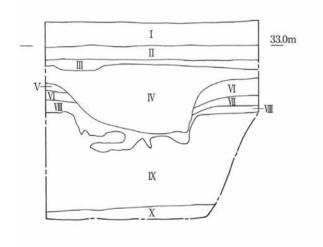
I層 表土 (埋め立て土)

Ⅱ層 旧耕作土

Ⅲ層 基盤

Ⅳ層 流れ込みの層

V層 遺構検出面



北壁セクション

I層 埋め立て土

Ⅱ層 灰色シルト質土

Ⅲ層 黄茶褐色シルト質土

IV層 黒褐色粘質土

V層 黒灰色シルト質土

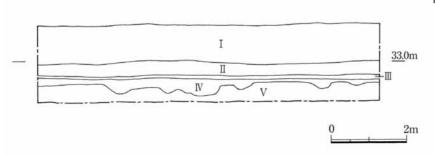
Ⅵ層 灰色粘土

Ⅷ層 灰黒色シルト~砂質土

™層 黄茶褐色シルト

IX層 黒色粘質土

X層 淡灰茶砂質土



南壁セクション

I層 表土 (埋め立て土)

Ⅱ層 灰色シルト質土

Ⅲ層 黄茶褐色シルト質土

IV層 灰色シルト〜砂質土

V層 黒色粘質土層

第63図 Ⅱ区北壁・南壁セクション図 (S=1/50)

2. 遺構と遺物

II 区からは13条の溝状遺構が検出されている。その中でSD15~23の10条には遺構名を付した(第64図)。遺構及び包含層からは平安時代末~20世紀はじめにかけての遺物が出土している。遺物包含層はⅢ層とIV層である。

遺物の出土が確認された溝はSD15~19・22・23であるが、いずれも近世以降の遺物を含んでおり、 遺構形成時期は近世以降である。

(1) 溝 (SD)

調査時点の所見では、溝は大きく3形態に分類されている。 $SD15 \cdot 19$ は直線的な溝であり、溝の底には山石が敷かれるという特徴を持つ。2条の溝とも \mathbb{N} 層を掘り込んで形成されている。溝の底に敷かれていた石がSD15では山石だけなのに対し、SD19では山石の上部に小さなクリ石を敷き詰めてあったという。これに対しSD22は大きく弧状に屈曲している溝であり、溝の両肩部分に杭が打たれており、溝に沿って数十本の杭跡が確認されている。埋土は黄灰色砂質土であり、近世以降の遺物を含むことから比較的新しい時期に機能した溝だと考えられている。 $SD16 \sim 18 \cdot 23$ は同時期のもので人為的に掘られた溝だと考えられている。ともに埋土が灰色シルト質 \sim 砂質土(\sim 0 である。近世以降の遺物を含むが、遺構埋土より \sim 0 に先行する時期のものだと考えられる。

SD15 (第64·65図)

調査区 (Ⅱ区) の東側 (O14/P13・14/Q12・13/R12グリッド) に位置する。東端はSD14と接続している。検出高は東端で32.49m、西端で32.56mを測る。主軸方向はN-62°-Eで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は15.8×0.30m、床面高は東端で32.19m、西端で32.28mを測る。断面形態は箱形状を呈し、最深部で30cmを測る。埋土は黒褐色粘土質シルトである。

遺物は土師器片1点と、須恵器片1点、焼成不良を含む瓦片(布目痕)3点、白磁片(V類)1点を出土している。図示したものは土師器の坏(530・531)、白磁の碗(529)であるが、床面に礫(山石)が敷き詰められ、また古代~近代の包含層を切っていることなどから、近代以降の暗渠の可能性が考えられる遺構である。

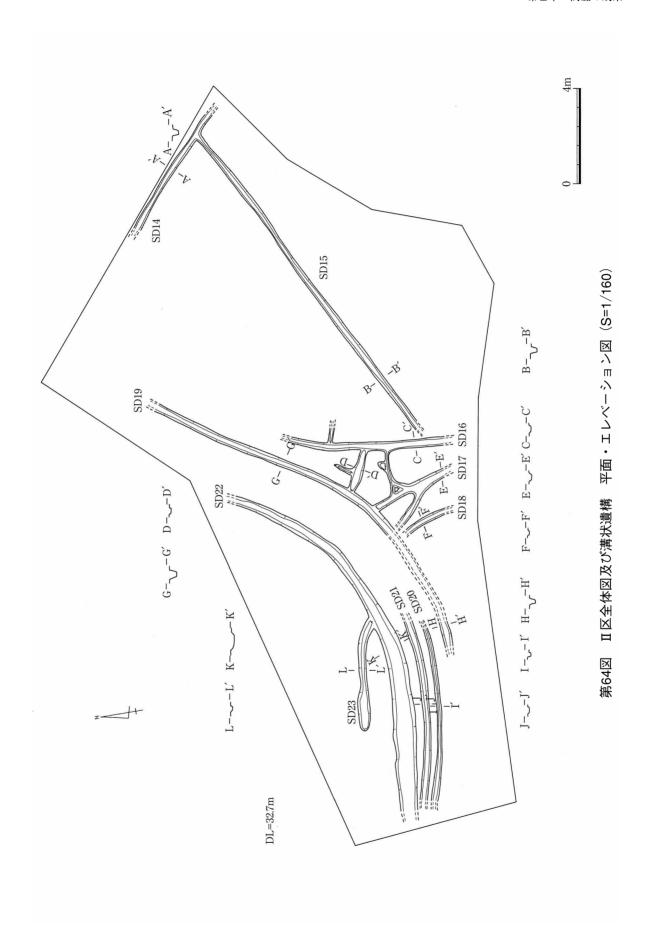
SD16 (第64図)

調査区(II区)の中央(O13・14グリッド)に位置する。南端はTRに切られている。検出高は北端で32.58m、南端で32.53mを測る。主軸方向はN-7°-Eで、ほぼ直線状に検出している。小規模な溝状遺構との切り合い関係については不明である。検出規模は6.80×0.37m、床面高は北端で32.55m、南端で32.45mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で13cmを測る。埋土は灰褐色砂質シルト(灰色シルト質砂)である。

遺物は底部を含む土師器片11点と、須恵器片1点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。 他に混入と考えられる弥生土器片1点を出土している。

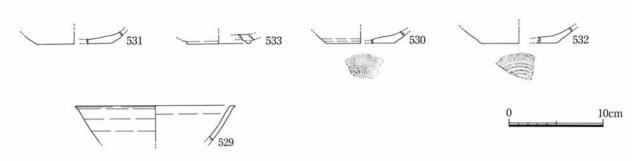
SD17 (第64・65図)

調査区(II区)の中央南側(N14グリッド)に位置する。南端はTRに切られており、北端はSD19と切り合い、検出を終えている。検出高は北端で32.61m、南端で32.56mを測る。主軸方向はN-18°-Wで、ほぼ直線状に検出している。小規模な溝状遺構との切り合い関係については不明である。検



出規模は3.27×0.30m、床面高は北端で32.41m、南端で32.42mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、 最深部で21cmを測る。埋土は灰褐色砂質シルト(灰色シルト質砂)である。

遺物は口縁・底部を含む土師器片26点と、須恵器片1点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。図示したものは土師器の坏(532)である。



第65回 Ⅱ区 SD15·17·21 出土遺物実測図 (S=1/4)

SD18 (第64図)

529~531 (SD15) 532 (SD17) 533 (SD21)

調査区(II区)の中央南側(N14グリッド)に位置する。両端はTRに切られている。検出高は 北・南端ともに32.60mを測る。主軸方向はN-20°-Wで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は 1.88×0.22m、床面高は北端で32.55m、南端で32.53mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で 8cmを測る。埋土は灰褐色砂質シルト(灰色シルト質砂)である。遺物は底部を含む土師器片3点と、 白磁片(IV類)1点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。

SD19 (第64図)

調査区(Ⅱ区)の中央(M14・15/N13・14/O11・12・13グリッド)に位置する。一部はTRに切られている。検出高は北・西端ともに32.53mを測る。北端からN-39°-Eで約10m検出し、N-73°-Eで弧を描き西端に至る。検出規模は11.16×0.30m、床面高は北端で32.22m、西端で32.26mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部は42cmを測る。埋土は黒褐色粘土質シルトである。遺物は底部(回転糸切り)を含む土師器片19点と、須恵器片1点、備前焼片(擂り鉢)1点、近世陶磁器片1点、瓦片(近代)2点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。床面に礫(山石・栗石)が敷き詰められ、また古代~近代の包含層を切っていることなどから、近代以降の暗渠の可能性が考えられる遺構である。

SD20 (第64図)

調査区(II 区)の西側(K14/L14/M14グリッド)に位置する。東端はTRに切られている。検出 高は東端で32.59m、西端で32.49mを測る。東端からN-89°-Wで約6.5m検出し、N-73°-Wで西端を 北へ振る。検出規模は7.30×0.23m、床面高は東端で32.37m、西端で32.43mを測る。断面形態は逆台 形状を呈し、最深部で13cmを測る。遺物は出土していない。

SD21 (第64・65図)

調査区 (II区) の西側 (K14・L14・M14グリッド) に位置する。東端はTRに切られている。検出 高は東端で32.52m、西端で32.50mを測る。東端からN-86°-Eで約7.0m検出し、N-77°-Wで西端を北 へ振る。検出規模は7.72×0.30m、床面高は東端で32.43m、西端で32.46mを測る。断面形態は逆台形 状を呈し、最深部で9cmを測る。遺物は口縁部を含む土師器片6点を出土しており、多くは摩耗している。図示したものは土師器の椀(533)である。

SD22 (第64図)

調査区(II区)の西側(K14/L14/M13・14/N12・13グリッド)に位置する。検出高は北端で32.56m、西端で32.61mを測る。東端からN-40°-Eで約4.5m検出し、N-86°-Wで西端を西へ振る。検出規模は16.0×0.80m、床面高は北端で32.51m、西端で32.50mを測る。断面形態は皿状を呈し、最深部で14cmを測る。埋土は黄褐色砂質シルト(黄褐色砂質土)である。遺物は底部を含む土師器片7点と、瓦片(布目痕)1点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。他に炭化物5点を出土している。

SD23 (第64図)

調査区(II区)の西側(L14/M14グリッド)に位置する。SD22との切り合い関係は不明である。 検出高は東端で32.65m、西端で32.57mを測る。主軸方向はN-87°-Wで、ほぼ直線状に検出しているが、東端を僅かに南側に振る。検出規模は4.65×0.30m、床面高は東端で32.60m、西端は不明である。 断面形態は逆台形状を呈し、最深部で12cmを測る。埋土は灰色砂質シルトである。遺物は底部(回転糸切り)を含む土師器片7点を出土している。他に混入の可能性が考えられる弥生土器片1点を出土している。

(2) 包含層出土遺物

土師器(小皿・坏・椀)

小皿 534は小皿である。IV層から出土し、口径7.4cm、底径5.0cmを測る。色調は浅黄橙色で、精選された胎土を用い、底部は回転糸切りである。全体的に摩耗している。

坏 535~538・541~545は坏である。535は口径13.8cmを測り、色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。536は口径13.0cmを測り、色調はにぶい黄橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。口縁部外方に屈曲している。537は口径15.6cmを測り、色調はにぶい黄橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。538は口径16.2cmを測り、色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。538は口径16.2cmを測り、色調は外面が黒色、内面が褐灰色で精選された胎土を用い、外面にナデ調整、内面にヘラミガキが認められる。外面が激しく煤けている。542は底径5.6cmを測り、色調は浅黄橙色で粗い胎土を用い、器表の荒れが激しい。全体的に摩耗している。543はIV層から出土し、底径9.0cmを測る。色調は灰褐色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められ、底部は静止糸切りである。内外面が煤けている。544はIV層から出土し、底径9.0cmを測る。色調は灰褐色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められ、底部は回転糸切りである。内外面が煤けている。545はIV層から出土し、底径6.8cmを測る。色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデ、底部は回転糸切りである。全体的に摩耗している。

椀 539は底部でⅣ層から出土し、底径6.2cmを測る。色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、円盤状高台を有して、底部は回転糸切りである。540は底部で、底径6.1cmを測り、色調は浅黄橙色で精

選された胎土を用い、僅かにチャートの粗粒砂を含み、内外面に横ナデが認められる。底部は回転 糸切りである。

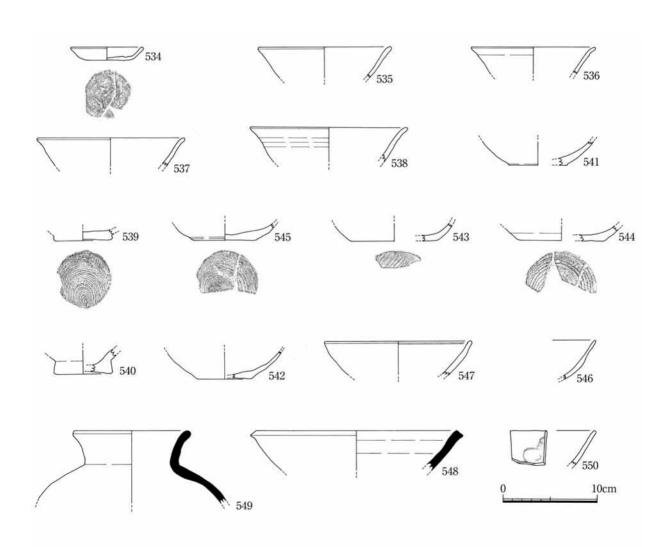
瓦器 (椀)

椀 546の色調は外面が灰白色、内面が灰色で細・粗粒砂を含み、口縁部内外面及び体部内面横ナデ、体部外面に指頭圧痕がみられる。547は口径15.4cmを測り、色調は外面が黒色、内面が灰白色でチャートの細・粗粒砂を含み、内面に沈線がみられる。焼成は炭素吸着不良の未製品で在地産の可能性が考えられる。

須恵器(壺・鉢)

壺 549は壺である。Ⅲ層から出土し、口径11.4cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、 内外面に横ナデが認められる。

鉢 548は鉢である。Ⅳ層から出土し、口径21.2cmを測る。色調は灰色で細・粗粒砂を含み、口縁端部は摘み出し、内外面に横ナデが認められる。



第66回 Ⅱ区包含層出土遺物 (S=1/4)

表3 [区出土遺物観察表(弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・陶磁器)

図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形	口径	法量(cm 器高) 底径		色 調	特 徵	備考
1	集石遺構	土師器	小皿	_	(0.7)	4.1		灰白 灰白	赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。全体に摩耗が激しい。底 部糸切り。	
2	集石遺構	土師器	小皿	8.5	1.5	5.2		灰白 灰白	精選された胎土。底部糸切り。	
3	集石遺構	土師器	小皿	7.4	1.6	4.4		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
4	集石遺構	土師器	小皿	6.6	1.6	4.7		にぶい橙 にぶい橙	精選された胎土。底部糸切り。平行圧痕あり。	
5	集石遺構	土師器	小皿	6.6	1.4	4.5		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
6	集石遺構	土師器	小皿	7.1	1.4	4.3		浅黄橙 浅黄橙	赤色風化礫の砂粒を多く含む。	
7	集石遺構	土師器	小皿	7.9	1.4	(5.0)		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
8	集石遺構	土師器	小皿	6.6	1.7	4.4		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
9	集石遺構	土師器	小皿	7.0	1.8	3.8		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
10	集石遺構	土師器	小皿	8.0	1.7	4.5		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。ロクロ右回り。	
11	集石遺構	土師器	小皿	7.8	1.6	3.8		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
12	集石遺構	土師器	小皿	7.0	1.5	4.4		にぶい橙 にぶい橙	精選された胎土。底部糸切り。平行圧痕あり。	
13	集石遺構	土師器	小皿	8.3	1.6	5.0		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
14	集石遺構	土師器	小皿	8.2	1.3	(6.0)		灰白 灰白	細粒砂を多く含む。底部糸切り。	
15	集石遺構	土師器	小皿	8.4	1.8	5.1	内)	橙 橙	チャート、長石の細粒を多く含む。底部糸切り。	
16	集石遺構	土師器	坏	11.6	3.6	6.2		橙 橙	チャートの細粒を含む。底部糸切り。	
17	集石遺構	土師器	坏	12.0	4.0	6.4	内) 外)	にぶい橙 にぶい橙	赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。底部糸切り。	
18	集石遺構	土師器	坏	13.4	4.1	7.0		浅黄橙 浅黄橙	チャート他の細粒砂を含む。底部糸切り。	
19	集石遺構	土師器	坏	13.4	(3.8)	-		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内面ヘラミガキ。外面ヨコナデ。口縁外 面肥厚する。	
20	集石遺構	土師器	坏	15.6	(3.2)	_	内) 外)	褐灰 褐灰	細粒砂、雲母を多く含む。	
21	集石遺構	土師器	椀	_	(1.8)	5.6		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。断面カマボコ状の貼付高台。	
22	集石遺構	土師器	坏	_	(2.8)	5.4		褐灰 浅黄橙	細粒砂を含む。底部糸切り。	
23	集石遺構	土師器	坏	-	(2.2)	6.6		灰白 灰白	精選された胎土。底部糸切り。	
24	集石遺構	土師器	坏	_	(1.9)	8.0		浅黄橙 浅黄橙	砂粒を少量含む。底部糸切り。	外面煤ける。
25	集石遺構	土師器	坏	=	(2.4)	7.2		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
26	集石遺構	土師器	坏	_	(2.7)	6.2	外)	灰白 灰白	赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。底部糸切り。	
27	集石遺構	土師器	坏	_	(2.2)	6.4		灰白 灰白	精選された胎土。底部糸切り。	
28	集石遺構	土師器	椀	-	(1.1)	6.3	外)	灰白 灰白	精選された胎土。底部糸切り。	
29	集石遺構	土師器	坏	-	(2.7)	6.0	外)	褐灰 灰白	精選された胎土。底部糸切り。	
30	集石遺構	土師器	坏	-	(3.0)	8.8	外)	にぶい橙 にぶい橙	赤色風化礫の細・粗粒砂を多く含む。底部糸切り。	
31	集石遺構	土師器	椀	_	(2.0)	7.1	外)	浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
32	集石遺構	土師器	羽釜	-	(2.7)	_	外)	灰白 灰白	細粒砂を多く含む。	
33	集石遺構	土師器	甕	-	(4.9)	_	外)	褐灰 灰褐	チャートの細粒砂を含む。頸部内外面ヨコナデ。胴部内面 ヨコハケ。胴部外面タタキ+ナデ。	外面煤ける。
34	集石遺構	土師器	甕	24.4	(4.0)		外)	浅黄橙 浅黄橙	チャートの粗粒砂を含む。口唇面取り。内外面ヨコナデ。	
35	集石遺構	土師器	甕	27.0	(2.4)	_		にぶい黄橙 黒褐	チャート他の粗粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。	外面激しく煤 ける。

図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形	注 口径	÷量(cm 器高			色 調	特	備考
36	集石遺構	土師器	甕	29.0	(1.9)	-		にぶい橙 にぶい橙	チャート他の粗粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。	内外被熱赤変。
37	集石遺構	土師器	甕	30.8	(7.2)	-	内)	にぶい黄橙 灰褐	チャート他の粗粒砂を含む。口唇面取り。口縁内外ヨコナデ。 胴部外面タタキ。	外面被熱赤変。
38	集石遺構	須恵器	椀	15.1	5.1	6.6	内) 外)	灰	粗粒砂、小碟を含む。内外面ヨコナデ、内面に板ナデ (コ テアテ) が認められる。底部糸切り。	
39	集石遺構	須恵器	椀	-	(1.5)	4.0	内) 外)		精選された胎土。底部糸切り。	
40	集石遺構	須恵器	椀	1	(2.6)	7.0	内) 外)		細粒砂を含む。円盤状高台。内面丁寧なナデ。底部糸切り。	
41	集石遺構	須恵器	壺	5.2	(1.1)	_		暗灰 暗灰	精選された胎土。内外面に自然釉がかかる。	
42	集石遺構	須恵器	壺	1	(2.5)	1		暗灰 暗灰	やや粗い胎土。内外面に自然釉がかかる。	
43	集石遺構	須恵器	壺	1	(3.5)	10.0		灰褐 灰褐	精選された胎土。内外面自然釉。ヨコナデ。	
44	集石遺構	須恵器	壺	1	(6.9)	10.2	内) 外)		チャート他の粗粒砂を多く含む。外面自然釉。厚いつくり。	
45	集石遺構	須恵器	甕	23.0	(3.1)	-	内) 外)		やや粗い胎土。内外ヨコナデ。	
46	集石遺構	須恵器	甕	1	(2.2)	16.0		にぶい褐 にぶい褐	チャートの粗粒砂を含む。内外ナデ。内面は凹凸がみられる。	
47	集石遺構	須恵器	甕	1	(3.9)	10.2	内) 外)		精選された胎土。内外ヨコナデ。	
48	集石遺構	須恵器	鉢	-	(4.5)	11.0	内) 外)		チャート他の粗粒砂を含む。内外ヨコナデ。	
49	集石遺構	白磁	碗	11.8	(3.4)	_	外)	灰白 10Y8/1 灰白 10Y8/1 灰白 10Y7/1	胎土は粗く黒い細粒を含む。釉は空色もしくはオリーブ色がかった灰白色で白濁である。厚く施釉。在存部では内外面全体に施釉。内面体部中位にロクロ痕か沈線が1条認められる。口縁部は僅かに外反し端部は丸く収めている。体部下位にいくに従って器肉は厚くなる。	
50	集石遺構	白磁	碗	1	(2.6)	6.3	外)	灰白 5Y7/2 灰白 5Y7/2 明オリーブ灰 2.5GY7/1	胎土は細かく密で黒い細粒を含む。外面体部下位及び高台部にヘラ調整痕もしくはヘラ調整の際のムラかと思われるものがある。残存部では外面は露胎。内面は施細(黄色みがかった灰白色)。畳付内面は削り出している。畳付外面は緩やかに内傾しているが削り出しているのかは不明。	IV類
51	集石遺構	青磁	碗	-	(2.5)	-	外)	オリーブ灰 10Y5/ オリーブ灰 10Y5/ 灰白 N7/		同安窯系青磁 碗 I - 1b類。
52	集石遺構	青磁	碗	1	(2.1)	6.8	外)	明オリーブ灰 2.5GY7/1 明オリーブ灰 2.5GY7/1 灰白 5Y8/1	胎土はやや密で灰白色を呈し黒い細粒を含む。釉は空色味 を帯びた乳緑色で不透明な釉を内面は全面に外面は高台内 部を除いて施釉。釉のかかっていない露胎部分は赤茶色に 発色する。見込みに施文、見込みと体部の境に段がみられる。 高台は断面四角形。	類型は不明。
53	集石遺構	瓦器	椀	12.8	(2.4)	_	内)		精選された胎土。内面横方向の暗文。口縁部外面ヨコナデ。 胴部外面に指頭圧痕が認められる。内面にモミ圧痕。竜骨 構造。組織痕も残る。インディカの可能性が高い。	
54	集石遺構	瓦質土器	鍋	23.0	(3.2)	-	内) 外)		チャートの粗粒砂を多く含む。口縁内傾、口唇は丸く収める。 断面三角形の鍔がつく。	外面激しく煤 ける。
55	集石遺構	瓦質土器	鍋脚部	1	(4.2)	-	外) 断)	灰白 灰	チャートの粗粒砂を多く含む。三足鍋の脚部。径2.0~2.5cm。	
56	集石遺構	瓦質土器	鍋脚部	1	(6.1)	_	外) 断)		チャートの粗粒砂を多く含む。三足鍋の脚部。径2.0cm。	
57	集石遺構	瓦質土器	鍋脚部	1	(6.7)	-	外) 断)		チャートの粗粒砂を多く含む。三足鍋の脚部。身との接合部。 径2.5~2.8cm。	一部被熱赤変。
58	集石遺構	瓦質土器	鍋脚部	-	(8.4)	=	外) 断)		細粒砂、雲母を多く含む。三足鍋の脚部。	外面激しく煤 ける。
60	集石遺構	弥生	鉢	21.0	(6.3)	-	内)		チャートの粗粒砂を多く含む。内外面ナデ。	後期
65	SE1	土師器	坏	_	(1.5)	(6.0)		浅黄橙 浅黄橙	砂粒をほとんど含まない。断面台形状の厚い底部。底部糸 切り。	検出面
66	SE1	土師器	小皿	6.8	2.1	5.0		灰白 灰白	チャートの小礫、細粒砂を含む。外底に平行圧痕が認められる。内底横方向のナデ。底部糸切り。	検出面No.3
67	SE1	土師器	小皿	7.8	1.9	4.3		灰白 灰白	細粒砂を僅かに含む。体部中位下に段を有する。底部糸切り。	検出面
68	SE1	土師器	坏	1	2.2	6.9		灰白 灰白	砂粒を含まない。底部糸切り。	検出面
69	SE1	瓦器	椀	13.2	(1.7)	-		黒褐 黒褐	口縁内外面ヨコナデ。外面指頭圧痕。	検出面No.8?

図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形		法量(cπ 器高	i) 底径		色 訓	周	特	備考
70	SE1	土師器	坏	15.8	(3.5)	-		浅黄橙 浅黄橙		細・粗粒砂を含む。口縁部はまっすぐに立ち上げ端部は僅 かに外反させて丸く収める。	検出面
71	SE1	土師器	坏	14.4	(3.4)	_	内)	灰白 灰白		細・粗粒砂を含む。口縁部はまっすぐに立ち上げ端部は僅 かに外反させて丸く収める。	検出面
72	SE1	土師器	坏	14.8	(3.0)	-	内)	浅黄橙 浅黄橙		チャートの細粒砂を含む。口縁部はまっすぐに立ち上げ端 部は丸く収める。	検出面
73	SE1	土師器	坏	14.8	(4.1)	7.0		灰褐 灰白		チャートの細粗粒砂を含む。底部円盤が確認できる。	検出面。口縁内 面激しく煤ける。
74	SE1	土師器	椀	14.4	5.2	7.0	内)	浅黄橙 浅黄橙		チャートの細・粗粒砂を含む。口縁部はまっすぐに立ち上げ端 部は丸く収める。底部は高台状を呈す。全体的に摩耗が激しい。	検出面
75	SE1	土師器	椀	14.5	3.8	8.0	内)	浅黄橙 浅黄橙		細粒砂を含む。口縁部はまっすぐに立ち上げ端部は丸く収める。底部糸切り。	検出面No.8?
76	SE1	土師器	椀	14.8	4.3	7.2		浅黄橙 浅黄橙		チャートの細・粗粒砂を含む。底部糸切り。	検出面No.13
77	SE1	土師器	椀	14.2	4.6	7.0	内)	淡橙 淡橙		チャートの細粒砂を多く含む。底部は円盤状高台を呈す。 底部糸切り。	検出面No.18
78	SE1	土師器	椀	14.6	4.1	6.5	内)	浅黄橙 浅黄橙		チャートの細粒砂を含む。底部糸切り。	検出面No.14
79	SE1	土師器	椀	14.2	4.5	7.0	内)	浅黄橙 明褐灰		チャートの細・粗粒砂を含む。内面に右→左方向の弱いケ ズリ。ロクロ右回り。底部糸切り。	検出面No.2。内面の 一部が激しく煤ける。
80	SE1	土師器	椀	15.4	4.0	6.6	内)	浅黄橙 灰白		チャート他の細粒砂を含む。内面右→左方向の弱いケズリ。 ロクロ右回り。底部糸切り。	検出面No.17
81	SE1	須恵器	鉢	28.0	(4.1)	-	内) 外)			粗粒砂を多く含む。内外ヨコナデ。捏ね鉢。亀山。	検出面No.5
83	SE1	土師器	小皿	7.8	1.3	5.2		浅黄橙 浅黄橙		チャート他の細粒砂を含む。ロクロ左回り。内底横方向の ナデ。底部糸切り。	2面目No.9
84	SE1	土師器	小皿	7.8	1.3	5.0		灰白 灰白		精緻。内底横方向のナデ。底部糸切り。	2面目No.5
85	SE1	土師器	小皿	7.6	1.6	3.9		浅黄橙 浅黄橙		チャートの細粒砂を含む。底部糸切り。	2面目No.18
86	SE1	土師器	小皿	7.5	1.5	5.0		浅黄橙 浅黄橙		砂粒はほとんど含まない。内底横方向のナデ。モミ痕0.7×3.5mm。底部糸切り。	2面目
87	SE1	土師器	小皿	6.9	1.3	5.0		浅黄橙 浅黄橙		チャート他の細粒砂を含む。内底に同心円文がみられる。 底部糸切り。	2面目No.12
88	SE1	土師器	小皿	7.8	1.8	4.0	内)	浅黄橙 浅黄橙		チャート、赤色細粒砂を含む。底部糸切り。	2面目No.10
89	SE1	土師器	小皿	8.0	1.6	5.3		浅黄橙 浅黄橙		赤色細粒を多く含む。内底ヨコナデ。底部糸切り。	2面目No.16
90	SE1	土師器	小皿	8.0	1.6	5.1		灰白 灰白		チャートの細粒砂を多く含む。内底横方向のナデ。外面底 部に平行圧痕が認められる。底部糸切り。	2面目No.20
91	SE1	土師器	小皿	7.8	1.8	4.6		灰白 灰白		細粒砂を僅かに含む。内底横方向のナデ。薄手なつくり。 外面底部に平行圧痕が認められる。底部糸切り。	2面目
92	SE1	土師器	小皿	8.0	1.8	4.4		浅黄橙 浅黄橙		砂粒を含まない。内外面化粧土塗布か。底部糸切り。	内
93	SE1	土師器	椀	14.0	4.1	7.0		浅黄橙 浅黄橙		チャートの細・粗粒砂を含む。ロクロ右回り。内面に右→ 左方向の弱いケズリ。外面底部に平行圧痕が認められる。 底部糸切り。	2面目No.19
94	SE1	土師器	椀	15.0	4.1	8.0		浅黄橙 浅黄橙		細粒砂を含む。口縁部僅かに外反する。底部糸切り。	2面目No.13
95	SE1	土師器	椀	15.2	4.9	7.0	内)	にぶい橙 浅黄橙		チャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を多く含む。口縁部は まっすぐに立ち上げ、端部は外方へ僅かに屈曲させ丸く収 める。円盤状の上に粘土を貼付している。底部糸切り。	内。内面煤ける。
96	SE1	土師器	坏	_	(0.8)	6.9		黒褐 黒褐		赤色風化礫の細粒砂を含む。底部糸切り。	2面目。内外 面煤ける。
97	SE1	土師器	椀	14.8	3.8	7.0	内)	灰白 灰白		チャートの粗粒砂を多く含む。内底横方向のナデ。底部糸 切り。	内
98	SE1	土師器	椀	15.0	5.1	7.0	内)	灰黄褐 灰白		デャートの細・粗粒砂を含む。円盤状高台を呈す。底部糸切り。	内。内面は激しく煤ける。
99	SE1	瓦器	椀	14.8	5.3	6.0		黒		チャートの小礫を含む。口縁外面に暗文。断面台形のしっかりした高台。体部外面は指頭圧痕顕著。在地産。	内。
101	SE1	須恵器	甕	21.0	(9.4)	-	内)			砂粒を多く含む。内面同心円文状の当て具痕+ナデ。口頸 部外面ヨコナデ。胴部外面平行タタキ。	2面目No.21
102	SE1	須恵器	甕	_	(9.6)	_	内)	にぶい褐 灰黄		細粒砂を含む。外面平行タタキ。外面の一部に自然釉がかかる。内面ナデ。	2面目。内外面の 一部被熱赤変か。
103	SE1	須恵器	甕	_	(26.5)	_	内)			チャートの細粒砂を含む。内面ナデ。外面平行タタキ。	2面目No.21他
104	SE1	須恵器	甕	_	(7.5)	23.0	内)			細粒砂を含む。外面タタキ。外面の一部に自然釉がかかる。 内面ナデ。	内
105	SE1	須恵器	甕	-	_	(15.0)	内)	黄褐 暗褐		和い胎士。外面平行タタキ。内外面自然釉がかかる。焼成 中につぶれたもの。	内

図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形	口径	失量(cm 器高			色 調	特 徵	備考
129	SE1	土師器	坏	15.6	(3.4)	<u> </u>		にぶい橙 灰褐	チャートの細粒砂を含む。外面に目跡が顕著。	堀形
130	SE1	瓦器	椀	_	(5.1)	_	内)		外面に炭素は吸着しない。内面にヘラミガキが認められる。 外面指頭圧痕顕著。	堀形
131	SK2	土師器	椀	_	(2.5)	7.0	内)	浅黄橙 浅黄橙	チャートの粗粒砂を多く含む。円盤状高台。	
132	SK3	土師器	坏	12.2	(3.4)	=		にぶい黄橙 にぶい黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
133	SK3	土師器	坏	15.0	(1.2)	=		灰白 灰白	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
134	SK7	土師器	小皿	7.5	1.8	4.0		浅黄橙 浅黄橙	雲母他の細粒砂を含む。底部平行圧痕。	
135	SK7	土師器	坏	13.2	(1.2)	-		にぶい橙 褐灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
136	SK7	土師器	坏	13.0	(2.6)	_		灰黄 にぶい黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
137	SK7	土師器	坏	14.0	(3.3)	-		にぶい黄橙 にぶい黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
138	SK7	土師器	坏	16.0	(2.1)	-		にぶい橙 にぶい橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
139	SK7	土師器	坏	15.0	(2.6)	-		にぶい黄橙 にぶい黄橙	精選された胎土。外面に付着物がみられる。	内面煤ける。
140	SK7	土師器	坏	15.8	(2.2)	-	外)	黒褐 灰黄褐	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
141	SK7	土師器	椀	-	(1.6)	6.0		浅黄橙 浅黄橙	石英、チャートの細粒砂を多く含む。円盤状高台。	
142	SK7	土師器	坏	_	(1.5)	6.0		浅黄橙 浅黄橙	チャート他の細粒砂を含む。底部糸切り。	
143	SK7	土師器	椀	-	(2.3)	6.6		浅黄橙 浅黄橙	石英の細・粗粒砂を多く含む。体部外面ケズリ+ナデ。弱 い高台。底部糸切り。	外面煤ける。
144	SK7	土師器	椀	-	(2.6)	6.0		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。外面ヨコナデ。内面弱いケズリ+ヘラミ ガキ。底部糸切り。	
145	SK7	土師器	坏	_	(1.3)	6.0	内) 外)	黄灰 黄灰	細・粗粒砂を多く含む。底部糸切り。	
146	SK7	土師器	坏	-	(1.4)	6.0	内) 外)	灰白 黄灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
147	SK7	土師器	坏	_	(1.4)	6.4	内) 外)	灰白 灰黄褐	精選された胎土。底部糸切り。	
148	SK7	土師器	坏	_	(1.5)	6.0	内) 外)	浅黄橙 浅黄橙	チャート他の細粒砂を多く含む。底部糸切り。	
149	SK7	土師器	坏	-	(1.3)	7.0	内) 外)	褐灰 にぶい黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	外面煤ける。
150	SK7	土師器	坏	_	(1.9)	6.4		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
151	SK7	土師器	坏	_	(2.9)	7.0	外)	浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
152	SK7	土師器	羽釜	-	(3.2)	-		褐灰 にぶい黄橙	チャートの粗粒砂を多く含む。口縁部下断面三角突帯。内 外面摩耗が激しい。	
153	SK7	須恵器	甕	22.8	(5.8)	-		にぶい黄橙 黒褐	チャート他の細粒砂を含む。口縁部内外面ヨコナデ。胴部 外面平行タタキ。	外面煤ける。
154	SK7	土師器	甕	29.0	(4.4)	-	外)		チャート他の細・粗粒砂を多く含む。口唇部強いヨコナデ。 口縁部内外面ヨコナデ。	外面激しく煤 ける。
155	SK7	土師器	甕	24.0	(1.8)	-		黒褐 褐灰	チャートの細粒砂を多く含む。口唇部上方につまみだし。	内外面煤ける。
156	SK7	土師器	甕	28.2	(3.3)		外)	にぶい黄橙 にぶい黄橙	チャートの細・粗粒砂を多く含む。口縁部内外面ヨコナデ。 口唇部下方につまみ出し強くヨコナデ。	
157	SK7	土師器	甕	32.0	(6.8)	_	外)	にぶい黄橙 にぶい黄橙	チャート他の粗粒砂を多く含む。口縁部内外面及び上胴部 ヨコナデ。外面胴部タタキ。	外面煤ける。
158	SK7	須恵器	壺	15.0	(2.4)	_	内) 外)	灰	チャート他の細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
159	SK7	須恵器	捏ね鉢	21.0	(4.5)		内) 外)	灰	チャートの小礫を少し含む。内外面ヨコナデ。片口捏ね鉢。	
160	SK7	須恵器	甕	_	(6.8)	11.0	内) 外)	灰	チャート他の細・粗粒砂を含む。外底に砂粒が多く付着する。 外面に擦痕。	
161	SK7	須恵器	甕	_	(7.9)	_	外)	灰黄褐 褐灰	細粒を含む。外面平行タタキ。外面に自然釉。	
162	SK7	瓦器	椀	-	(2.1)	_	内) 外)	黒	精選された胎土。外面指圧痕。内面に暗文がみられる。	
163	SK7	瓦質土器	羽釜	22.0	(5.3)	_	内) 外)	褐灰 黒	チャートの細・粗粒砂を含む。口縁部内外面ヨコナデ。口 唇部面をとる。断面カマボコ状の突帯。	外面煤ける。

	出土地点	種類	器種		大量(cm			色 調	特	備考
番号 164	層位 SK7	瓦質土器	器形鍋脚	口径	器高 (6.6)	底径		にぶい黄橙	チャート、赤色チャート、他の粗粒砂を多く含む。在地産。	二次的に被熱
165	SK7	瓦質土器			(11.6)		内)	灰黄褐 黒灰	石英粒を多く含む。	する。
166	SK7	瓦質土器			(10.9)			<u></u>	チャート、石英粒を多く含む。	
167	SK7	白磁		11.2	3.0	5.8	内) 外)	灰白 灰白 5Y7/1 灰白 5Y7/1 灰白 N7/	胎土は緻密で黒い細粒を含む。釉は黄色味を帯びた灰白色 で白濁し不透明である。釉は全体に厚く施釉されており、	E-2b類と思わ れる。
168	SK7	白磁	碗	15.2	(2.8)	_	外)	灰オリーブ 5Y6/2 灰オリーブ 5Y6/2 灰白 7.5Y7/1	胎土は粗く黒い細粒が含まれる。黒に近い灰白色。釉はオリーブ色で透明、残存部では内面全体に外面は口縁と体部上位にのみ施釉。口縁付近には釉の二重がけがされているようである。外面口縁直下に沈線による段がある。口縁は玉縁で三角形に近い。器肉は薄い。	IV類
169	SK7	白磁	碗	16.6	(3.9)	ı	外)	灰白 2.5Y8/1 灰白 2.5Y8/1 灰白 10Y8/1	胎土はやや粗く黒い細粒を含みやや粗い。釉は黄色味を帯びた灰白色で不透明(乳白色)で全体的に薄く施釉されており、所々灰色である。釉は残存部で内外面ともに全体に施釉される。体部の器肉が薄く、口縁部を外反させ丸く収めている。体部外面ロクロ痕か。体部内面の所々に貫入がみられ、気泡も確認できる。	Ⅴ-3類
181	SK9	土師器	坏	14.8	(2.6)			浅黄橙 浅黄橙	細粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。	
182	SK9	土師器	坏		(0.9)	4.4		浅黄橙 浅黄橙	細・粗粒砂を含む。底部糸切り。	
183	SK9	土師器	椀	ı	(1.9)	7.4		暗褐 灰白	精選された胎土。円盤状高台。底部糸切り。	
184	SK9	土師器	坏	-	(1.9)	6.4		にぶい橙 にぶい橙	チャート他の細・粗粒砂を含む。	
185	SK9	土師器	坏	-	(3.0)	6.6		浅黄橙 浅黄橙	チャート他の細・粗粒砂を含む。底部円盤状で糸切り。	
186	SK9	土師器	甕	23.0	(6.9)	-		にぶい黄橙 褐灰	チャートの粗粒砂を含む。外面タタキ痕がみられる。	内外面に煤け。 特に外面は煤け が激しく付着。
187	SK12	土師器	坏	13.6	5.3	5.8		にぶい橙 にぶい橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。円盤状高台。	7 20 (17)
188	SK13	土師器	坏	15.0	4.6	6.4		にぶい黄橙 にぶい黄橙	チャートの粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
189	SK13	土師器	坏	_	(2.4)	6.6		にぶい橙 にぶい橙	チャート他の粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
190	SK13	土師器	坏	13.8	(1.5)	-		にぶい橙 にぶい橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
191	SK13	土師器	坏	14.0	(1.2)	-		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
192	SK14	土師器	坏	15.0	(7.3)	-	内)	灰白 灰白	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
193	SK16	土師器	小皿	8.0	1.6	5.0		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
194	SK16	土師器	小皿	9.6	1.6	7.0		灰黄 黄灰	細粒砂を含む。底部糸切り。	
195	SK16	土師器	小皿	8.1	1.7	5.0		浅黄橙 浅黄橙	チャートの粗・細粒砂を含む。底部糸切り。	
196	SK16	土師器	小皿	7.6	2.0	4.6		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切りで平行圧痕がみられる。	
197	SK16	土師器	椀	15.8	(3.2)	-		灰白 灰白	細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
198	SK16	土師器	椀	15.0	(4.3)	-	内)	にぶい黄橙 浅黄橙	チャートの細粒砂を少量含む。内外面ナデ。	
199	SK16	土師器	椀	17.0	(2.1)	_	内)	浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
200	SK16	土師器	椀	16.8	(4.1)	_	内)	浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。口縁部外面に太い沈線。外面ヨコナデ。 内面丁寧なヘラミガキ。	
201	SK16	土師器	坏	_	(2.1)	7.3	内)	浅黄橙 浅黄橙	チャート他の粗・細粒砂を含む。底部糸切り。	
202	SK16	土師器	椀	_	(2.1)	6.6	内)	浅黄橙 浅黄橙	チャート他の細・粗粒砂を多く含む。内面にヘラミガキが みられる。円盤状高台。底部は糸切り。	
203	SK16	土師器	椀	1	(1.9)	5.6	内)	浅黄橙 褐灰	チャート他の細粒砂を含む。底部糸切り+ナデ。高台高3mm。 断面扁平な高台貼り付け。高台内面強いナデ。体部外面右 →左方向の擦痕顕著。ロクロ右まわり。	
204	SK16	土師器	鉢	-	(2.6)	10.0		にぶい黄橙 にぶい橙	チャート、赤色風化礫の粗粒砂が多く含まれる。底部糸切り。	

図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形	注 口径	法量(cm 器高			色 調	特 徵	備考
205	SK16	土師器	坏	14.4	4.1	7.0		褐灰 にぶい黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	内面煤ける。
206	SK16	須恵器	鉢	-	(6.0)	14.0		褐灰 灰黄褐	チャートの細・粗粒砂を多く含む。内面激しく摩耗する。 亀山?捏ね鉢か擂鉢。	
207	SK16	土師器	小皿	-	(0.6)	4.7		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
208	SK16	土師器	小皿	8.0	1.7	4.5		淡赤橙 淡赤橙	精選された胎土。摩耗が激しい。	
209	SK16	土師器	小皿	8.2	1.8	5.0		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
210	SK16	土師器	小皿	8.0	1.5	5.0		灰白 灰白	細粒を含む。底部糸切り。	
211	SK16	土師器	小皿	8.0	1.6	5.0		浅黄橙 浅黄橙	チャートの細粒砂を含む。内面底部横方向のナデ。底部糸 切りで平行圧痕がみられる。	
212	SK16	土師器	小皿	8.0	1.6	5.7		浅黄橙 浅黄橙	チャートの細粒砂を含む。内面底部横方向のナデ。底部糸 切り。	
213	SK16	土師器	坏	14.8	(2.4)	1		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
214	SK16	土師器	坏	14.0	(2.5)	1		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
215	SK16	土師器	坏	14.4	(2.6)	-		浅黄橙 浅黄橙	細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	外面煤ける。
216	SK16	土師器	坏	14.4	(3.2)	1		明褐灰 にぶい黄橙	チャートの細・粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
217	SK16	土師器	坏	15.0	(3.1)	-		浅黄橙 浅黄橙	チャート、赤色風化礫の細粗粒砂が多く含まれる。内外面 強いヨコナデ。	
218	SK16	土師器	坏	15.6	(3.1)	-		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
219	SK16	土師器	坏	15.8	(2.5)	-		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
220	SK16	土師器	坏	15.4	(2.6)	1		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
221	SK16	土師器	坏	16.8	(3.4)	1		にぶい褐 にぶい黄橙	細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
222	SK16	土師器	坏	15.0	(2.0)	1	外)	浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
223	SK16	土師器	坏	15.0	(3.2)	-		にぶい黄橙 にぶい黄橙	チャートの細・粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
224	SK16	土師器	坏	16.0	(3.9)	-	外)	浅黄橙 浅黄橙	チャート他の細粒を含む。内外面ヨコナデ。	
225	SK16	土師器	坏	15.6	(3.7)	1		浅黄橙 浅黄橙	チャートの細粒砂を含む。	
226	SK16	土師器	坏	16.4	(3.6)	-	外)	浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
227	SK16	土師器	椀	15.0	5.4	5.8		灰白 灰白	チャート他の細・粗粒砂を含む。口縁部は外反する。円盤 状高台。底部糸切り。焼成不良。	
228	SK16	土師器	椀	15.0	(3.8)	1		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
229	SK16	土師器	椀	1	(1.0)	1		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内面ミガキ。断面カマボコ状の扁平な貼り付け高台で高さ3mm。	
230	SK16	土師器	坏	ı	(3.0)	5.0		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。外面ヨコナデ。底部糸切り。柱状の高台で、 内面のくほみが大きい。	
231	SK16	土師器	坏		(2.7)	7.0		灰白 灰白	精選された胎土。底部糸切り。	
232	SK16	土師器	坏	ı	(2.5)	6.6		浅黄橙 浅黄橙	チャート他の粗・細粒砂を含む。底部糸切り。	
233	SK16	土師器	坏	ı	(2.9)	7.0	外)	灰白 灰白	精選された胎土。内面底部横方向のナデ。底部糸切り、平 行圧痕残る。	
234	SK16	土師器	椀	İ	(2.4)	5.8		浅黄橙 浅黄橙	細粒砂を含む。円盤状高台。底部は糸切り+平行圧痕。	
235	SK16	土師器	椀	1	(1.8)	5.4		浅黄橙 浅黄橙	チャートの細粒を含む。断面扁平化した貼り付け高台。高 台幅は一定せず3~4mm。内外面摩耗が激しい。	
236	SK16	土師器	椀)	(3.9)	5.0		浅黄橙 浅黄橙	チャート他の細粒砂を多く含む。内外面ナデ。円盤状高台。 底部糸切り。	
237	SK16	土師器	甕	25.8	(2.7)	_	外)	暗赤灰 暗赤灰	石英粗粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。	搬入品。
238	SK16	土師器	甕	1	(2.5)	_		灰黄褐 にぶい黄橙	チャート、赤色風化礫の砂粒を含む。	
239	SK16	須恵器	短頸壺	10.0	(3.7)	_	内) 外)		精選された胎土。内外面ヨコナデ。	

図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形	口径	法量(cm 器高			色調	特	備考
240	SK16	須恵器	短頸壺		(8.1)	_	内) 外)		精選された胎土。内外面ヨコナデ。外面に自然釉。	
241	SK16	須恵器	甕	21.8	(2.5)	_	内) 外)	灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。内面に自然釉。	
242	SK16	須恵器	甕	20.0	(7.4)	_	内)外)		精選された胎土。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タ タキ。内面の一部にハケ調整がみられる。外面に自然 釉。	
243	SK16	須恵器	甕	=	(6.5)	17.0	内) 外)		チャートの粗粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。下胴部、 底部剥落。	
244	SK16	須恵器	甕	-	(9.1)	13.6	内) 外)	灰	チャートの細・粗粒砂を含む。外面平行タタキ。内面ナデ。	
245	SK16	須恵器	甕	=	(29.9)	=	内) 外)	灰	チャート他の細粒砂を含む。外面右下がりの平行タタキ。 器壁は厚い。 (1.7~3.8cm)	No.4
246	SK16	須恵器	壺	-	(7.6)	_		灰	精選された胎土。胴部の器壁が著しく厚く1.0~1.8cm。内 外面ヨコナデ。	
247	SK16	瓦器	椀	-	(1.1)	4.7		黒	断面台形状のしっかりした高台。	
248	SK16	瓦器	椀	_	(2.6)	_		黒	内面に暗文がみられる。	
249	SK16	白磁	碗	15.8	(3.7)	_	内) 外)	灰黄 2.5Y7/2 灰黄 2.5Y7/2 灰首 2.5Y7/1	胎士はやや粗く黒い細粒が含まれる。釉は灰黄色で外面口縁付近に釉の二重がけがみられる。外面口縁部直下に釉垂れがみられ気泡が目立つ。口縁部は玉縁である。内外面に貫入がみられる。	IV類。
250	SK16	白磁	碗	_	(3.4)	_	外)	灰白 5Y7/1 灰白 5Y7/1 灰白 2.5Y8/2	胎土はやや粗く灰色を呈し黒い細粒を含む。釉は灰白色で 白濁する。残存部では内外面ともに全面に厚く施釉される。 口縁部外面に釉垂れがみられる。体部外面の所々に気泡が みられる。外面に削り込みによる弱い稜線がみられる。口 縁部は玉縁である。	
257	SD4	土師器	小皿	8.7	1.7	6.0	内) 外)		精選された胎土。	
258	SD4	土師器	坏	_	(2.7)	6.8	内) 外)		赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。底部糸切り。	外面煤ける。
259	SD4	土師器	土鍋	_	(3.2)	_	内)	にぶい橙 にぶい橙	石英、角門石他の細粒砂を含む。断面三角形の鍔。	
260	SD4	瓦質土器	羽釜	_	(2.7)	_	内)	暗灰 暗灰	チャート他の細・粗粒砂を含む。	
262	SD5	土師器	坏	14.6	(3.1)	_	内)	浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
263	SD5	土師器	坏	_	(2.1)	6.6	内)	浅黄橙 浅黄橙	チャートの細・粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
264	SD5	土師器	坏	_	(1.8)	6.6	内)	<u> </u>	チャート、雲母の細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
265	SD5	須恵器	蓋	14.6	(1.4)	-	内) 外)	灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
266	SD10	土師器	小皿	7.3	1.6	4.0	内)	浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。	
267	SD10	土師器	小皿	7.8	1.4	5.0		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
268	SD10	土師器	鉢	23.0	(6.3)	-	内)	灰白 灰白	チャートの粗粒砂を多く含む。内外面強いヨコナデ。	
270	P5	土師器	小皿	8.8	1.5	6.6	内) 外)	橙 淡赤橙	精選された胎土。	
271	P26	土師器	小皿	6.7	1.7	4.4	内) 外)	橙	赤色風化礫を多く含む。	
272	P26	土師器	小皿	6.4	1.7	4.4	内) 外)	橙	赤色風化礫を多く含む。	
273	P4	土師器	椀	_	(1.2)	6.4	内)	 浅黄橙 浅黄橙	円盤状高台。底部糸切り。	
274	P26	土師器	椀	-	(1.5)	6.0	内) 外)	橙	細・粗粒砂を少量含む。外底円盤貼付痕がみられる。底部 糸切り。	
275	P94	瓦質土器	鉢	_	(4.8)	_	内)		精選された胎土。内外面ヨコナデ。捏ね鉢。	
276	P6	瓦質土器	羽釜	_	(2.4)	_	内)		チャートの粗粒砂を多く含む。	
277	P379	土師器	坏	12.6	4.2	6.8	内)	<u>バロ</u> にぶい橙 浅黄橙	チャート他の細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
278	P382	須恵器	壺	_	(3.6)	10.5	内) 外)	灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
279	P1	土師器	坏	12.0	(1.9)	_	内)	浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
							1 217	- 423 1	1	

図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形		法量(cm 器高) 底径	色 調	特 徵	備考
280	P2	土師器	坏	14.6	(2.3)	_	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
281	P2	土師器	坏	15.8	(2.7)	-	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
282	P3	土師器	坏	-	(1.9)	_	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
284	P8	須恵器	鉢	28.2	(6.1)	-	内) 橙 外) 赤灰橙	チャートの粗粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。片口捏ね 鉢。	赤変。
285	P9	土師器	坏	10.9	3.7	7.0	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
286	P9	土師器	坏	11.4	4.8	7.0	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
287	Р9	土師器	小皿	-	(1.1)	4.4	内) にぶい橙 外) にぶい橙	赤色風化礫を含む。	
288	P9	土師器	坏	-	(2.3)	8.6	内) にぶい橙 外) にぶい橙	赤色風化礫の粗粒砂を含む。	
289	P56	土師器	坏	-	(2.0)	4.4	内) 灰褐 外) 褐灰	チャートの細粒砂を含む。底部糸切り。	
290	P97	土師器	坏	-	(1.4)	6.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
291	P200	土師器	坏	16.2	(3.8)	-	内) にぶい橙 外) にぶい橙	精選された胎土。外面ナデ。内面ミガキ。	
292	P200	土師器	坏	-	(1.6)	6.6	内)淡赤橙 外)淡赤橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
293	P200	土師器	椀	-	(1.6)	7.4	内) にぶい橙 外) にぶい橙	細粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
294	P200	土師器	椀	-	(1.6)	7.4	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。外面ケズリ+ミガキ。内面ミガキ。断面 四角形の扁平な高台。外底糸切り+ナデ。	
295	P213	土師器	坏	-	(1.5)	7.4	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャートの粗粒砂を含む。底部糸切り。	
296	P213	須恵器	甕	17.0	(3.1)	-	内) 灰 外) 灰	細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
297	P221	土師器	小皿	8.8	1.5	6.0	内) 灰褐 外) 灰褐	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
298	P221	土師器	小皿	8.4	1.4	5.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
299	P232	須恵器	鉢	21.8	(4.5)	-	内) 灰 外) 灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
300	P247	土師器	坏	14.5	4.4	7.4	内)浅黄橙 外)浅黄橙	チャートの細・粗粒砂を多く含む。底部糸切り。	
301	P247	瓦質土器	羽釜	24.0	(3.2)	-	内) 灰 外) 灰	チャート他の細粒砂を含む。口縁部下断面三角突帯貼付。	
302	P276	土師器	坏	_	(2.1)	6.0	内) 黒褐 外) にぶい橙	精選された胎土。内面炭素付着。内外面ヨコナデ。底部糸 切り。	
303	P276	土師器	坏	_	(2.9)	7.6	内)浅黄橙 外)浅黄橙	細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
304	P276	瓦質土器	羽釜	_	(2.3)	-	内) 暗灰 外) 暗灰	チャート、雲母の細粒砂を含む。断面三角の大きい突帯が 巡る。	
305	P308	土師器	椀	_	(1.5)	7.0	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
306	P332	土師器	坏	_	(2.3)	5.0	内) 浅黄橙 外) 橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
307	P333	土師器	坏	_	(2.2)	6.0	内) にぶい橙 外) 黒褐	細粒砂を含む。。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	外面激しく煤 ける。
308	P333	瓦質土器	鍋	19.0	(4.3)	_	内)灰白 外)灰白	チャートの細・粗粒砂を多く含む。	外面煤ける。
309	P380	土師器	小皿	7.6	2.2	5.0	内) にぶい橙 外) にぶい橙	精選された胎土。	
310	P380	土師器	小皿	8.0	1.6	5.0	内) にぶい橙 外) にぶい橙	精選された胎土。底部糸切り。	
311	P500	土師器	坏	16.0	(3.4)	=	内) にぶい黄橙 外) 灰黄褐	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	外面煤ける。
312	P380	土師器	坏	14.0	(3.0)	=	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
313	P500	土師器	坏	16.0	(3.6)	_	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	外面煤ける。
314	P500	土師器	坏	=	(1.2)	10.0	内) 灰黄褐 外) にぶい黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
315	土取り跡4	須恵器	鉢	26.0	(8.9)	_	内) 灰 外) 灰	粗粒砂を多く含む。外面に自然釉がかかる。口唇部は 面をとる。外面右→左方向のケズリ+ヨコナデ。内面 ヨコナデ。捏ね鉢。	

図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形	□ □径	・量(cm 器高			色 調	特徵	備考
316		弥生土器	壺	-	(4.0)	12.0		にぶい黄橙 浅黄橙	チャートの粗粒砂を多く含む。	
317	SR2	弥生土器	壺	_	(4.8)	10.6	内)	褐灰 浅黄橙	チャート他の粗粒砂を多く含む。	
318	SR2	弥生土器	壺	_	(6.0)	10.8	内)	暗灰黄 浅黄橙	チャートの粗粒砂を多く含む。	
319	SR2	土師器	坏	13.5	4.1	7.5		灰白 灰白	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
320	SR2	土師器	坏	-	(2.5)	6.9		にぶい橙 にぶい橙	粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
321	SR2	土師器	坏	13.8	4.2	7.0		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
322	SR2	土師器	坏	15.0	(2.4)	_		浅黄橙 浅黄橙	チャートの細・粗粒砂を多く含む。	
323	SR2	須恵器	壺	-	(7.9)	8.0	内) 外)	褐灰 灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
324	SR2	瓦質土器	羽釜	-	(3.3)	_		暗灰 暗灰	精選された胎土。	外面煤ける。
326	包含層	土師器	小皿	6.2	1.7	4.4		浅黄橙 浅黄橙	赤色風化礫を含む。底部糸切り。	
327	包含層	土師器	小皿	5.5	1.5	4.0		にぶい橙 にぶい橙	赤色風化礫を多く含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。平 行圧痕。	
328	包含層	土師器	小皿	7.2	1.4	5.2		浅黄橙 浅黄橙	チャートの粗粒砂を含む。底部糸切り。	
329	包含層	土師器	小皿	7.4	1.7	4.0		浅黄橙 浅黄橙	チャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。底部糸切り。	
330	包含層	土師器	小皿	7.6	2.0	4.0		浅黄橙 浅黄橙	チャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。底部糸切り。	
331	包含層	土師器	小皿	7.5	1.2	4.5		浅黄橙 浅黄橙	赤色風化礫の粗粒砂を含む。	
332	包含層	土師器	小皿	7.2	2.1	5.0		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切りで平行圧痕がみられる。	
333	包含層	土師器	小皿	8.4	2.1	5.0		灰白 灰白	精選された胎土。底部糸切りで平行圧痕がみられる。	
334	包含層	土師器	小皿	8.4	1.5	6.0		灰白 灰白	内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
335	包含層	土師器	小皿	7.2	1.3	4.2	外)	浅黄橙 にぶい橙	精選された胎土。底部糸切り。	
336	包含層	土師器	小皿	7.4	1.6	5.5	内) 外)	にぶい橙 にぶい橙	精選された胎土。底部糸切り。	
337	包含層	土師器	小皿	8.4	1.6	4.0		浅黄橙 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
338	包含層	土師器	小皿	7.0	1.6	4.6		灰白 灰白	精選された胎土。底部糸切りで平行圧痕がみられる。	
339	包含層	土師器	小皿	8.0	1.6	5.4		灰白 灰白	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。平行圧痕。	
340	包含層	土師器	小皿	8.2	1.5	4.6	内) 外)	浅黄橙 橙	チャートの粗粒砂を含む。平行圧痕。	
341	包含層	土師器	小皿	8.2	1.7	4.5	内)	灰白 灰白	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
342	包含層	土師器	小皿	7.6	1.7	5.6		浅黄橙 浅黄橙	チャートの粗粒砂を含む。底部糸切りで平行圧痕がみられる。	
343	包含層	土師器	小皿	7.5	1.5	4.8	内)	浅黄橙 浅黄橙	チャート他の粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り、 平行圧痕。	
344	包含層	土師器	小皿	7.3	1.4	5.4	内)	灰白 灰白	精選された胎土。底部糸切り。	
345	包含層	土師器	小皿	8.0	1.5	5.0		灰白 灰白	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
346	包含層	土師器	小皿	8.3	1.4	5.5	内)	灰白 灰白	細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り、平行圧痕。	
347	包含層	土師器	小皿	9.4	0.9	7.0		灰白 灰白	精選された胎土。底部糸切り、平行圧痕。	
348	包含層	土師器	坏	13.4	3.6	7.2		にぶい赤橙 にぶい赤橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
349	包含層	土師器	坏	14.0	3.7	7.0		浅黄橙 浅黄橙	赤色風化礫の細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
350	包含層	土師器	坏	14.9	4.4	8.2		浅黄橙 浅黄橙	チャート他の粗・細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。内面右 →左のケズリ。底部糸切り。	外面煤ける。
351	包含層	土師器	坏	14.2	4.6	6.8		浅黄橙 浅黄橙	チャート他の細・粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	

図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形		:量(cm 器高		色 調	特 徴	備考
352	包含層	土師器	坏	13.8	4.0	6.8	内)浅黄橙 外)浅黄橙	赤色風化礫の細・粗粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。底 部糸切り。	
353	包含層	土師器	坏	15.6	4.3	7.8	内)浅黄橙 外)浅黄橙	チャートの細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。 外底にモミ圧痕がみられる。	
354	包含層	土師器	坏	13.6	4.7	6.2	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。内面右→左のケズリ+ヨコナデ。ロクロ 右回り。底部糸切り。	
355	包含層	土師器	坏	1	5.3	7.8	内)にぶい橙 外)にぶい橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	内外面煤ける。
356	包含層	土師器	坏	14.3	4.2	6.6	内)浅黄橙 外)浅黄橙	チャートの細・粗粒砂を含む。内面右→左のケズリ。ロク 口右回り。底部糸切り。	
357	包含層	土師器	坏	14.3	4.6	7.0	内)にぶい橙 外)にぶい橙	チャートの細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
358	包含層	土師器	坏	14.8	4.6	7.7	内)灰白 外)灰白	赤色風化礫の細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り で平行圧痕。	
359	包含層	土師器	坏	14.8	4.7	7.0	内) 浅黄橙 外) にぶい橙	チャートの細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
360	包含層	土師器	坏	15.0	4.7	7.0	内)灰白 外)灰白	チャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。 底部糸切り。	
361	包含層	土師器	椀	14.0	4.8	5.4	内)浅黄橙 外)浅黄橙	石英、赤色風化礫を含む。外面回転ナデの痕跡が顕著。内 外面丁寧なヨコナデ。丸みを帯びた貼り付け高台。	
362	包含層	土師器	椀	15.6	5.7	6.0	内) にぶい褐 外) 浅黄橙	精選された胎土。長石、石英を含む。内面右→左方向のケ ズリ+丁寧なヨコナデ。断面台形の貼り付け高台。搬入品。	
363	包含層	土師器	椀	15.2	5.8	6.1	内)にぶい黄橙 外)にぶい黄橙	チャートを含まない。石英粒を多く含む。口縁部は肥厚する。 内面はケズリ+丁寧なヨコナデ。断面長方形のしっかりし た高台。底部糸切り+ナデ。ロクロ回転右回り。	
364	包含層	土師器	坏	I	(1.6)	6.4	内)にぶい橙 外)にぶい橙	チャートの細・粗粒砂が多く含まれる。	
365	包含層	土師器	坏	-	(2.7)	5.4	内)灰白 外)灰白	細粒砂を多く含む。	
366	包含層	土師器	坏	-	(2.8)	6.0	内)灰白 外)灰白	精選された胎土。底部糸切りで平行圧痕。	
367	包含層	土師器	坏	-	(2.5)	7.4	内)浅黄橙 外)浅黄橙	チャートの細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
368	包含層	土師器	坏	-	(1.6)	7.0	内) 橙 外) 橙	チャートの粗粒砂を含む。底部糸切り。	
369	包含層	土師器	坏	1	(2.8)	7.7	内)浅黄橙 外)浅黄橙	チャートの細・粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
370	包含層	土師器	坏	(1.8)	-	6.0	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。円盤状高台。底部糸切り。	
371	包含層	土師器	坏	-	(2.8)	6.4	内) にぶい橙 外) 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
372	包含層	土師器	坏	-	(2.0)	6.6	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
373	包含層	土師器	坏	-	(1.7)	6.4	内)灰白 外)灰白	チャートの細粒砂を含む。底部糸切り。	
374	包含層	土師器	坏	-	(4.1)	7.0	内)浅黄橙 外)浅黄橙	赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸 切り。	
375	包含層	土師器	坏	ı	(2.3)	5.2	内)灰白 外)灰白	乳白色で精緻な胎土。擬口縁部に粘土を継ぎ足して完成か。 坏の未製品か。	
376	包含層	土師器	坏	_	(1.8)	6.3	内) 灰白 外) 灰白	黄灰色で精緻な胎土。底部糸切り。	
377	包含層	土師器	坏	_	(2.6)	5.3	内)灰白 外)灰白	乳白色で精緻な胎土。石英粒を含む。	
378	包含層	土師器	坏	-	(3.0)	5.0	内)灰白 外)灰白	乳白色で精緻な胎土。底部糸切り。	
379	包含層	土師器	椀	_	(2.4)	5.6	内)浅黄橙 外)浅黄橙	赤色風化礫を含む。内外面ヨコナデ。	
380	包含層	土師器	椀	_	(1.7)	5.7	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。高台は扁平化する。底 部糸切り。	
381	包含層	土師器	椀	-	(2.5)	7.2	内) 褐灰 外) にぶい黄橙	雲母、石英粒を多く含む。内外面へラミガキ。断面台形状 のしっかりした高台。搬入品。	
382	包含層	土師器	椀	-	(1.9)	6.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャートの細粒砂を多く含む。円盤状高台。底部糸切り。	
383	包含層	土師器	椀	_	(2.1)	5.6	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	赤色風化礫の細粒砂を含む。底部糸切り。	
384	包含層	土師器	椀	ı	(2.2)	7.5	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	細粒砂を含む。底部糸切り。	
385	包含層	土師器	椀	_	(2.9)	5.5	内) 褐灰 外) 浅黄橙	精選された胎土。内面ヘラミガキ。円盤状高台。	内面煤ける。
386	包含層	土師器	椀	-	3.2	6.6	内)浅黄橙 外)浅黄橙	チャートの細粒砂を多く含む。円盤状高台。底部糸切り。	

図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形	∑ 口径	法量(cm 器高			色調	特	備考
387	包含層	土師器	椀	1	(4.4)	6.0	内) 浅外) 浅		チャートの粗粒砂を含む。円盤状高台。底部糸切り。	内外面煤ける。
388	包含層	土師器	椀	_	(4.3)	6.0	内)浅外)浅	長黄橙	チャートの粗粒砂を含む。円盤状高台。底部糸切り。	
389	包含層	土師器	椀	_	(2.2)	6.4	内) 複外) 複		精選された胎土。円盤状高台。底部糸切り。	内外面煤ける。
390	包含層	土師器	椀	-	(3.1)	5.9	内) 浅外) 浅	長黄橙	精選された胎土。内面ヘラミガキ。円盤状高台。底部糸切り。	
391	包含層	土師器	椀	-	(1.9)	6.6	内) 浅外) 浅	美黄橙	チャートの細・粗粒砂を多く含む。底部糸切り。円盤状高 台。	
392	包含層	土師器	椀	-	(2.8)	5.6	内) 浅外) 浅	長黄橙	特選された胎土。内面ヘラミガキ。円盤状高台。底部糸切り。	
393	包含層	土師器	椀	1	(3.4)	6.0	内) 浅外) 浅	長黄橙	赤色風化礫の細粒砂を多く含む。円盤状高台。底部糸切り。	
394	包含層	土師器	椀	_	(3.1)	6.0	内) に	こぶい黄橙 こぶい黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
395	包含層	土師器	椀	-	(4.1)	6.6	内) に	こぶい黄橙 こぶい黄橙	赤色風化礫を多く含む。底部糸切り。	
396	包含層	土師器	椀	1	(3.2)	5.4	内) 浅外) 浅	 表卷	赤色風化礫の粗粒砂を含む。	
397	包含層	土師器	甕	25.0	(3.7)	_	内) に	こぶい褐 こぶい赤褐	石英、長石の細・粗粒砂を多く含む。口縁部内外面ヨコナデ。 口唇部凹状を呈する。	
398	包含層	土師器	甕	30.6	(6.5)	_		こぶい橙	チャート他の粗粒砂を多く含む。口縁部内外面ヨコナデ。	
399	包含層	土師器	甕	36.0	(7.2)	_		こぶい橙	石英、長石他の細粒砂を多く含む。内外面赤褐色。口縁部 内外面ヨコナデ。口唇部は凹状を呈する。	
400	包含層	須恵器	椀	15.3	6.1	5.5	内) 外) 外) 灰	ē白	チャートの細・粗粒砂を含む。内外面削り+丁寧なヨコナデ。 内面にヘラミガキか。しっかりした方形高台。底部糸切り	
401	包含層	須恵器	椀	16.4	(3.7)		内)灰	Š.	+ナデ。ロクロ回転右回り。 精選された胎士。外面ケズリ+ヨコナデ。内面ヨコナデ。	
402	包含層	須恵器	椀	_	(1.4)	3.6	外)灰内)灰	Š	内外上半部に自然釉がかかる。 精選された胎土。外面ケズリ+ヨコナデ。内面ミガキ。底	
403	包含層	須恵器	椀	1	(2.2)	6.0	外)灰内)灰	ē	部糸切り。 精選された胎土。内外面ヨコナデ。厚い円盤状高台。底部	
404	包含層	須恵器	椀		(3.2)	6.0		こぶい黄橙	糸切り。 精選された胎土。黄茶色に発色。外面ヨコナデ。内面ミガキ。	
405	包含層	須恵器	椀	_	(2.2)	6.0	内) 灰		火欅がみられる。底部糸切り。平行圧痕が残る。 精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
406	包含層	須恵器	捏ね鉢	1	(2.4)		外)灰内)灰	ē	細・粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。東播系須恵器。	
407	包含層	須恵器	水注		(4.8)	_	外) 灰内) 複	易灰	精選された胎土。注口端部は鋭く削いでいる。外面に自然釉。	
408	包含層	須恵器	注口部	8.7	(5.0)		外)複	Š	体部接合部から剥離。 精選された胎土。上胴部から内傾する。内外面丁寧なヨコ	
409	包含層	須恵器	壺	_	(5.9)	_	外)灰内)灰	Š	ナデ。 精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
410	包含層	須恵器	壺	-	(6.1)	8.0	外)灰内)灰	3	精選された胎土。外面弱いケズリ+ヨコナデ。内面ナデ。	
411	包含層	須恵器	奢	24.0	(4.4)		外) 灰内) 灰	Š	粗粒砂を少量含む。内外面ヨコナデ。	
412	包含層	須恵器	甕	17.3	(4.9)	_	外)灰内)灰	5	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
413	包含層	須恵器	蹇	18.0	(2.4)		外)灰内)灰	3	精選された胎土。内外面ヨコナデ。内面に自然釉がかかる。	
414	包含層	須恵器	変	19.6	(3.0)		外)灰内)灰	Š	精選された胎土。口唇部鋭く面を取る。内外面ヨコナデ。	
415	包含層	須恵器	蹇	21.0	(5.8)		外)灰内)暗	音赤褐	内外面に自然釉がかかる。 精選された胎土。内外面ヨコナデ。内外面に自然釉がかか	
416	包含層	須恵器	甕	23.0	(3.6)		外)灰内)灰	Š	る。 精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
417	包含層	須恵器	悪	23.0	(7.5)		外)灰内)灰	Ē	粗粒砂を多く含む。内面横方向のケズリ+ヨコナデ。外面	
418	包含層	須恵器	蹇	26.0	(6.5)		外) 灰内) 灰	3	ヨコナデ。 精選された胎土。内外面ヨコナデ。胴部外面平行タタキ。	
419	包含層	須恵器	悪	31.0	(5.2)		外)灰内)灰	Š	精選された胎土。内外面ヨコナデ。口唇部は凹状を呈する。	
							外)灰内)灰		胴部外面平行タタキ。外面に自然釉がかかる。 焼成は堅緻。内外面ヨコナデ。内面は白色化した自然釉が	
420	包含層	須恵器	鉢	21.0	(5.4)	_		こぶい赤橙	付着する。口縁端部は僅かに摘み上げ口唇部は面を取る。 捏ね鉢。	

444 包含層 瓦貫土器 羽金 19.0 (7.0) - 外) 無褐 幅の鍔で、鍔の上下口縁部ヨコナデ。胴部内外面ナデ。 ける。13C 445 包含層 瓦質土器 羽金 21.2 (6.2) - 内) 灰 ム 大 ハ 下 大 ハ ト 大 原樹 デャート他の粗粒砂を多く含む。口唇部は面を取る。1.0cm 帰の鍔で、鍔の上下口縁部ヨコナデ。胴部内外面ナデ。 外面煤ける。 446 包含層 瓦質土器 羽金 22.0 (4.0) - 内) 灰 ム 所 大 ハ 下 ム ト ト ル の 細粒砂を含む。口唇部は丸く収める。内外面 ナデ調整。胴部外面に指頭圧痕。 448 包含層 瓦質土器 鍋 18.5 (3.3) - 内) 灰 ム テ ト ト の 部・粗粒砂を含む。口唇部は面を取る。内 か 所 上 デ調整。胴部外面 指頭圧痕。 449 包含層 瓦質土器 鍋 17.0 (6.8) - 内) 灰 外) 灰白 胴部外面 指頭圧痕。 外面煤ける。 450 包含層 瓦質土器 鍋 18.0 (5.8) - 内) 灰 外) 底白 精選された胎土。口縁部内外面 ヨコナデ。胴部外面 指頭圧痕。 外面煤ける。	図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形		^{法量(cm} 器高		色	Ī	洞	特	備考
20	421	包含層	須恵器	鉢	21.2	(6.4)	=			:橙		
428	422	包含層	須恵器	鉢	24.0	(5.0)	-	, ., .	い赤	: 稽	焼成は堅緻。内外面ヨコナデ。東播系捏ね鉢模倣か。	
425 名金物 別連器 終 320 337	423	包含層	須恵器	鉢	(24.4)	(3.3)	_	内) 灰		1		
15 20 音響	424	包含層	須恵器	鉢	32.0	(3.7)	_	内) 灰			精緻。内外面ヨコナデ。口唇部外面上半に重ね焼き痕がみ	
145	425	包含層	須恵器	鉢	-	(2.7)	10.4				粗粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。捏ね鉢。亀山。	
22 24 25 25 25 25 25 25	426	包含層	須恵器	鉢	-	(4.7)	11.0					
428 20 合列 東北部 東京 東京 17.1 12.6 月) 灰 井瀬された助上・外面在一右方向にケズリ。月面ナデ、外 東部 12.6 月) 灰 月) 大 日) 日) 大 日) 日) 大 日) 日)	427	包含層	須恵器	甕	-	(5.8)	12.2					
430 20 50 50 50 10 12 50 50 50 50 50 50 50 5	428	包含層	須恵器	甕	_	(7.1)	12.6					
430 20 20 20 20 20 20 20	429	包含層	須恵器	甕	-	(7.5)	12.6				チャート他の粗粒砂を多く含む。外面ケズリ+ヨコナデ。 内面ナデ。外底に砂粒が多く付着する。	
13 20 合層	430	包含層	須恵器	甕	-	(8.9)	11.0					
20	431	包含層	須恵器	甕	-	(3.5)	18.0		禄		精選された胎土。外面に自然釉がかかる。	
433 包含層 見寄 横 - (0.7) 60 45 50 50 50 50 50 50 5	432	包含層	瓦器	小皿	9.0	1.9	_					
433 色音層 見命 (433	包含層	瓦器	椀	_	(0.7)	4.6				精選された胎土。断面三角形の貼り付け高台。	
438 包含層 見論 検	434	包含層	瓦器	椀	=	(0.7)	6.0				=	
439 包含層 見器 帆 - (1.6) 52 外)	435	包含層	瓦器	椀	-	(0.9)	5.8				精選された胎土。断面三角形の貼り付け高台。	
43 包含層 見益 他 一 (1.2) 6.0 外) 暗灰 万ヤートの細・根紋砂を多く含む。 町面カマボコ状の尚行。	436	包含層	瓦器	椀	_	(1.6)	5.2					
439 包含層 瓦器 椀 一 (3.3) 一 外) 暗灰 日本のコーナア。内間にカイット間に相談に扱かられる。	437	包含層	瓦器	椀	-	(1.2)	6.0				チャートの細・粗粒砂を多く含む。断面カマボコ状の高台。	
440 包含層 瓦震 検 15.2 4.9 5.6 分 暗灰 部 部 取入 和 和 和 和 和 和 和 和 和	438	包含層	瓦器	椀	_	(3.3)	_				口縁部ヨコナデ。内面ミガキ。外面に指頭圧痕がみられる。	
440 包含層 瓦質土器 羽釜 - (4.9) - 内) 灰 頭圧痕。 マボコ状の鍔で、鍔の上下口縁部ヨコナデ。胴部外面に指頭圧痕。 外面媒ける。 441 包含層 瓦質土器 羽釜 - (5.2) - 内) 灰 サート他の細・粗粒砂を含む。口唇部は丸みを帯びる。 外面媒ける。 442 包含層 瓦質土器 羽釜 18.0 (5.5) - 内) 果 外 黒 チャートの粗粒砂を多く含む。口唇部は丸みを帯びる。 断面三角形の口っかりした鍔で、 鍔の上下口縁部ヨコナデ。 脚部内外面ナデ。 上足鍋。 443 包含層 瓦質土器 羽釜 18.6 (5.0) - 内) 灰 黄	439	包含層	瓦器	椀	15.2	4.9	5.6				部内面に横方向のミガキ。内底は一定方向のミガキ。断面	
441 包含層 瓦質土器 羽金 - (5.2) -	440	包含層	瓦質土器	羽釜	-	(4.9)	-				マボコ状の鍔で、鍔の上下口縁部ヨコナデ。胴部外面に指	
442 包含層 瓦質土器 羽金 18.0 (5.5) 一 外) 黒	441	包含層	瓦質土器	羽釜	_	(5.2)	_		į.			外面煤ける。
443 包含層 瓦質土器 羽釜 18.6 (5.0) -	442	包含層	瓦質土器	羽釜	18.0	(5.5)	_		ーブ	*黒		
444 包含層 丸質工器 羽金 19.0 (7.0) 一 外) 無褐 幅の鍔で、鍔の上下口縁部ヨコナデ。胴部内外面ナデ。 ける。13C 445 包含層 瓦質土器 羽金 21.2 (6.2) - 内) 灰白 チャート他の粗粒砂を多く含む。口唇部は面を取る。1.0cm 幅の鍔で、鍔の上下口縁部ヨコナデ。胴部内外面ナデ。 外面煤ける。 446 包含層 瓦質土器 羽金 22.0 (4.0) - 内) 灰白 ケート他の細粒砂を含む。口唇部は丸く収める。内外面 ナデ 調整。胴部外面に指頭圧痕。 448 包含層 瓦質土器 鍋 18.5 (3.3) - 内) 灰白 チャートの細粒砂を含む。口唇部は丸く収める。内外面 ナデ 調整。胴部外面に指頭圧痕。 449 包含層 瓦質土器 鍋 17.0 (6.8) - 内) 灰白 チャートの細・粗粒砂を含む。口唇部は面を取る。内面ナデ。 外面煤ける。 450 包含層 瓦質土器 鍋 18.0 (5.8) - 内) 灰白外面 原成 外面 上の	443	包含層	瓦質土器	羽釜	18.6	(5.0)	_				面三角形の鍔。器表の荒れが激しい。脚は付け根が剥離。	外面煤ける。
445 包含層 瓦質土器 羽釜 21.2 (6.2) - 内) 灰 ム	444	包含層	瓦質土器	羽釜	19.0	(7.0)	=					外面激しく煤 ける。13 C
446 包含層 瓦質土器 羽釜 22.0 (4.0) - 内) 灰白 外) 暗灰白 447 包含層 瓦質土器 羽釜 23.0 (3.5) - 内) 灰白 外) 灰白 448 包含層 瓦質土器 鍋 18.5 (3.3) - 内) 灰白 か) 灰白 ナデ調整。胴部外面に指頭圧痕。 449 包含層 瓦質土器 鍋 17.0 (6.8) - 内) 灰白 外) 灰白 胴部外面指頭圧痕。 450 包含層 瓦質土器 鍋 18.0 (5.8) - 内) 灰 外) 暗灰 頻、暗灰 外) 暗灰 外) 黒 精選された胎土。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面指頭圧 泉。 451 包含層 瓦質土器 鍋脚 - (4.5) - 内) 暗灰 外) 黒 チャートの粗粒砂を多く含む。三足鍋の脚の付け根。 ける。 452 包含層 瓦質土器 鍋脚 - (5.5) - 内) 所次 外) 暗灰 チャートの細・粗粒砂を多く含む。けけ根から剥離。三足 小面性はる。 453 包含層 瓦質土器 鍋脚 - (11.8) - 内) 暗灰 チャートの細・粗粒砂を多く含む。付け根から剥離。三足 小面性はる。	445	包含層	瓦質土器	羽釜	21.2	(6.2)	-		j			
447 包含層 瓦質土器 羽釜 23.0 (3.5) - 内) 灰白 外) 灰白 外) 灰白 448 包含層 瓦質土器 鍋 18.5 (3.3) - 内) 灰白 外) 灰白 ナデ調整。胴部外面に指頭圧痕。 449 包含層 瓦質土器 鍋 17.0 (6.8) - 内) 灰 外) 灰白 胴部外面指頭圧痕。 450 包含層 瓦質土器 鍋 18.0 (5.8) - 内) 灰 外) 暗灰 精選された胎土。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面指頭圧 泉。 451 包含層 瓦質土器 鍋脚 - (4.5) - 内) 暗灰 外) 黒 チャートの粗粒砂を多く含む。三足鍋の脚の付け根。 ける。 452 包含層 瓦質土器 鍋脚 - (5.5) - 内) 灰 外) 暗灰 チャートの細・粗粒砂を多く含む。ナデ。三足鍋。 453 包含層 瓦質土器 鍋脚 - (11.8) - 内) 暗灰 チャートの細・粗粒砂を多く含む。付け根から剥離。三足	446	包含層	瓦質土器	羽釜	22.0	(4.0)	-	内) 灰白	I			
448 包含層 瓦質土器 鍋 18.5 (3.3) - 内) 灰白 チャート他の細粒砂を含む。口唇部は丸く収める。内外面 ナデ調整。胴部外面に指頭圧痕。 449 包含層 瓦質土器 鍋 17.0 (6.8) - 内) 灰 外) 灰白 チャートの細・粗粒砂を含む。口唇部は面を取る。内面ナデ。 外面煤ける。 450 包含層 瓦質土器 鍋 18.0 (5.8) - 内) 灰 外) 暗灰 精選された胎土。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面指頭圧 外面煤ける。 451 包含層 瓦質土器 鍋脚 - (4.5) - 内) 暗灰 チャートの粗粒砂を多く含む。三足鍋の脚の付け根。 ける。 452 包含層 瓦質土器 鍋脚 - (5.5) - 内) 呼外 チャートの細・粗粒砂を多く含む。ナデ。三足鍋。 453 包含層 瓦質土器 鍋脚 - (11.8) - 内) 暗灰 チャートの細・粗粒砂を多く含む。付け根から剥離。三足 小面埋はる。	447	包含層	瓦質土器	羽釜	23.0	(3.5)	-	内) 灰白				
449 包含層 瓦質土器 鍋 17.0 (6.8) - 内) 灰 外) 灰白 デャートの細・粗粒砂を含む。口唇部は面を取る。内面ナデ。外面煤ける。 450 包含層 瓦質土器 鍋 18.0 (5.8) - 内) 灰 射 暗灰 精選された胎土。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面指頭圧 泉。 外面煤ける。 451 包含層 瓦質土器 鍋脚 - (4.5) - 内) 暗灰 外) 監 チャートの粗粒砂を多く含む。三足鍋の脚の付け根。 外面激しく煤ける。 452 包含層 瓦質土器 鍋脚 - (5.5) - 内) 灰 外) 暗灰 チャートの細・粗粒砂を多く含む。ナデ。三足鍋。 453 包含層 瓦質土器 鍋脚 - (11.8) - 内) 暗灰 チャートの細・粗粒砂を多く含む。付け根から剥離。三足 小面埋ける。	448	包含層	瓦質土器	鍋	18.5	(3.3)	_	内) 灰白				
450 包含層 瓦質土器 鍋 18.0 (5.8) - 内) 灰外) 暗灰外) 暗灰外) 暗灰タウン 暗灰タウン によっている によっ	449	包含層	瓦質土器	鍋	17.0	(6.8)	_	内) 灰			チャートの細・粗粒砂を含む。口唇部は面を取る。内面ナデ。	外面煤ける。
451 包含層 瓦質土器 鍋脚 - (4.5) - 内) 暗灰 外) 黒 チャートの粗粒砂を多く含む。三足鍋の脚の付け根。 外面激しく煤ける。 452 包含層 瓦質土器 鍋脚 - (5.5) - 内) 灰 外) 暗灰 チャートの細・粗粒砂を多く含む。ナデ。三足鍋。 453 包含層 瓦質土器 鍋脚 - (118) - 内) 暗灰 チャートの細・粗粒砂を多く含む。付け根から剥離。三足 小面性は2	450	包含層	瓦質土器	鍋	18.0	(5.8)	_	内) 灰			精選された胎土。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面指頭圧	外面煤ける。
452 包含層 瓦質土器 鍋脚 - (5.5) - 内) 灰 外) 暗灰	451	包含層	瓦質土器	鍋脚	_	(4.5)	_	内) 暗灰				外面激しく煤 ける。
453	452	包含層	瓦質土器	鍋脚	-	(5.5)	-	内) 灰	į.		チャートの細・粗粒砂を多く含む。ナデ。三足鍋。	
	453	包含層	瓦質土器	鍋脚	-	(11.8)	-	内)暗灰	ζ.			外面煤ける。

図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形		 大量(cm 器高		色 調	特 徵	備考
454	包含層	瓦質土器	鉢	19.6	(4.7)	上(1土	内) 灰 外) 灰自	細・粗粒砂を含む。口唇部は面を取る。外面は右→左方向 のケズリ+ナデ。内面ヨコナデ。捏ね鉢。	
455	包含層	白磁	壺	9.8	(1.5)	-	内) 灰オリーブ 5Y6/2 外) 灰オリーブ 5Y6/2 断) 灰白 5Y7/1	胎土は粗く灰黒っぽい。釉は灰オリーブ色で残存部では内 外面全面に比較的薄く施釉されている。口縁部直下には釉 溜まりが確認できる。内外面に少し貫入がみられる。壺の 口縁部と思われる。	
456	包含層	白磁	壺	-	(1.9)	-	内)灰白 7.5Y7/1 外)灰白 7.5Y7/1 断)灰白 N7/	胎土は密で黒い細粒を僅かに含む。釉は空色味を帯びた灰 白色で、残存部では内外面ともに施釉される。残存部下位 は外湾しているようである。中位は中湾、上位は外湾。上 位は玉縁状の口縁か。内面調整痕と思われる斜めの稜線が 2条みられる。	
457	包含層	白磁	Ш	10.2	(1.5)	_	内)灰白 7.5Y6/1 外)灰白 7.5Y6/1 断)灰白 2.5Y7/1	胎土はやや粗く黒い細粒を僅かに含む。釉はオリーブ色がかった灰色でやや厚めに施釉されている。残存部では内外面ともに全体に施釉される。残存部の下方に貫入がみられる。 内面体部上位で内湾しその屈曲部に段を有する。	Ⅳ類もしくは VI-la類
458	包含層	白磁	Ш	10.9	(1.6)	_	内)灰 5Y6/1 外)灰 5Y6/1 断)灰白 5Y7/1	胎土は粗く黒い細粒を少量含む。釉はオリーブがかった灰色で内面屈曲部に厚く施釉される。残存部では内外面ともに全体に施釉される。体部上位で内湾しその屈曲部に段を有する。外面体部上位には沈線が2条みられる。口縁端部は丸く収める。	IV類もしくは VI-1類の皿。
459	包含層	白磁	IIIL	9.4	(2.1)	_	内)灰白 10Y8/1 外)灰白 2.5GY8/1 断)灰白 7.5Y8/1	胎土は密で黒い細粒を含む。釉は内面と外面の釉色が異なる。 内面はやや青味がかった純白であるが、外面はオリーブが かった釉で外面には貫入を伴う。外面体部中位から下は露胎。 口縁部端部には施釉されない「口禿げの白磁」と思われる。 外面端部は黄色に変色しており施釉は定かではないが、体 部下位の露胎が黄変しているので外面端部も露胎と考えら れる。端部内面は露胎であるが純白で断面の色とは異なる ので化粧土を施したことも考えられる。口縁部は僅かに外 反する。外面は滑らかではなく凹凸がある。	A群のⅢと考 えられる。
460	包含層	白磁	Ш	10.0	(3.2)	_	内)灰白 5GY8/1 外)灰白 5GY8/1 断)灰白 5Y8/1	胎土は粗く黒い細粒を含む。釉はやや空色およびオリーブ色がかった灰白色でやや白濁する。比較的厚めに施釉されており、残存部では内外面ともに施釉されるが口縁部端部のみ露胎の「口禿げの白磁」である。口縁部端部は露胎で断面とは色が違うため化粧土を施している可能性が考えられる。口縁部は外反しており体部は内湾している。	A群もしくは IX類の皿。
461	包含層	白磁	碗	_	(2.3)	-	内)灰白 10Y7/1 外)灰白 10Y7/1 断)灰白 7.5Y8/1	胎土はやや粗く黒い細粒を含む。口縁部釉の二重がけ。口 縁部下に段がみられる。口縁部は細長い玉縁で、断面から みると折り返した部分が融離している。貫入がみられる。	IV類
462	包含層	白磁	碗	13.8	(3.4)	_	内)灰白 5Y7/2 外)灰白 5Y7/2 射)灰白 7.5Y8/1	胎土は細かく密で黒い細粒を少量含む。釉は黄色を帯びた 灰白色で透明。残存部では内面全体及び外面体部上位から 中位にかけてやや厚めに施釉されており、口縁部付近は二 重がけされる。内面体部上位に釉垂れ。口縁部はなだらか なカーブで細長い玉縁である。	IV類
463	包含層	白磁	碗	14.6	(3.8)	_	内)灰白 5Y7/1 外)灰白 5Y7/1 断)灰白 N7/	胎土はやや粗く黒い細粒が含まれる。釉は体部外面全面に 黄色味がかった透明の釉を施す。口縁内外面に釉の二重が けがみられる。口縁部外面に重ね焼き痕が1ヵ所みられる。 外面体部に小さな気泡がみられる。	IV類
464	包含層	白磁	碗	15.6	(3.8)	-	内)灰白 5Y7/1 外)灰白 5Y7/1 断)灰白 7.5Y7/1	胎土は比較的粗く黒い細粒が含まれる。釉は黄色又はオリーブがかった灰白色でやや厚めに施釉する。残存部では内外面全体に施釉されており口縁には二重がけしていると思われる。外面体部にロクロ痕がみられ、内面体部上位に釉垂れがみられる。口縁部は玉縁である。	₩類
465	包含層	白磁	碗	14.6	(3.5)	_	内)灰白 5Y7/2 外)灰白 5Y7/2 断)灰白 5GY8/1	胎土は粗く黒い細粒を含む。釉は黄色味を帯びた灰白色で厚めに施釉される。口縁部外面は二重がけか釉が厚めになっている。残存部では内外面全体に施釉される。口縁部は玉縁で、内部断面には空洞がみられる。施釉により全体が滑らかな曲線であるが、ロクロ整形時には角張っていたようである。	IV類
466	包含層	白磁	碗	14.2	(3.2)	_	内)灰黄 2.5Y7/2 外)灰黄 2.5Y7/2 断)灰白 2.5Y8/2	胎土は密でクリーム色に近く、黒い細粒が含まれる。釉は 灰黄色でやや厚めに施釉され釉が厚い部分に気泡が多くみ られる。口縁部は釉の二重がけか。口縁部は丸みのある玉 縁である。内面体部上位に釉の垂下がみられる。内外面に 貫入がみられるが、内面はやや少ない。	Ⅳ類
467	包含層	白磁	碗	16.4	(5.5)	_	内)灰 5Y7/1 外)灰 5Y7/1 断)灰 N6/	胎土は粗く黒い細粒が含まれる。口縁部に釉の二重がけが 見られ垂下している。口縁部下、体部上位に緩やかな稜線 がみられ交差して下方に向かう。口縁部は玉縁である。体 部中位から下は露体する。	IV類
468	包含層	白磁	碗	16.8	(2.4)	-	内)灰黄 2.5Y7/2 外)灰黄 2.5Y7/2 射)灰白 2.5Y8/2	胎土はやや粗くクリーム色に近く、黒い細粒が含まれる。 釉は灰黄色で口縁部下位から体部上位にかけて釉が濃くなっている。釉が濃くなっている部分には気泡がみられる。 口縁部は和の二重がけか。口縁部直下には段をもつ。口縁 部は玉縁である。内外面に貫入がみられるが、口縁部外面 は摩耗のためか薄い。	IV類

図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形		法量(cm 器高		色 調	特 徵	備考
469	包含層	白磁	碗	15.6	(3.7)	- Alay jula	内)灰白 5Y7/2 外)灰白 5Y7/2 断)灰白 N7/	胎土は密で黒い細粒を含む。釉はやや黄色味を帯びた透明な釉で厚く施釉する。外面口縁部直下外面に沈線状の段をもつが釉により段はほとんどなくなっている。口縁部は玉縁である。体部中位から下は露胎する。	IV類
470	包含層	白磁	碗	15.6	(5.0)	_	内)灰白 5Y7/2 外)灰白 7.5Y7/1 断)灰白 10Y8/1	胎土はやや密で黒い細粒が含まれる。釉は黄もしくはオリーブ色がかった灰白色で透明な釉である。口縁部ではより厚くなっており、二重がけしたものと思われる。外面化粧土の上に施釉と思われる。外面体部下位からは施釉されておらず露胎する。体部の器肉は口縁部から高合に近づくにつれ厚くなる。口縁部の器肉は薄い。口縁部は外反させ端部は丸く収める。内面底部下位に沈線を有する。	V-3類か。
471	包含層	白磁	碗	17.0	(3.4)	-	内)にぶい黄橙 10YR7/3 外)にぶい黄橙 10YR7/3 断)灰白 2.5Y8/2	胎土は粗く黒い細粒も若干含まれる。釉はにぶい黄橙色で 薄く施釉されている。体部には気泡がみられる。残存部で は内外面に施釉されている。体部上位に一段の稜がみられる。 口縁部は玉縁で断面から見ると折り返した部分が融離して いる。貫入が内外面にみられる。	IV類
472	包含層	白磁	碗	18.2	(3.4)	_	内)灰白 5Y7/2 外)灰白 5Y7/2 断)灰白 5Y7/1	胎土は細かく密で黒い細粒を含む。釉は黄色味がかった灰白色でやや厚めに施釉する。口縁部直下に段がみられるが、釉で覆われ外面はなだらかである。口縁部外面には釉の二重がけがみられ釉が厚くなっているが内面では明確には確認できない。口縁部内部断面に空洞がみられる。口縁部は玉縁で口縁端部は比較的尖っている。	Ⅳ類
473	包含層	白磁	碗	17.9	(4.3)	-	内)灰白 5Y7/1 外)灰白 5Y7/1 断)灰白 N7/	胎土はやや粗く黒い細粒を含む。釉はオリーブ色および灰色を帯びた灰白色で透明である。残存部では全面にやや厚めに施釉されている。体部はやや内湾気味で体部上位で外反する。体部下位で器肉が厚くなる。口縁部は外反し端部は丸く収めている。	V-2類かV-3 類であるが、 V-2類の可能 性が高い。
474	包含層	白磁	碗	_	(2.0)	6.0	内)にぶい黄橙 10YR7/ 外)にぶい黄橙 10YR7/ 断)灰白 10YR8/2	り、	IV類か。
475	包含層	白磁	碗	_	(2.1)	7.0	内)灰白 5Y7/2 外)灰 5Y6/1 断)灰白 7.5Y8/1	胎土はやや密で黒い細粒が含まれる。釉は黄色味がかった 灰白色で内外面に貫入がみられる。外面は高台まで施釉し 高台は露胎する。底部が比較的厚く、ケズリ出しはシャー プである。内面見込みの釉を輪状に掻き取っており、内底 見込み近くに段をもつ。	₩₩
476	包含層	白磁	碗	_	(1.9)	5.8	内)浅黄 5Y7/3 外)灰 7.5Y6/1 断)灰白 N8/	胎土はやや粗く黒い細粒を含む。釉は浅黄色で、内底見込みには貫入がみられる。断面の色と釉がけしていない外面との色調が違うので、素地の上に化粧土をかけていると思われる。内底見込みの釉を輪状に掻き取っており、内底見込み近くに沈線がみられる。底部が比較的厚く、見込み外面にはヘラケズリの跡がみられ、ケズリ出しは浅いがシャーブである。高台と体部との境に段をもつ。体部外面にヘラケズリ痕と思われるものがみられる。	₩類
477	包含層	白磁	碗	_	(2.2)	7.2	内)灰白 7.5Y8/1 外)灰白 7.5Y8/1 断)灰色 5Y7/1	胎土は粗く黒い細粒が含まれる。釉はオリーブ色がかった 灰白色で、内面と外面体部下位まで施釉。残存部では釉は 薄く施釉されている。高台は幅広で、削り出しは浅いため、 底部の器肉も厚い。内面見込みに融着物がみられる。	IV類
478	包含層	白磁	碗	_	(1.8)	3.6	内)灰白 5Y7/2 外)灰白 5Y7/2 断)灰白 5Y8/1	胎土は粗く黒い細粒を含む。釉は黄色味がかった灰白色で、外面は体部下位より上に施釉されている。底部が比較的厚く、見込み外面にはヘラケズリの跡がみられる。ケズリ出しはシャープである。高台と体部の境に段をもつ。体部外面にヘラケズリ痕とおもわれるものがみられる。内面見込みの釉を輪状に掻き取っている。内面見込み近くに沈線がみられる。	WII類
479	包含層	白磁	碗	_	(2.9)	7.6	内)灰白 7.5Y8/1 外)灰白 7.5Y8/1 断)灰白 5Y8/1	胎土は比較的粗く黒い細粒が含まれる。釉はオリーブ色が かった灰白色で残存部では薄く施釉。外面体部下位まで施釉。 外面底部及び高台にヘラケズリ痕かと思われるものが認め られる。高台は幅広で削り出しは浅いため底部の器肉も厚い。 内面見込みに沈線状の段、融着物がみられる。	IV類
480	包含層	青磁	皿か坏	_	(1.9)	_	内)灰オリーブ 7.5Y5/2 外)灰オリーブ 7.5Y5/2 断)灰白 7.5Y8/1		類型は不明。
481	包含層	青磁	碗	_	(2.4)	_	内)灰オリーブ 5Y5/ 外)灰オリーブ 5Y5/ 断)灰白 5Y8/1		龍泉窯系青磁 I-5b類。 491と同一個 体か。
482	包含層	青磁	碗	_	(3.2)	_	内)オリーブ灰 2.5Y6/ 外)オリーブ灰 2.5Y6/ 断)灰白 7.5Y7/1		龍泉窯系青磁 I-4類

図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形	口径	大量(cm 器高			色 調	特	備考
483	包含層	青磁	碗	-	(2.3)	_	外)	灰オリーブ 5Y5/3 灰オリーブ 5Y5/3 灰白 5Y7/1	胎土は密で灰白色である。釉は黄色味がかった緑色の透明 釉で厚く施釉する。外面口縁部と体部の境に段を有する。 口縁部はまっすぐに立ち上げ端部は丸く収める。外面体部 に鎬連弁文を施す。	龍泉窯系青磁 I-5b類
484	包含層	青磁	碗	_	(3.2)	П	外)	灰オリーブ 5Y5/2 灰オリーブ 5Y5/2 灰白 5Y7/1	胎土はやや粗く灰白色である。釉は灰色がかったオリーブ 色で透明、厚く施釉されている。内面に少し、外面に大き い貫入がみられる。内面にヘラによる文様がみられる。口 縁部に輪花がみられる。口縁部が若干玉縁になっている。	龍泉窯系青磁 I-4b類
485	包含層	青磁	碗	_	(4.2)	-	外)	灰オリーブ 5Y5/2 灰オリーブ 5Y5/2 灰白 5Y8/1	胎土はやや粗く灰色である。釉は黄色味がかったオリーブ 色で残存部で内外面全面に施釉する。口縁部はまっすぐに 立ち上げ端部は丸く収める。外面に鎬連弁文を施す。	龍泉窯系青磁 I-5b類と思 われるが、IV 類の可能性も 考えられる。
486	包含層	青磁	碗	13.2	(3.1)	1	外)	灰オリーブ 5Y6/2 灰オリーブ 5Y6/2 灰白 5Y7/1	胎士はやや粗く灰色である。釉は青味を帯びた緑色で残存部の口縁部では全面に厚く施釉される。内面には口唇部に2条のヘラによる片彫りの沈線、体部には飛雲文を施す。外面口唇部にも2条の沈線がみられる。口縁部にかけてほぼまっすぐに立ち上がり口唇部を薄くして端部は丸く収めている。	龍泉窯系青磁 I-4類
487	包含層	青磁	碗	15.0	(2.7)	ı		オリーブ黄 オリーブ黄	胎土は密で灰色である。釉はオリーブ色がかった灰色で、 残存部では内外面ともに全面に厚く施釉される。口縁部は まっすぐに立ち上げ端部は丸く収める。体部外面に鎬連弁 文がみられる。	龍泉窯系青磁
488	包含層	青磁	碗	16.0	(3.2)	-	外)	オリーブ灰 5GY6/1 オリーブ灰 5GY6/1 灰白 N7/	胎土はやや粗く黒色の強い灰白色である。釉は青味を帯びた緑色で残存部では全面にやや厚めに施釉される。口縁部は外面が直立に引き出される。外面体部に鎬連弁文を施す。	龍泉窯系青磁 I-5b類
489	包含層	青磁	碗	14.2	(1.9)	ı	外)	灰オリーブ 5Y5/3 灰オリーブ 5Y5/3 灰白 N7/	胎土はやや粗く黒の強い灰色である。釉はやや黄色味がかった緑灰色で透明、残存部の口縁部では内外面全面に施釉される。外面上位に細かい櫛目が見られる。口縁部はまっすぐに引き上げて端部は丸く収めている。	同安窯系青磁 碗 I -1b類
490	包含層	青磁	碗	16.0	(1.7)	1	外)	灰オリーブ 5Y5/3 灰オリーブ 5Y5/3 灰白 5Y7/1	胎土は密で灰白色である。釉は黄色がかったオリーブ色の 透明釉で、残存部では内外面ともに全面に厚く施釉される。 内外面とも細かい貫入がみられる。口縁部は僅かに外反し 薄く引き出している。外面体部に鎬連弁文を施している。	龍泉窯系青磁 I-5b類
491	包含層	青磁	碗	17.4	(3.8)	1	外)	灰オリーブ 5Y6/2 灰オリーブ 5Y6/2 灰白 5Y7/1	胎土は密で灰白色である。釉はくすんだ灰オリーブ色で内外面ともに全面に厚く施釉する。所々貫入がみられる。外面口縁部と体部の境に段を有する。口縁部はまっすぐに立ち上げ端部は丸く収める。外面に鎬連弁文を施す。	龍泉窯系青磁 I-5b類
492	包含層	青磁	碗	15.0	(2.6)	1	外)	灰オリーブ 5Y5/2 灰オリーブ 5Y5/2 灰白 5Y8/1	胎土はやや粗く灰白色である。釉はくすんだオリーブ色で 残存部の口縁部には内外面全面に薄く施釉する。内面口唇 部には3条の沈線がみられ、一部4条になる部分もみられる。 体部には飛雲文を施している。外面は無文である。口縁部 は内面が少しだけ外反する。	龍泉窯系青磁 I-4類
493	包含層	青磁	碗	17.0	(2.5)	ı	外)	灰 10Y6/1 灰 10Y6/1 灰白 5Y8/1	胎土は密で灰白色である。釉は青味を帯びた緑灰色で、残存部では内外面全面にやや厚めに施釉されている。口縁部に2条の沈線がみられる。口縁部はまっすぐに立ち上げ端部は丸く収める。	龍泉窯系青磁 I-4類か
494	包含層	青磁	碗	16.6	(4.0)	1	外)	灰オリーブ 5Y6/2 灰オリーブ 5Y6/2 灰白 2.5Y7/1	胎士は密で灰白色である。釉は黄色味を帯びた緑色で薄く 施釉される。残存部の口縁部付近では全面に施釉される。 外面口縁部は釉が少し濃くなっている。外面は無文で内面 には蓮華文の片彫りを有する。内面体部上位に1条の沈線 を有する。体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部はまっす ぐに引き出し丸く収めている。	龍泉窯系青磁 I-2類
495	包含層	青磁	碗	15.0	(3.8)	-	外)	明緑灰 7.5GY7/1 明緑灰 7.5GY7/1 灰白 7.5Y7/1	胎土はやや粗く灰白色である。釉はやや青味がかった明緑 灰色で透明で厚く施釉される。残存部では内外面に施釉する。 体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸く収める。内 外面とも無文。	龍泉窯系青磁 I-1類
496	包含層	青磁	碗	17.4	(2.0)	-	外)	灰オリーブ 5Y5/3 灰オリーブ 5Y5/3 灰白 5Y7/1	胎土は精緻で灰白色である。釉は黄色がかったオリーブ色 の透明釉で、内外面ともに全面に施釉する。口縁部と体部 との境に段を有する。体部外面に鎬連弁文を施す。	龍泉窯系青磁 I-5b類
497	包含層	青磁	碗	15.2	(4.9)	1	外)	灰オリーブ 5Y5/3 灰オリーブ 5Y5/3 灰白 N7/	胎土はやや粗く灰白色である。釉は灰色がかったオリーブ 色で透明、薄く施釉される。残存部では内外面とも全体に 施釉されており、全体に貫入がみられる。器肉は体部下位 にいくほど厚くなる。全体的には厚めである。体部はやや 内湾気味に立ち上がり、口縁部端部は丸く収める。	龍泉窯系青磁 I -1類級と 出土 は 1 -1類級と 出土 か に 対 が 、
498	包含層	青磁	碗	17.0	(6.5)	-	外)	明緑灰 7.5GY7/1 明緑灰 7.5GY7/1 灰白 5Y7/1	胎士は密で白に近い灰色を呈し黒い細粒を含む。釉は空色 味の強い緑灰色で、残存部では内外面ともに全面に厚く施 釉される。高台とその内部は露胎し赤く発色している。体 部は内湾して口縁部までなだらかに立ち上がり、端部は丸 く収める。底部の器肉は厚く、高台の断面は四角形である。 内外面ともに無文。	類型は不明。

図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形		法量(cm 器高		色調	特	備考
499	包含層	青磁	碗	<u>一</u>	(5.2)	6.4	内) 黄オリーブ 5Y7/1 外) 黄オリーブ 5Y7/1 断) 灰白 5Y7/1	胎土はやや密で灰白色である。釉は黄色味がかったオリーブ 色で内面は全面に施釉。外面は基本的に高台は露胎。一部高 台内部まで釉がつき、一部底部下位まで露胎する。内外面と もに貫入がみられる。内面体部にヘラによる片彫りの文様が みられるが、飛雲文か草花文かは残存部が少なく判断できな いが草花文に近いようである。見込みと体部との境に沈線状 の段を有する。高台は断面四角形で底部の器肉は厚い。	龍泉窯系青磁 I-1~4類の いずれかであ る。
500	包含層	青磁	碗	_	(6.6)	-	内)灰オリーブ 5Y5/3 外)灰オリーブ 5Y5/3 断)灰白 5Y7/1	胎土は密で灰白色である。釉は黄色がかったオリーブ色で透明釉で、残存部では内外面ともに全面に厚く施釉される。内外面とも細かい貫入がみられる。体部は内湾しながら立ち上がり口縁部がわずかに外反する。口縁は薄く引き出している。外面体部に鎬連弁文を施している。	龍泉窯系青磁 I-5b類
501	包含層	青磁	碗	_	(3.5)	ı	内)オリーブ黄 5Y6/3 外)オリーブ黄 5Y6/3 断)灰白 5Y7/1	胎土はやや密で灰白色である。釉は同安窯特有の黄色味の強い飴色ガラス質で、残存部の体部中上位は全面に施釉する。 体部は若干内側に屈曲。内面上位に2条の沈線がみられる。 外面に細かい櫛目がみられる。残存部上位で櫛目が切れている。	同安窯系青磁 碗 I -1b類
502	包含層	青磁	碗	_	(2.2)	6.4	内)明オリーブ灰 5GY7/1 外)明オリーブ灰 5GY7/1 断)灰白 N8/1	胎土は密で灰色を呈し黒い細粒を含む。釉は明るいオリーブ色が白濁した乳白色でやや厚く施釉される。高台内部と高台畳付け内側の釉を削り取っており、削り取った境が赤茶色に発色する。高台内側の釉削り部分に砂目跡が残る。高台は断面四角形であるが畳付けの先端が断面三角形になっている。内面見込みにカブトハバ文様がみられる。	類型は不明。
503	包含層	青磁	碗	_	(1.7)	4.8	内)灰オリーブ 5Y5/4 外)灰白 5Y7/1 断)灰白 5Y7/1	胎土は精緻で灰色である。釉は黄色味の強い緑色で飴色ガラス質である。内面と外面の一部施釉されるが、高台部にはほとんど施釉されておらず体部の釉が垂下したものと考えられる。内面見込みの高くなった部分は釉が禿げている。見込みには施文されない。内面見込みと体部との境に段を有する。高台は台形状の厚い高台で体部との境に段を有する。底部の器肉が比較的厚い。	同安窯系青磁 碗 I -1類
504	包含層	青磁	碗	_	(1.9)	6.2	内)灰オリーブ 7.5Y6/2 外)灰オリーブ 7.5Y6/2 断)灰白 N8/1	胎土はやや粗く灰白色である。釉はくすんだオリーブ色の 透明釉で、残存部では内面全体と外面は体部のみ薄く施釉 する。見込みと体部の境に沈線状の段がみられる。底部の 器肉は厚い。	類型は不明。
505	包含層	青磁	碗	_	(3.2)	4.9	内)明緑灰 7.5GY7/1 外)明緑灰 7.5GY7/1 断)灰白 N8/	胎土は精良で緻密、白に近い灰白色である。釉は青味を帯びた緑色で透明である。内面に全て、外面は高台までに施釉がみられる。一部高台に垂下がみられるが故意につけたものではないだろう。高台が厚く、高台の脚部分と見込み部分との境に段を有する。内面見込みに薄いが施文さ見込みと体部との境に段を有するが、釉により表面はなだらかである。体部はなだらかに内湾気味に立ち上がる。高台内部に一部砂のようなものが付着する。所々赤茶色に変色する。	龍泉窯系青磁 I-2a類
506	包含層	青磁	ш.	_	(0.8)	6.2	内)灰オリーブ 7.5Y6/2 外)灰白 5Y7/1 断)灰白 5Y8/1	胎土は粗く灰白色である。釉は特有の飴色とは少し異なり、 少しくすんだ灰オリーブ色である。底部は露胎する。外面 露胎部と断面の色が違う。外面体部下位は内側に屈曲。見 込みには櫛描きによるジグザグ文様を有する。	同安窯系青磁 皿 I -2類
507	包含層	青磁	Ш	_	(0.9)	5.0	内)オリーブ 5Y5/4 外)灰白 5Y7/1 断)灰白 5Y7/1	胎土は粗く灰白色である。釉は同安窯特有のやや黄色味の強い飴色ガラス質で少し厚めに施釉する。外面体部下半と底部には施釉されない。体部下位が屈曲しているが釉により表面はなだらかである。見込みにヘラによる片彫りと櫛によるジグザグ文様がある。	同安窯系青磁 皿 I -1b類
508	包含層	青磁	Ш	_	(0.8)	2.8	内)明オリーブ灰 2.5GY7/1 外)灰白 5Y7/1 断)灰白 N7/	胎土は粗く灰白色である。断面と外面露胎部分の色調が異なる。しかし同安窯系青磁には化粧土がないため汚れの可能性も考えられる。釉は特有の飴色とは少し異なり少しくすんだオリーブ灰色である。底部は露胎する。底部外面下位に釉が禿げている所がある。外面体部に下位が屈曲している。見込みにはヘラによる片彫りと櫛によるジグザグ文様を有する。	同安窯系青磁 皿 I -2類
509	包含層	染付青花	碗	_	(2.3)	-	内)灰白 5Y8/2 外)灰白 5Y8/2 断)灰白 2.5Y8/2	胎土は比較的密でクリーム色である。釉は内外面ともに全面に施釉する。内外面に染付けの文様がみられる。細かい 貫入がみられる。	
510	包含層	染付青花	碗	-	(1.2)	3.8	内)明オリーブ灰 2.5GY7/1 外)明オリーブ灰 2.5GY7/1 断)灰白 10YR8/2	胎土は粗く灰色である。釉は空色味がかった乳緑色で白濁している。 残存部では内外面全面に施釉する。 見込みと外面体部には文様が施される。 底部には砂が溶着している。 碁笥底の皿である。	染付皿E群
511	包含層	瀬戸	ш	_	(1.7)	ı	内)灰オリーブ 5Y5/3 外)灰オリーブ 5Y5/3 断)灰白 2.5Y8/2	胎土は粗く灰白色である。風化が激しく釉も禿げている所が多い。残存する釉は濃いオリーブ色でザラザラになっている。折り縁の口縁である。瀬戸の菊花皿である。	
512	包含層	瀬戸か	深皿	28.8	(3.8)	_	内)淡黄 2.5Y8/3 外)淡黄 2.5Y8/3 断)灰白 2.5Y8/2	胎土は密でクリーム色に近い。釉は薄い黄色の透明で、残 存部では内外面ともに全面にごく薄く施釉される。口縁部 内面に段を有する。古瀬戸の深皿か。	
513	包含層	備前?	擂り鉢	=	(4.5)	_	内)灰褐外)褐灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。内面に9条の条線がみられる。須恵器のような焼成。	
514	包含層	備前	擂り鉢	31.0	(9.9)	-	内) 褐灰 外) 褐灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。内面に7条の条線がみ られる。	Ⅱ~Ⅲ期